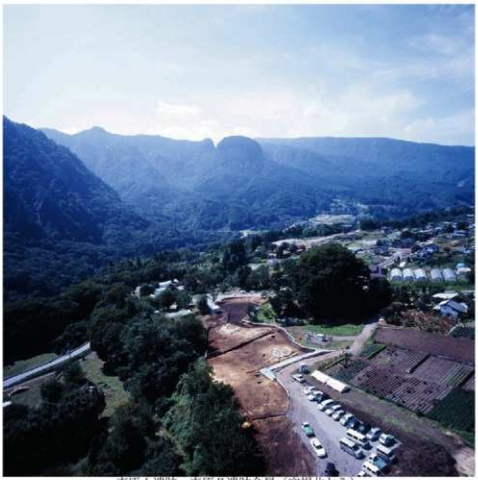
東原Ⅰ遺跡
東原Ⅱ遺跡
東原Ⅲ遺跡

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第35集

２０１０

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

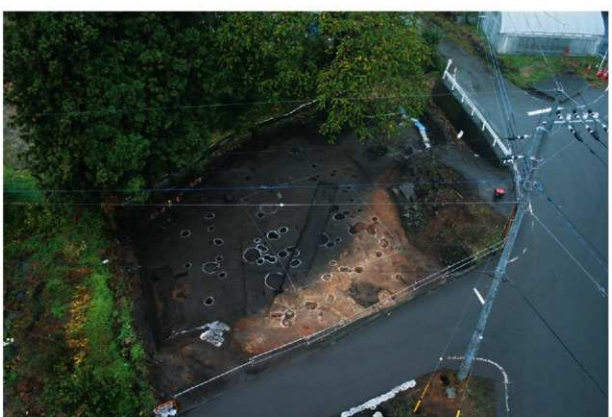
東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡と長野原町指定史跡「御塚」全景（空撮東から）



東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡全景（空撮北から）

口絵２

東原Ⅲ遺跡61区・70区南側全景（東から）



東原Ⅲ遺跡61区・70区北側全景（東から）

序

八ッ場ダムは、首都圏の生活用水や工業用水の確保および治水・発電などを目的として、関東地方の北西部を流れる吾妻川に計画され、群馬県吾妻郡長野原町などにおいて関連工事が行われています。

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査につきましては、平成６年度から現在まで継続的に行われ、今年度をもちまして17年目を迎えることとなりました。これまでに、吾妻郡内では長野原町や東吾妻町などで数多くの遺跡における発掘調査が行われています。各遺跡からは注目される貴重な遺構や遺物などの発見が相次いでおり、縄文時代から江戸時代に至るまでの周辺地域の様相が明らかとなりつつあります。

長野原町大字林に所在する東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の発掘調査につきましては、平成20年度から平成21年度にかけて発掘調査が実施されました。本書は平成20年度および平成21年度の発掘調査の成果をまとめたものであります。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡からは、縄文時代や古代に使用されていた土坑や陥し穴のほか、中世から近世の掘立柱建物や近世の礎石建物などが発見され注目されます。また、掘立柱建物や礎石建物からは関連する陶磁器、石器、金属器などの遺物が多数出土しました。

本書の刊行に至るまでに国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会および地元の関係者の皆様におかれましては日頃より多大なる御協力を賜りました。ここに心より感謝を申し上げるとともに本書がこれからも新たな歴史を解明する資料として広く活用されることを願い、序といたします。

平成22年10月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　須　田　栄　一

例　言

1．本書は、八ッ場ダム建設工事に伴い事前調査が行われた東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。平成20年（2008年）および平成21年（2009年）に行われた発掘調査の成果を報告する。

2．遺跡の所在地は、群馬県吾妻郡長野原町大字林である。

3．事業主体者は国土交通省である。

4．発掘調査は群馬県教育委員会の調整に基づき、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が国土交通省の委託を受けて実施した。

5．本報告に係わる発掘調査の期間および担当者は以下のとおりである。

平成20（2008）年度　2008年7月1日～2008年11月10日　飯森康広、宮下 寛

平成21（2009）年度　2009年4月7日～2009年6月26日　飯田陽一、麻生敏隆、飯森康広、須田正久、宮下 寛

6．整理作業の期間は以下のとおりである。

期間　平成22年（2010年）1月4日～平成22年3月31日

7．本報告書作成担当は以下のとおりである。

編集　宮下 寛

執筆　第3章第3節第2項70区1号掘立柱建物、第3章第3節第3項1号礎石建物、第4章第1節　飯森康広

第17表出土土器観察表（縄文）　藤巻幸男

第19表出土土器観察表（中・近世陶磁器）　黒澤照弘

上記以外　宮下 寛

遺物写真撮影　佐藤元彦

遺物保存処理　関 邦一、津久井桂一、多田ひさ子、増田政子

遺構・遺物写真デジタル編集　齊田智彦、牧野裕美、市田武子、酒井史恵、安藤美奈子、廣津真希子、須藤絵美、矢端真観、高梨由美子、横塚由香、下川陽子

石材同定　渡辺弘幸（甘楽町立新屋小学校）

その他　縄文土器分類・選別、実測図作成等　藤巻幸男　石器分類・選別等　小野和之　陶磁器分類・選別、実測図作成等　黒澤照弘　金属器分類・選別等　中沢 悟、篠原正洋

8．本報告書に関係する平成20年度および平成21年度の体制は以下のとおりである。

平成20年度　理事長　高橋勇夫

常務理事　津金澤吉茂　常務理事（事務局長）　木村裕紀

八ッ場ダム調査事務所

所長　中束耕志　調査研究部長　中沢 悟　庶務GL　吉田有光、若林正人

平成21年度　理事長　高橋勇夫

理事長　須田栄一（平成21年７月16日より）

常務理事　木村裕紀　事業局長　相原建史

八ッ場ダム調査事務所

所長　相原建史　調査研究部長　中沢 悟　庶務GL　吉田有光

9．発掘調査および整理事業での委託業務は下記のとおりである。

土木機械賃貸借　吉澤建設株式会社（平成20年度・平成21年度）

掘削請負　吉澤建設株式会社（平成20年度）株式会社歴史の杜（平成21年度）

遺構測量・デジタル編集業務　株式会社測研

遺物洗浄・注記業務　株式会社歴史の杜

整理補助　株式会社歴史の杜より派遣　野口幸子、角田千枝子、黒岩由美子、金子幸子、丸山里美、
市村富美江、篠原みつ子

10. 本遺跡に係わる遺構記録図面および写真、出土遺物・実測図等は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

11. 発掘調査に際しては、発掘現場作業に従事していただいた多くの方々や長野原町をはじめ本遺跡周辺地域の多くの皆様からご支援、ご協力をいただきました。ここにあらためて感謝の意を表します。

12. 発掘調査および整理事業・本報告書の作成には下記の機関・諸氏よりご指導・ご教示を頂きました。記して感謝の意を表します。（敬称略）

国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、長野原町教育委員会、藤澤良祐、富田孝彦

凡　例

1．本書で使用した座標値は日本測地系によるものであり、方位は国家座標北を表している。

2．遺構図表示には下記の縮率を用いた。

遺構位置図1/2,500　遺跡全体図1/1,000　遺構全体図1/600・1/400・1/200　土坑・ピット・柱穴列1/40掘立柱建物1/80・1/40　礎石建物1/80　炉1/40　溝・落ち込み1/80・1/40　焼土1/20　倒木1/40　旧河道断面図1/40・平面図1/150

3．八ッ場ダム建設に関連する遺跡には、YD（八ツ場ダムの略）番号を設定している。東原Ⅰ遺跡はYD4-21、東原Ⅱ遺跡はYD4-19、東原Ⅲ遺跡はYD4-20である。

4．本書では、東原Ⅰ遺跡、東原Ⅱ遺跡、東原Ⅲ遺跡ごとに一部遺構番号を付け直し、変更が多くなったため第2表遺構番号変更一覧表を掲載した。

5．遺物図の表示には、下記の縮率を用いた。

土器（縄文・中近世）：1/3・1/2　陶磁器碗・皿類1/4・1/3　すり鉢1/4　土製品1/1

石器：石鏃・石匙1/1　打製石斧・敲石・剥片1/3・1/2　砥石・硯・火打ち石1/3　碁石1/2
石臼1/6・1/3

金属器：金属製品1/2　古銭2/3　遺構図中のドット（・）は掲載遺物の出土位置を表す。

6．遺物図および遺物写真は原則として同縮率とした。

7．東原Ⅱ遺跡70区石垣および石垣周辺から出土した遺物は、遺構外出土遺物とした。

8．遺構土層注記および土器・陶磁器類の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』1998年度版を用いた。

9．遺物観察表の［　］は残存値であり、口径・底径・高さ・長さ・幅・厚さについて小数点第1位までをcm単位で、重量は電磁式はかり等を使用してｇ単位で記した。陶磁器の色調は、割れ口により判断した。

10. 遺構計測値は、縮尺1/20および1/40の図面を用いて計測し（　）は推定値を表す。遺構の主軸方向は長径方向とした。

11. テフラについては以下の略称を用いた。

YPk＝浅間草津黄色軽石（As-YPk）（新井1962）　軽川テフラ＝浅間軽川テフラ（As-Kk）　浅間B軽石＝As-B

12. 遺構写真は調査担当者が撮影した。

参考文献

新井房夫　関東盆地北西部地域の第四紀編年　群馬大学紀要自然科学編　第10巻第4号 1962

目　次

口絵
序
例言・凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

第１章　発掘調査の経過と方法
　第１節　発掘調査に至る経緯……1
　第２節　発掘調査の方法……2
　第３節　発掘調査日誌抄録……3
　第４節　整理作業の経過……4
　第５節　調査区の設定……4
　第６節　基本土層……6

第２章　地理的および歴史的環境
　第１節　周辺の地形と地質……7
　第２節　周辺の遺跡……7

第３章　検出された遺構と遺物
　第１節　東原Ⅰ遺跡……11
　　第１項　土坑・ピット……11
　　第２項　掘立柱建物・柱穴列……27
　　第３項　溝・落ち込み……31
　　第４項　立木・倒木……32
　　第５項　旧石器試掘……34
　　第６項　遺構外から出土した遺物……35
　第２節　東原Ⅱ遺跡……37
　　第１項　土坑・ピット……37
　　第２項　掘立柱建物……46
　　第３項　溝・削平面……47
　　第４項　焼土……49
　　第５項　旧石器試掘……50
　　第６項　遺構外から出土した遺物……50
　第３節　東原Ⅲ遺跡……53
　　第１項　土坑・ピット……53
　　第２項　掘立柱建物……64
　　第３項　礎石建物……69
　　第４項　焼土……72
　　第５項　旧河道……73
　　第６項　遺構外から出土した遺物……75

　・遺構番号変更一覧表……78
　・遺構計測表……80
　・出土遺物観察表……87

第４章　発掘調査の成果とまとめ
　第１節　東原Ⅰ遺跡80区調査の建物群について……93
　第２節　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の出土遺物について……94
　第３節　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡で確認された土坑（陥し穴）について……96

抄録

挿図目次

第１図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 遺跡位置図 …… 2
第２図　「地区」設定図 …… 5
第３図　「区」グリッド設定模式図 …… 5
第４図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡グリッド設定図 …… 5
第５図　基本土層位置図 …… 6
第６図　89区基本土層図NO.1 …… 6
第７図　89区基本土層図NO.2・1号テストピット西壁 …… 6
第８図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 周辺遺跡位置図 …… 8
第９図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 遺跡位置図 …… 10
第10図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡（縄文面）・東原Ⅲ遺跡（2面）全体図 …… 14
第11図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡（平安面）・東原Ⅲ遺跡（1面）全体図 …… 15
第12図　東原Ⅰ遺跡（縄文面）遺構全体図 …… 16
第13図　東原Ⅰ遺跡（平安面）遺構全体図 …… 17
第14図　東原Ⅰ遺跡 79区土坑(1)・80区土坑(1)・80区1号土坑出土遺物 …… 18
第15図　東原Ⅰ遺跡 80区土坑(2) …… 19
第16図　東原Ⅰ遺跡 80区土坑(3) …… 20
第17図　東原Ⅰ遺跡 80区土坑(4) …… 21
第18図　東原Ⅰ遺跡 80区土坑(5)・89区土坑(1) …… 22
第19図　東原Ⅰ遺跡 89区土坑(2) …… 23
第20図　東原Ⅰ遺跡 89区土坑(3) …… 24
第21図　東原Ⅰ遺跡 89区土坑(4)・90区土坑(1) …… 25
第22図　東原Ⅰ遺跡 79区ピット(1)・80区ピット(1)・89区ピット(1) …… 26
第23図　東原Ⅰ遺跡 80区4号・2号掘立柱建物・80区1号柱穴列全体図 …… 27
第24図　東原Ⅰ遺跡 80区4号掘立柱建物・4号掘立柱建物出土遺物 …… 28
第25図　東原Ⅰ遺跡 80区2号掘立柱建物(1) …… 29
第26図　東原Ⅰ遺跡 80区2号掘立柱建物(2) …… 30
第27図　東原Ⅰ遺跡 80区1号柱穴列 …… 30
第28図　東原Ⅰ遺跡 80区1号・2号溝 …… 31
第29図　東原Ⅰ遺跡 90区1号・2号溝
　　90区1号落ち込み・90区1号落ち込み出土遺物 …… 32
第30図　東原Ⅰ遺跡 90区1号側木 …… 32
第31図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡 テストピット設定図 …… 33
第32図　東原Ⅰ遺跡 79区1号・5号TP・80区1号・2号TP …… 34
第33図　東原Ⅰ遺跡 80区4号TP・89区4号TP …… 35
第34図　東原Ⅰ遺跡 遺構外出土遺物 …… 36
第35図　東原Ⅰ遺跡（縄文面）遺構全体図 …… 39
第36図　東原Ⅰ遺跡（平安面）遺構全体図 …… 40
第37図　東原Ⅱ遺跡 70区土坑(1) …… 41
第38図　東原Ⅱ遺跡 70区土坑(2) …… 42
第39図　東原Ⅱ遺跡 70区土坑(3)・80区土坑(1) …… 43
第40図　東原Ⅱ遺跡 80区土坑(2) …… 44
第41図　東原Ⅱ遺跡 80区土坑(3)・70区ピット(1)・80区ピット(1)
　　70区・80区土坑出土遺物 …… 45
第42図　東原Ⅱ遺跡 80区1号掘立柱建物 …… 46
第43図　東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 掘立柱建物全体図 …… 46
第44図　東原Ⅱ遺跡 80区2号・3号溝・側平面 …… 47
第45図　東原Ⅱ遺跡 80区1号・2号溝・側平面 …… 48
第46図　東原Ⅱ遺跡 80区1号・2号焼土 …… 49
第47図　東原Ⅱ遺跡 70区3号・5号TP …… 50
第48図　東原Ⅱ遺跡 遺構外出土遺物(1) …… 51
第49図　東原Ⅱ遺跡 遺構外出土遺物(2) …… 52
第50図　東原Ⅲ遺跡（2面）全体図 …… 53
第51図　東原Ⅲ遺跡（1面）全体図 …… 54
第52図　東原Ⅲ遺跡 61区土坑(1) …… 57
第53図　東原Ⅲ遺跡 61区土坑(2)・70区土坑(1) …… 58
第54図　東原Ⅲ遺跡 70区土坑(2) …… 59
第55図　東原Ⅲ遺跡 70区土坑(3) …… 60
第56図　東原Ⅲ遺跡 61区ピット(1)・70区ピット(1) …… 61
第57図　東原Ⅲ遺跡 70区ピット(2) …… 62
第58図　東原Ⅲ遺跡 61区・70区土坑・ピット出土遺物 …… 63
第59図　東原Ⅲ遺跡 70区掘立柱建物全体図 …… 64
第60図　東原Ⅲ遺跡 70区1号掘立柱建物(1)・1号掘立柱建物出土遺物 …… 65
第61図　東原Ⅲ遺跡 70区1号掘立柱建物(2) …… 66
第62図　東原Ⅲ遺跡 70区2号掘立柱建物 …… 66
第63図　東原Ⅲ遺跡 70区3号掘立柱建物 …… 67
第64図　東原Ⅲ遺跡 70区4号掘立柱建物・4号掘立柱建物出土遺物 …… 68
第65図　東原Ⅲ遺跡 70区1号礎石建物 …… 70
第66図　東原Ⅲ遺跡 70区1号礎石建物出土遺物 …… 71
第67図　東原Ⅲ遺跡 61区4号・2号焼土・70区4号・2号焼土
　　70区2号焼土出土遺物 …… 72
第68図　東原Ⅲ遺跡（2面）61区旧河道・1号・2号トレンチ(1) …… 73
第69図　東原Ⅲ遺跡（2面）61区旧河道・1号・2号トレンチ(2)
　　61区旧河道出土遺物 …… 74
第70図　東原Ⅲ遺跡 遺構外出土遺物(1) …… 75
第71図　東原Ⅲ遺跡 遺構外出土遺物(2) …… 76
第72図　東原Ⅲ遺跡 遺構外出土遺物(3) …… 77
第73図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡 掘立柱建物全体図 …… 93

表目次

第１表　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 周辺遺跡一覧表 …… 8
第２表　東原Ⅰ遺跡 遺構番号変更一覧表 …… 78
第３表　東原Ⅱ遺跡 遺構番号変更一覧表 …… 78
第４表　東原Ⅲ遺跡 遺構番号変更一覧表 …… 79
第５表　東原Ⅰ遺跡 土坑計測表 …… 80
第６表　東原Ⅰ遺跡 ピット計測表 …… 81
第７表　東原Ⅰ遺跡 溝計測表 …… 82
第８表　東原Ⅱ遺跡 土坑計測表 …… 82
第９表　東原Ⅱ遺跡 ピット計測表 …… 82
第10表　東原Ⅱ遺跡 溝計測表 …… 83
第11表　東原Ⅲ遺跡 土坑計測表 …… 83
第12表　東原Ⅲ遺跡 ピット計測表 …… 84
第13表　東原Ⅰ遺跡 掘立柱建物計測表 …… 85
第14表　東原Ⅱ遺跡 掘立柱建物計測表 …… 85
第15表　東原Ⅲ遺跡 掘立柱建物計測表 …… 85
第16表　東原Ⅲ遺跡 礎石建物計測表 …… 86
第17表　出土土器観察表(縄文) …… 87
第18表　出土石器観察表(縄文～近世) …… 88
第19表　出土土器観察表(中・近世陶磁器) …… 89
第20表　出土金属器観察表 …… 92
第21表　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 出土遺物数値一覧表 …… 95

写真図版目次

口絵１　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・長野原町指定史跡「御塚」
　　全景（空撮東から）
　　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡全景（空撮北から）
口絵２　東原Ⅲ遺跡61区・70区北側全景（東から）
　　東原Ⅲ遺跡61区・70区南側全景（東から）
ＰＬ１　89区2面全景（南から）
東原Ⅰ遺跡　89区東部（南から）
ＰＬ２　89区・90区中央部・南東部全景（南から）
東原Ⅰ遺跡　79区・80区・89区・90区全景（南から）
ＰＬ３　79区4号土坑（南から）
東原Ⅰ遺跡　79区2号土坑（南から）
　　79区3号土坑（南から）
　　79区4号土坑（南から）
　　79区６号土坑（西から）
　　79区1号～5号土坑（西から）
　　80区1号土坑（南から）
　　80区2号土坑（南から）
　　80区3号土坑（南から）
　　80区4号土坑（南から）
　　80区5号土坑（南から）
　　79区・80区土坑群（西から）
　　80区6号土坑（南から）
　　80区7号土坑（西から）
　　80区8号土坑（東から）
ＰＬ４　80区9号土坑（西から）
東原Ⅰ遺跡　80区10号土坑（北から）
　　80区11号土坑（西から）
　　80区12号土坑（東から）
　　80区13号土坑（西から）
　　80区14号土坑（南西から）
　　80区15号土坑（西から）
　　80区16号土坑（北から）

80区17号土坑(南から)
80区17号～23号土坑(南西から)
80区18号土坑(北東から)
80区19号土坑(南東から)
ＰＬ５　80区20号・21号土坑(北西から)
東原Ⅰ遺跡　80区22号土坑(南西から)
80区23号土坑(南東から)
89区1号土坑(西から)
89区2号土坑(北から)
89区3号土坑(南東から)
89区4号土坑(南西から)
89区4号土坑P1・P2セクション(南から)
89区5号土坑(西から)
89区6号土坑(南から)
89区7号土坑(南から)
89区8号土坑(東から)
89区9号土坑(西から)
89区10号土坑(西から)
89区11号土坑(東から)
ＰＬ６　89区12号土坑(南から)
東原Ⅰ遺跡　89区13号土坑(南東から)
89区14号土坑(南から)
89区15号土坑(南から)
89区16号土坑(南から)
89区17号土坑(南から)
89区18号土坑(南西から)
90区1号土坑(東から)
79区1号ピット(南から)
80区1号ピット(南西から)
80区5号ピット(西から)
80区6号ピット(西から)
80区7号ピット(南から)
89区1号ピット(南から)
89区2号ピット(南から)
ＰＬ７　89区3号ピット(南から)
東原Ⅰ遺跡　89区4号ピット(南から)
89区5号ピット(南から)
89区6号ピット(南から)
89区7号ピット(東から)
89区8号ピット(東から)
89区9号ピット(南東から)
89区10号ピット(南から)
89区P1・P3・P4・90区P1(南から)
80区1号掘立柱建物P1(南から)
80区1号・2号掘立柱建物・1号柱穴列(空撮)
80区1号掘立柱建物P2(南から)
ＰＬ８　80区1号掘立柱建物(南から)
東原Ⅰ遺跡　80区1号掘立柱建物P3石出土状態(西から)
80区1号掘立柱建物P4(南から)
80区1号掘立柱建物P5(南から)
80区1号掘立柱建物P6(西から)
80区1号掘立柱建物P7(西から)
80区1号掘立柱建物P8(南東から)
80区1号掘立柱建物P9(南から)
80区2号掘立柱建物P1・80区KP4(南から)
80区2号掘立柱建物P2(西から)
80区2号掘立柱建物P3・80区KP2(南から)
80区2号掘立柱建物P4(西から)
ＰＬ９　80区2号掘立柱建物P4工具痕(東から)
東原Ⅰ遺跡　80区2号掘立柱建物(南から)
80区2号掘立柱建物P5(西から)
80区2号掘立柱建物P6(西から)
80区1号柱穴列(南から)
80区1号柱穴列P1(西から)
80区1号柱穴列P2(西から)
80区削平面(南西から)
80区1号柱穴列P3(西から)
ＰＬ１０　80区1号溝(東から)
東原Ⅰ遺跡　80区2号溝(東から)
90区1号・2号溝・1号落ち込み(南から)
80区1号立木セクション(南から)
80区2号立木セクション(南から)
90区1号側木セクション(東から)
79区1号TP北壁セクション(南から)
79区5号TP北壁セクション(南から)
80区1号TP西壁セクション(東から)
80区2号TP北壁セクション(南から)
80区4号TP北壁セクション(南から)
89区1号TP西壁セクション(東から)
89区4号TP西壁セクション(南から)
89区TP設置状況(南から)
調査風景(東から)
ＰＬ１１　70区2面全景(北から)
東原Ⅱ遺跡　70区2面全景(南から)
ＰＬ１２　70区2面全景(北から)
東原Ⅱ遺跡　70区1号土坑(西から)
70区2号土坑(南から)
70区3号土坑(南から)
70区4号土坑(西から)
70区5号土坑(南から)
70区6号土坑(南から)
70区7号土坑(西から)
70区8号土坑(西から)
70区9号土坑(北西から)
70区10号土坑(南から)
70区11号土坑(東から)
ＰＬ１３　80区1号土坑(南から)
東原Ⅱ遺跡　80区2号土坑(南から)
80区3号土坑(西から)
80区4号・5号土坑・3号溝・削平面(東から)
80区6号土坑(東から)
80区7号土坑(西から)
80区8号土坑(南から)
80区9号土坑(西から)
80区10号土坑(北から)
70区1号ピット(西から)
80区1号ピット(南から)
80区2号ピット(西から)
80区1号掘立柱建物P1セクション(南から)
80区1号掘立柱建物P2(西から)
80区1号掘立柱建物P3(南から)
ＰＬ１４　80区1号掘立柱建物(南から)
東原Ⅱ遺跡　80区1号溝石出土状態(南から)
80区2号溝(東から)
80区1号焼土(南から)
80区2号焼土(南から)
70区石出(土状態)(南から)
70区石列近接(南から)
70区石列(南から)
70区3号TP北壁セクション(南から)
70区4号TP西壁セクション(南から)
70区5号TP西壁セクション(南から)
調査風景(西から)
ＰＬ１５　61区1号土坑(南東から)
東原Ⅲ遺跡　61区2号土坑(南から)
61区3号土坑(南から)
61区4号土坑(北から)
61区5号土坑(西から)
61区6号土坑(西から)
61区7号土坑(北から)
61区8号土坑(南から)
61区9号土坑(南から)
61区10号土坑(南から)
70区1号土坑(南東から)
70区2号土坑(北から)
70区3号土坑(東から)
70区3号土坑底部近接(東から)
70区4号土坑(南から)

ＰＬ１６　70区5号土坑(南から)
東原Ⅲ遺跡　70区東部全景(東から)
70区6号土坑(東から)
70区7号土坑(西から)
70区9号土坑(東から)
70区10号土坑(西から)
70区11号土坑(西から)
70区12号土坑(南東から)
70区13号土坑(南東から)
70区14号土坑(西から)
70区15号土坑(西から)
70区16号土坑(西から)
ＰＬ１７　70区17号土坑(西から)
東原Ⅲ遺跡　70区18号土坑(南から)
70区19号土坑(西から)
70区20号土坑(西から)
70区21号土坑(西から)
70区22号土坑(西から)
61区1号ピット(西から)
61区2号ピット(南西から)
61区3号ピット(南西から)
61区4号ピット(南東から)
61区5号ピット(南から)
61区7号ピット(南から)
61区8号ピット(南から)
61区9号ピット(南から)
61区10号ピット(南東から)
ＰＬ１８　61区11号ピット(北から)
東原Ⅲ遺跡　61区12号ピット(南から)
61区13号ピット(南から)
61区14号ピット(北から)
61区15号ピット(北から)
70区2号ピット(東から)
70区3号ピット(西から)
70区4号ピット(西から)
70区5号ピット(東から)
70区8号ピット石出土状態(南東から)
70区9号ピット(北から)
70区10号ピット(南西から)
70区11号ピット(西から)
70区12号ピット(西から)
70区13号ピット(南から)
ＰＬ１９　70区14号ピット(南から)
東原Ⅲ遺跡　70区9号・15号ピット(北から)
70区16号ピット(西から)
70区17号ピット(南から)
70区9号・15号・16号・18号ピット(南から)
70区18号ピット(南から)
70区19号ピット(南東から)
70区20号ピット(南から)
70区21号ピット(南から)
70区1号掘立柱建物P1(南東から)
70区1号～4号掘立柱建物(東から)
70区1号掘立柱建物P2・61区P6(西から)
ＰＬ２０　70区1号～4号掘立柱建物(東から)
東原Ⅲ遺跡　70区1号掘立柱建物P3(西から)
70区1号掘立柱建物P4石出土状態(東から)
70区1号掘立P5・4号掘立P2(西から)
70区1号掘立柱建物P5(西から)
70区1号掘立柱建物P6(東から)
70区1号掘立柱建物P7(北から)
70区1号掘立柱建物P8(南から)
70区1号掘立柱建物P9石出土状態(西から)
70区1号掘立柱建物P10(東から)
70区1号掘立P11・3号掘立P1(北西から)
70区1号掘立柱建物P12(南から)
ＰＬ２１　70区1号掘立柱建物P13(東から)
東原Ⅲ遺跡　70区1号掘立柱建物P14(東から)
70区1号掘立柱建物P15(南から)
70区1号掘立柱建物P16(南から)
70区1号掘立柱建物P17(南から)
70区1号掘立柱建物P18(南から)
70区1号掘立柱建物P19(西から)
70区2号掘立柱建物P1(南から)
70区2号掘立柱建物P2(南から)
70区2号掘立柱建物P3(南から)
70区2号掘立柱建物P4(南から)
70区2号掘立柱建物P5(西から)
70区2号掘立柱建物P6石出土状態(東から)
70区3号掘立P2・4号掘立P7(南から)
70区3号掘立P3・70区P1(北西から)
ＰＬ２２　70区3号掘立柱建物P4(南から)
東原Ⅲ遺跡　70区3号掘立柱建物P5・8号土坑(西から)
70区3号掘立柱建物P6(西から)
70区4号掘立柱建物P1(北から)
70区4号掘立柱建物P3(西から)
70区4号掘立柱建物P4・70区P7(西から)
70区4号掘立柱建物P5石出土状態(西から)
70区4号掘立柱建物P6石出土状態(東から)
70区4号掘立柱建物P8(南から)
70区4号掘立柱建物P9(南西から)
70区4号掘立柱建物P10(東から)
70区4号掘立P11セクション(南東から)
70区1号礎石建物S1セクション(南から)
70区1号礎石建物S3セクション(南から)
70区1号礎石建物S4セクション(南から)
ＰＬ２３　70区1号礎石建物S5セクション(南から)
東原Ⅲ遺跡　70区1号礎石建物(東から)
70区1号礎石建物S5(南から)
70区1号礎石建物S5・敲方下(南から)
70区1号礎石建物S6セクション(南から)
70区1号礎石建物S7セクション(南から)
70区1号礎石建物S8セクション(南から)
70区1号礎石建物S9セクション(南から)
70区1号礎石建物S10セクション(南から)
70区1号礎石建物S12セクション(南から)
70区1号礎石建物遺物出土状態(南から)
70区1号礎石建物北側石列(南から)
ＰＬ２４　61区1号炉使用面(南から)
東原Ⅲ遺跡　61区1号炉敲方(南から)
61区1号焼土確認状態(南から)
61区2号焼土確認状態(西から)
61区2号焼土敲方(南から)
70区1号焼土(西から)
70区2号焼土セクション(北から)
70区1号トレンチセクション(南から)
70区2号トレンチセクション(南東から)
61区旧河道全景(北から)
61区旧河道全景(南から)
70区20号・21号・22号土坑(北から)
調査風景(東から)
調査風景(東から)
調査風景(東から)
ＰＬ２５　東原Ⅰ遺跡80区1号土坑出土遺物
東原Ⅰ遺跡80区1号掘立柱建物出土遺物
東原Ⅰ遺跡90区1号落ち込み出土遺物
東原Ⅰ遺跡79区・80区・89区遺構外出土遺物
東原Ⅱ遺跡70区・80区土坑出土遺物
東原Ⅱ遺跡70区・80区遺構外出土遺物
ＰＬ２６　東原Ⅱ遺跡70区・80区遺構外出土遺物
東原Ⅲ遺跡61区・70区土坑・ピット出土遺物
ＰＬ２７　東原Ⅲ遺跡70区1号掘立柱建物出土遺物
東原Ⅲ遺跡70区4号掘立柱建物出土遺物
東原Ⅲ遺跡1号礎石建物・1号炉出土遺物
東原Ⅲ遺跡61区2号焼土出土遺物
東原Ⅲ遺跡61区旧河道出土遺物
東原Ⅲ遺跡61区・70区遺構外出土遺物
ＰＬ２８　東原Ⅲ遺跡61区・70区遺構外出土遺物

第1章　発掘調査の経過と方法

第１節　発掘調査に至る経緯

関東地方を流れる利根川の代表的な支川のひとつである吾妻川は、群馬県と長野県の県境に位置する鳥居峠を源流とする。群馬県北西部の吾妻郡内にある万座川、白砂川、四万川など複数の支川を集めて東に流れ、渋川市白井で利根川と合流する一級河川である。

八ッ場ダムは、群馬県の北西部に位置する吾妻郡長野原町に治水および生活用水や工業用水の確保、発電等を主な目的として建設が計画され、総貯水量1,075億㎥となる重力式コンクリートダムである。

八ッ場ダム建設の計画は、昭和22年（1947年）のキャサリン台風による災害をきっかけに、「昭和24年利根川改修改定計画」の一環として昭和27年5月に調査を開始した。平成4年7月に「八ッ場ダム建設事業に係る基本協定書」及び「用地補償調査に関する協定書」が締結され本格着工となった。

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査に関連して以下に記す協定書が締結されている。まず始めに平成6年3月18日に建設省（現国土交通省）関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長との間で「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協議書」が締結され、平成6年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長によって発掘調査受委託契約を、同年同日に群馬県教育委員会教育長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長によって発掘調査受委託契約が締結された。この締結によって、八ッ場ダム建設事業に係わる埋蔵文化財調査が開始されることとなった。平成11年4月1日には、建設省（現国土交通省）関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長および群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」（第1回変更）が締結され、受託者が群馬県教育委員会教育長から群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長に変更された。その後、平成17年4月1日に建設省（現国土交通省）関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長および群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で同協定書（第2回変更）が締結され、発掘調査の期間が「平成18年3月31日」から「平成23年3月31日」に改正された。さらに、平成20年3月27日には国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長および群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で同協定書（第3回変更）が締結され、概算総額のほか発掘調査期間が「平成23年3月31日」から「平成28年3月31日」に改められた。

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡は、吾妻郡長野原町大字林字東原に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である。長野原町大字林地区周辺においても八ッ場ダム建設関連工事が日々進捗している状況である。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡は、国道145号線新設工事に伴い、平成20年3月21日から3月26日に群馬県教育委員会文化課による試掘・確認調査が実施された。さらに、平成20年6月25日・26日に群馬県教育委員会文化財保護課による試掘調査の結果、土坑や陥し穴、ピット、溝などの遺構のほか縄文土器が確認されたため、本格的な発掘調査が必要であると判断された。本遺跡の総延長は約250mと南北に長く、北から南に東原Ⅰ遺跡、東原Ⅱ遺跡、町道を挟んで東原Ⅲ遺跡とそれぞれが隣接し、さらに、谷地形によって林中原Ⅱ遺跡と分かれている。

平成20年度の発掘調査は、平成20年7月1日から開始され調査区面積は10,584㎡である。東原Ⅱ遺跡の一部から発掘調査を開始したのち、東原Ⅰ遺跡、東原Ⅱ遺跡、東原Ⅲ遺跡の順に継続して調査を行い平成20年11月10日で終了した。群馬県教育委員会文化財保護課による平成20年度の試掘調査では、東原Ⅰ遺跡（平成20年12月4日）、東原Ⅲ遺跡（平成21年2月25日）の試掘調査の結果、遺構などは検出されず、本調査は不要と判断された。

平成21年度は、東原Ⅲ遺跡南側の発掘調査を実施し調査面積は487㎡である。平成21年4月2日から開始し、平成21年6月26日に発掘調査が終了となった。

群馬県教育委員会文化財保護課による平成21年度

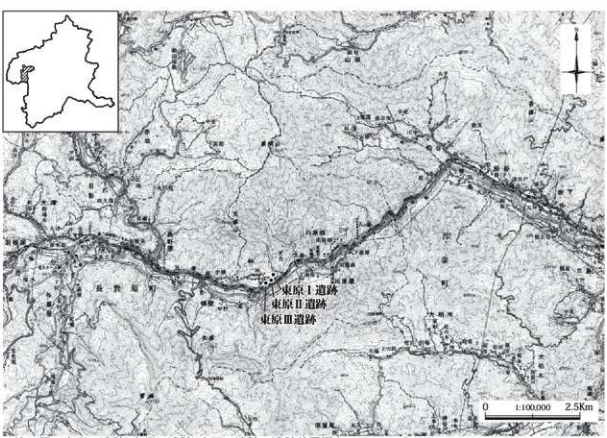
の試掘では、東原Ⅰ遺跡（平成21年8月24日）、東原Ⅲ遺跡（平成21年10月16日）の試掘調査の結果、遺構などは確認されず本調査は不要と判断された。

第２節　発掘調査の方法

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡は、長野原町大字林、吾妻川左岸の土位段丘面に位置する。標高はおよそ610～630mに及び、北側の山から南に緩やかに下る傾斜地である。本遺跡の表土を掘削すると谷地形となり、一部では起伏が激しく覆土が2mほど厚い部分もある。また、一部ではあるがローム面において地割れ跡なども確認できる。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の西側には、長野原町指定史跡となっている「御塚（おづか）」と呼ばれる墳墓がある。

平成19年の群馬県教育委員会文化課による本遺跡の試掘によって、土坑や陥し穴などの遺構が確認されていることから、平成20年（2008年）の発掘調査では、大型重機（バックホー）を使用した表土掘削を実施し第1面目（平安時代以降）および第２面目（縄文時代）の調査を行った。大型重機による表土掘削のあとは作業員の鋤簾や移植ごてによる遺構検出作業を進めながら発掘調査を行い、東原Ⅰ遺跡では、土坑48基、ピット37基（掘立柱建物の柱穴を含む）、掘立柱建物2棟、柱穴列1基、溝4条、落ち込み１基が検出された。東原Ⅱ遺跡では、土坑21基、ピット6基、掘立柱建物1棟、溝3条、焼土2基が検出された。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡に継続して、東原Ⅲ遺跡の発掘調査では、大型重機（バックホー）を使用した表土掘削を実施したのち、第1面目および第2面の調査によって土坑22基、ピット66基（土坑、ピットには掘立柱建物の柱穴を含む）、掘立柱建物4棟、焼土2基が検出された。平成21年（2009年）東原Ⅲ遺跡での発掘調査では、調査区の南側を拡張し土坑15基、ピット9基、礎石建物1棟、炉1基、焼土2基が検出されている。

旧石器試掘調査は、東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡において試掘トレンチ（テストピット）をグリッドごと



第１図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡　遺跡位置図（1:100,000）[国土地理院1:50,000地形図、草津・中之条を編小して使用]

に設定して調査を行った。

遺物の取り上げについては、4mグリッド一括取り上げおよび遺構地点別取り上げを適宜行った。

遺構測量については、遺構断面測量を測量委託業者によってデジタル処理を行い、遺構の種類に合わせて委託業者によるデジタル平板測量を行った。

遺構写真全般については、デジタルカメラ（Canon EOS Kiss Digital X）と6×7版モノクロカメラを併用し、現場担当者が地上撮影およびローリングタワーや高所作業車などを使用して撮影した。また東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡では、委託業者によるラジコンヘリを使用した空中写真撮影を実施した。

第３節　発掘調査日誌抄録

平成20年度（2008年）

7.1 東原Ⅱ遺跡の発掘調査開始（発掘現場プレハブ設置予定場所）バックホーを使用した表土掘削、クローラーによる残土運搬

7.2 東原Ⅰ遺跡の表土掘削開始

7.3 東原Ⅱ遺跡（プレハブ用地）1面全景写真撮影、2面掘削開始土坑・ピット確認

7.9 東原Ⅱ遺跡（プレハブ用地）2面全景写真撮影

7.16 東原Ⅰ遺跡１～４号土坑（陥し穴）調査開始

7.23 東原Ⅰ遺跡 89区1面全景写真撮影

7.24 東原Ⅰ遺跡 89区2面調査開始

7.29 東原Ⅰ遺跡 89区南東部1面全景写真撮影　テストピット1～4着手

8.1 東原Ⅰ遺跡 89区2面全景写真撮影（高所作業車）旧石器試掘（テストピット3,6,7,8）着手

8.5 東原Ⅰ遺跡 80・79区表土掘削開始

8.6 東原Ⅰ遺跡 80・79区土坑 陥し穴確認

8.7 東原Ⅰ遺跡 79区立木伐採終了 89区表土掘削開始 陥し穴6基検出

8.19 東原Ⅰ遺跡 89区 土坑群全景写真撮影・測図

8.20 東原Ⅰ遺跡 79・80・89・90区全景写真撮影（高所作業車）79・80区テストピット調査継続

8.25 東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡 80区表土掘削開始

8.26 東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡 80区削平面確認

8.27 東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡 80区表土掘削 クローラーによる残土運搬 陥し穴確認

9.2 東原Ⅰ遺跡 80区1号掘立柱建物 ピット群調査開始 東原Ⅱ遺跡 70区石垣調査開始

9.3 東原Ⅰ遺跡 80区1・2号掘立柱建物 1号柱穴列削平面全景写真撮影 東原Ⅱ遺跡 1号掘立柱建物　陥し穴全景写真撮影・測図

9.9 東原Ⅱ遺跡 石垣周辺1面全景写真撮影

9.11 東原Ⅰ遺跡 土坑全景写真撮影 東原Ⅱ遺跡70区・80区土坑全景写真撮影 石垣調査継続 東原Ⅲ遺跡のスズメバチ駆除

9.17 東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡 空中写真撮影 東原Ⅰ遺跡 80区1号・2号掘立柱建物全景写真撮影

9.26 東原Ⅱ遺跡 70区2面全景写真撮影 テストピット着手 東原Ⅲ遺跡 70区東表土掘削開始

9.29 東原Ⅲ遺跡 70区東 陥し穴2基確認 縄文土器など多数出土

10.3 東原Ⅲ遺跡 70区東 全景写真撮影 東原Ⅱ遺跡テストピット調査継続

10.7 東原Ⅲ遺跡 70区西 表土掘削開始

10.17 東原Ⅲ遺跡 70区西 土坑・ピット写真撮影

10.23 東原Ⅲ遺跡 70区西 中・近世面全景写真撮影 東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡の一部を国土交通省へ引渡し

10.24 東原Ⅲ遺跡 70区西側杉4本伐採委託

11.4 東原Ⅰ遺跡 80・89区表土掘削開始 陥し穴1基 東原Ⅲ遺跡 61区ピット写真撮影・測図

11.4 東原Ⅰ遺跡 80・89区 土坑 陥し穴調査

11.6 東原Ⅰ遺跡 80区表土掘削終了 土坑写真撮影・測図　東原Ⅲ遺跡旧河道調査開始

11.7 東原Ⅰ遺跡 80区全景写真撮影 調査終了 東原Ⅲ遺跡土坑・ピット・旧河道調査継続

11.10 東原Ⅲ遺跡 61区・70区旧河道全景写真撮影・測図　土坑・ピット全景写真・測図 調査終了

11.11 東原Ⅰ遺跡 国土交通省へ引渡し

平成21年度（2009年）

4.7 東原Ⅲ遺跡の発掘調査開始 バックホーを使用した表土掘削 クローラーによる残土運搬

4.8 表土掘削終了 近世面調査開始

4.10 1号礎石建物精査　土坑・ピット写真撮影・測図

4.13 土坑・ピット全景写真撮影・測図

4.14 1号礎石建物 土坑・ピット全景写真撮影（高所作業車）

4.20 1号礎石建物堀方調査 1・2号焼土堀方調査 土坑・ピット調査

4.21 1号礎石建物調査継続

4.22 東原Ⅲ遺跡の一部（392㎡）を国土交通省へ引渡し

6.23 東原Ⅲ遺跡70区表土掘削開始

6.25 東原Ⅲ遺跡70区35・36・37号土坑写真撮影・測図

6.26 東原Ⅲ遺跡70区35・36・37号土坑（20・21・22号土坑に変更）および調査区全景写真撮影

調査終了により95㎡を国土交通省へ引渡し

第４節　整理作業の経過

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の整理作業は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団八ッ場ダム調査事務所において平成22年1月4日から平成22年3月31日まで3ヶ月間実施した。まず、各遺跡から出土した遺物の接合・復元を行った後、遺物を選別し実測、トレース、拓本作成等を行った。遺構図は、遺構測量委託によって納品された図面を用いて編集・修正等を行い、外部委託によるデジタル図版を作成した。遺物写真は、平成21年2月1日にデジタルカメラを使用して撮影し、遺構写真とともにデジタル図版を作成した。整理作業終了により平成22年度報告書刊行に至った。本遺跡で出土した遺物・図面・写真等すべての資料は、埋蔵文化財調査センターに収納した。

第５節 調査区の設定

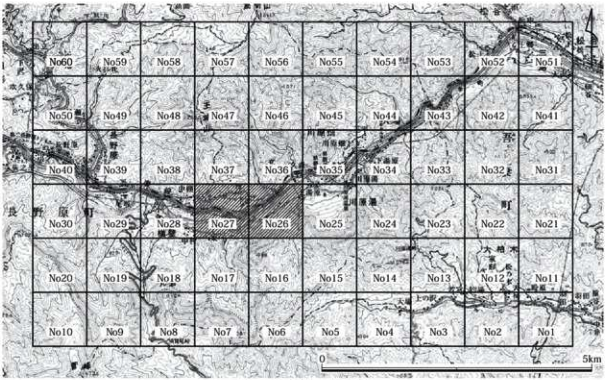
八ッ場ダム建設に伴う発掘調査が、平成6年（1994年）より開始され「八ッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」について関連する各町村と協議した結果、遺跡名称や略号、グリッド設定等が定められた。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の発掘調査もこれらの方法に準拠している。以下その一部を掲載する。

①八ッ場ダム建設に関連する遺跡には、YD（八ッ場ダムの略）番号を設定した。長野原町の大字5地区（1.川原畑 2.川原湯 3.横壁 4.林 5.長野原）、東吾妻町の大字３地区（6.三島 7.大柏木 8.松谷）に番号を付けた。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の所在する長野原町大字林はYD4である。

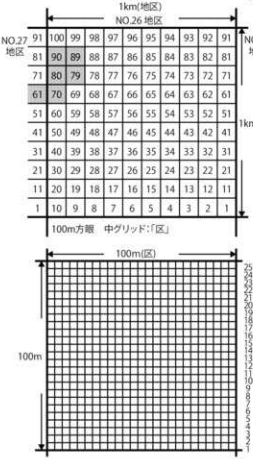
②発掘調査対象地には、国家座標（2002年４月改訂以前の日本測地系）に基づきグリッドを設定した。座標値X＝＋58000.0、Y＝－97000.0を原点とし1ｋｍ方眼で60カ所の区画を設定し「地区」（大グリッドと呼ぶ）とする。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡はNO.26地区、NO.27地区に所在する。（第2図参照）

③次に、1ｋｍ方眼の中を100m方眼に分割し、「区」（中グリッドと呼ぶ）とする。南東隅は1区となり、南東隅から南西隅まで10区続いた後、1区の北側が11区となり同様に西へ20区まで続く。この配列により1ｋｍ方眼の北西隅が100区となるように設定している。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡はNO.26地区「70区」「79区」「80区」「89区」「90区」の中グリッドにある。東原Ⅲ遺跡は、NO.26地区「70区」NO.27地区「61区」となり2つの地区からなる。80区には東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡、70区には東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡が位置している。（第3図、第4図参照）

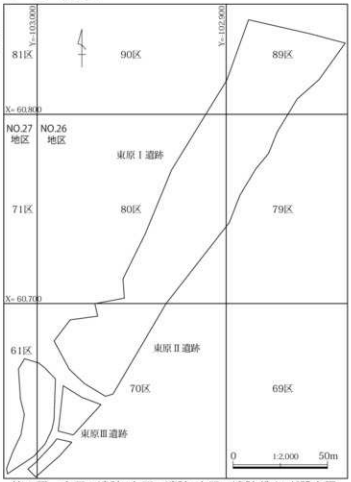
④100m方眼の「区」は、さらに4m方眼に細分割され、「グリッド」（小グリッドと呼ぶ）とする。まず東から西へAからYまでのアルファベット25字を、南から北へ1から25の数字をそれぞれ割り当て、その交点となる南東隅を起点としてグリッドを呼称している。（第3図参照）



第２図　「地区」設定図



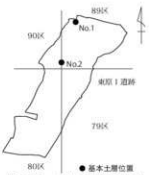
第３図　「区」「グリッド」設定模式図



第４図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡グリッド設定図

第６節　基本土層

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の基本土層については、東原Ⅰ遺跡NO.26地区89区W－10，11グリッドにおいて、Ⅰ層からⅦ層についての観察を行った。さらに、Ⅷ層からⅪ層については、旧石器試掘調査を実施したNO.26地区89区Y－2グリッド1号テストピットにおいて、それぞれ断面実測及び断面観察を行ったものである。基本土層を確認した二つの地点は、およそ30mほど離れており堆積状況の多少の違いはあるが、ほぼ同じ様相を表している。これらの断面観察を基にして、以下のような基本土層を設定しローマ数字で表記した。



第５図　基本土層位置図

NO.26地区89区W－10，11グリッド

基本土層図NO．1

Ⅰ層：褐色土 表土

Ⅱ層：褐灰色土 黄灰色シルト(As-BかAs-Kk ？)をブロック状に含む

Ⅲ層：黒褐色土 褐灰色土を小斑文状に含む

Ⅳ層：黒褐色土 褐灰色土をモザイク状に多く含む

Ⅴ層：黒褐色土 YPk少量

Ⅵ層：ローム漸移層 YPk少量

Ⅶ層：黄褐色ローム YPk少量 根攪乱多い

NO.26地区89区Y－2グリッド

基本土層図NO．2

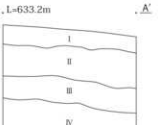
Ⅷ層：黄褐色～褐色ローム ハードローム 下面層境に白色軽石が入る

Ⅸ層：黄褐色ローム 細粒白色軽石少量 やや粘質

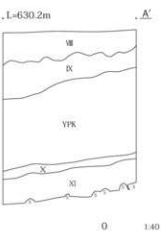
YPk：上から細粒軽石、硬化した桃色アッシュ、硬化した灰色アッシュ、経1cm以下の黄色軽石、細粒の黒灰色アッシュのユニット

Ⅹ層：黄褐色ローム　径1cm大の風化した黄色軽石を多く含む　やや粘質

Ⅺ層：礫混じり灰褐色ローム 人頭大の亜角礫主体崩れやすい As-YPk



第６図　89区基本土層図No．1



第７図　89区基本土層図No．2（１号テストピット西壁）

参考文献

『八ッ場ダム発掘調査集成(1)』2002　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団第303集

『立馬Ⅲ遺跡』2009　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団第457集

『上郷Ａ遺跡』2009　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団第473集

第２章　地理的および歴史的環境

第１節　周辺の地形と地質

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字林に所在する。長野原町は吾妻郡内において東吾妻町、草津町、中之条町（旧六合村）、嬬恋村のほか、群馬県高崎市や長野県軽井沢町などの市町村と隣接している。長野原町は、明治22年（1889年）の町村制施行に伴い10町村（長野原町、大津村、羽根尾村、与喜屋村、古森村、川原畑村、川原湯村、横壁村、林村、応桑村）が合併し、現在に至っている。それまでの町村名は大字で呼ばれるようになっている。

長野原町を流れる吾妻川は、群馬・長野県境に位置する吾妻郡嬬恋村の鳥居峠を源流とした利根川水系の支流の一つである。吾妻川は長野原町において、久森沢川、白砂川、熊川、八ッ場沢などの数多くの川や沢などの支流を集めて吾妻渓谷を流れた後、渋川市白井で利根川と合流する。吾妻渓谷は「関東の耶馬渓（耶馬渓の所在地は大分県中津市）」と呼ばれる国指定の名勝である。溶岩などの岩石が吾妻川による浸食を受けて形成された約4kmにわたる渓谷である。吾妻渓谷では断崖絶壁や奇岩、沢や瀑布のほか春からの新緑や秋の紅葉など1年をとおして美しい景色を遊歩道などから眺望することができる。

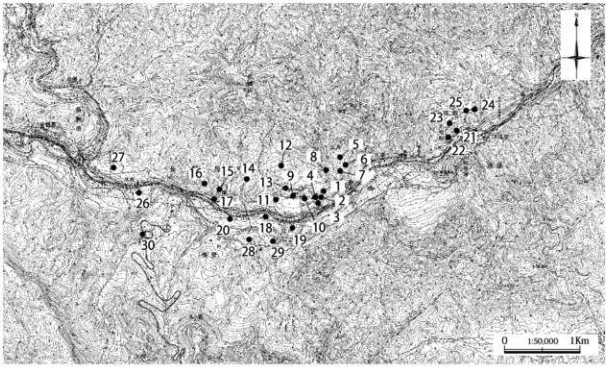
東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡は、吾妻川の左岸、上位段丘緩傾斜面に位置する。標高は631mから611mである。本遺跡の北西に所在する王城山（1,123.2m）をはじめ、周辺地域には高間山（1,341.7m）、や丸岩（1,130m）など1,000mを超える山々が連なっている。さらに、周辺地域にさまざまな影響を与えている浅間山（2,586m）がある。地質形成においては、ロームに浅間草津黄色軽石（As-YPk：1.3～1.4万年前）の堆積が見られる。本遺跡は上位段丘面に位置するため、天明三年（1873年）の浅間山噴火によって発生した吾妻川の泥流による影響は受けていない。ローム下には応桑泥流と呼ばれる泥流堆積物による礫層が見られる。調査前の遺跡地は一部住宅地のほか、畑地、雑木林などであった。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡の東側に隣接して、長野原町指定史跡で江戸時代初期の墳墓である「御塚（おんづか）」が所在する。

第２節　周辺の遺跡

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の所在する長野原町では、これまで広域にわたる遺跡の発掘調査が実施され、貴重な遺構や遺物の発見などが相次いでいる。本遺跡周辺に所在する遺跡についても発掘調査報告書などが現在までに数多く刊行され、詳細な報告が行われている。本報告書では、東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡が所在する長野原町林地区を中心として、主な遺跡について時代別に概略を記すこととする。

旧石器時代　これまでに該期の遺跡は確認されていない。柳沢城跡（第8図30）において細石器文化期と考えられる珪質頁岩製のスクレイパーが出土している。

縄文時代　長野原町では、縄文時代の遺跡が広範囲に分布している。これまでの発掘調査によって長野原町の縄文時代の様相が明らかとなってきている。草創期の遺跡は少ないが、石畑岩陰遺跡において表裏縄文土器などが出土し、横壁勝沼遺跡（第8図29）からは表採ではあるが槍先形尖頭器の出土がある。早期では、平成12・13年調査の楡木Ⅱ遺跡（第8図16）や平成14年調査の立馬Ⅰ遺跡（第8図5）において早期の住居跡が検出されている。前期では、楡木Ⅱ遺跡において黒浜式、有尾式、諸磯式期の住居跡が確認されている。中期から遺跡の数が増加し、立馬Ⅱ遺跡（第8図6）や楡木Ⅱ遺跡において五領ヶ台式、阿玉台式期の住居跡が確認されている。中期後半からは、横壁中村遺跡（第8図28）や長野原一本松遺跡（第8図27）においてともに250軒以上の住居跡が発見され、後期にかけての大規模集落の営みが明らかとなった。また、平成20・21年に発掘調査が行われた林中原Ⅱ遺跡（第8図10）においても120軒以上の住居跡が見つかり、中期から後期に至



第８図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡　周辺遺跡位置図(1:50, 000) [国土地理院1:25,000地形図]

第1表　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 周辺遺跡一覧表

NO	遺跡名	所在地	時代	備考
1	東原Ⅰ遺跡	林	縄文・平安・近世	長野原町教委2006「町内遺跡VI」平成20年県事業団による調査 群埋文2009年「年報28」本報告書
2	東原Ⅱ遺跡	林	縄文・平安・近世	平成20年県事業団による調査 群埋文2009年「年報28」本報告書
3	東原Ⅲ遺跡	林	縄文・近世	平成20・21年県事業団による調査 群埋文2009年「年報28」本報告書
4	林の御塚遺跡	林	縄文・近世	平成7・10年試掘調査　群埋文第303集「八ッ場ダム発掘調査集成(1)」
5	立馬Ⅰ遺跡	林	縄文・弥生・平安中世・近世	平成14・17年県事業団による調査 群埋文第388集「立馬Ⅰ」
6	立馬Ⅱ遺跡	林	縄文・弥生・平安	平成14年県事業団による調査 群埋文第375集「立馬Ⅱ」
7	立馬Ⅲ遺跡	林	縄文・平安	平成14年県事業団による調査 群埋文第457集「立馬Ⅲ」
8	花畑遺跡	林	縄文・平安	平成10・11・12年県事業団による調査 群埋文第303集「八ッ場ダム発掘調査集成(1)」
9	林中原Ⅰ遺跡	林	縄文・平安・中世	平成16・19・20・21年県事業団による調査 群埋文2008年「年報27」 群埋文2009年「年報28」
10	林中原Ⅱ遺跡	林	縄文・弥生・近世	平成16・20・21年県事業団による調査 群埋文2008年「年報27」 群埋文2009年「年報28」
11	林宮原Ⅱ遺跡	林	縄文・古墳・平安	長野原町教委2004「町内遺跡IV」
12	上原Ⅱ遺跡	林	平安	平成16年県事業団による調査 群埋文2005年「年報24」
13	上原Ⅳ遺跡	林	縄文	平成15・21年県事業団による調査 群埋文第429集「山根遺跡(2)・上原Ⅳ遺跡・幸神遺跡」
14	二反沢遺跡	林	中世・近世	平成12年県事業団による調査 群埋文第379集「上郷B遺跡・叢石A遺跡・二反沢遺跡」
15	檜木Ⅰ遺跡	林	縄文・平安	平成21年県事業団による調査
16	檜木Ⅱ遺跡	林	縄文・平安・中世	平成12・13・16・17年県事業団による調査 群埋文第432集「檜木Ⅱ遺跡(1)」群埋文第458集「檜木Ⅱ遺跡(2)」
17	檜木Ⅲ遺跡	林	縄文・弥生・平安・中世	平成10年県事業団による調査 群埋文第303集「八ッ場ダム発掘調査集成(1)」
18	下原遺跡	林	古墳・平安・中世・近世	平成12・13・15・16年県事業団による調査 群埋文第319集「久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡」群埋文第389集「下原遺跡Ⅱ」
19	下田遺跡	林	縄文・近世	平成7年県事業団による調査 群埋文第303集「八ッ場ダム発掘調査集成(1)」
20	中棚Ⅱ遺跡	林	近世	平成11・12・13・15年県事業団による調査 群埋文第319集「久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡」群埋文第349集「久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡」
21	東宮遺跡	川原畑	近世	平成7・9年県事業団による調査 群埋文第303集「八ッ場ダム発掘調査集成(1)」 平成19・20・21年県事業団による調査 群埋文2008年「年報27」 群埋文2009年「年報28」
22	西宮遺跡	川原畑	縄文・近世	平成20年県事業団による調査 群埋文2008年「年報27」 群埋文2009年「年報28」
23	上ノ平Ⅰ遺跡	川原畑	縄文・平安	平成18・19年県事業団による調査 群埋文第440集「上ノ平Ⅰ遺跡」
24	三平Ⅰ遺跡	川原畑	縄文・弥生・平安	平成16・17年県事業団による調査 群埋文第401集「三平Ⅰ・Ⅱ遺跡」
25	三平Ⅱ遺跡	川原畑	縄文・平安・中世	平成16年県事業団による調査 群埋文第401集「三平Ⅰ・Ⅱ遺跡」
26	尾坂遺跡	長野原	近世	平成10・18・19・20・21年県事業団による調査 群埋文第303集「八ッ場ダム発掘調査集成(1)」
27	長野原一本松遺跡	長野原	縄文・平安・中世・近世	平成6～17・19・20年県事業団による調査 群埋文第287集「長野原一本松遺跡(1)」群埋文第408集「長野原一本松遺跡(2)」群埋文第433集「長野原一本松遺跡(3)」群埋文第441集「長野原一本松遺跡(4)」
28	横壁中村遺跡	横壁	縄文・弥生・平安・中世近世	平成8～18年県事業団による調査 群埋文第319集「久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡」、群埋文第355集「横壁中村遺跡(2)」、第368集「横壁中村遺跡(3)」、第381集「横壁中村遺跡(4)」、第406集「横壁中村遺跡(5)」、第436集「横壁中村遺跡(6)」、第439集「横壁中村遺跡(7)」、第462集「横壁中村遺跡(8)」、第466集「横壁中村遺跡(9)」
29	横壁勝沼遺跡	横壁	縄文・弥生・平安・中世近世	平成9・15・16年県事業団による調査 群埋文第303集「八ッ場ダム発掘調査集成(1)」
30	柳沢城跡	横壁	中世	群馬県教育委員会「中世の城館跡」798

る大集落の存在が新たに確認されている。晩期では、川原湯勝沼遺跡において2基の土器を埋設した土坑が検出され、再葬墓の可能性がある。岩畑岩陰遺跡では、氷Ⅰ式、安行式、千網式土器などが見つかっている。立馬Ⅰ遺跡において住居跡が調査されている。

弥生時代　前期では、横壁中村遺跡において再葬墓の可能性がある樫王式の甕を埋設した土坑が確認されている。立馬Ⅰ遺跡では中期前半～後半の住居跡が確認されている。平成21年の林中原Ⅱ遺跡の発掘調査では、土器の出土が多く住居跡のほか胴部下半を打ち欠いた壺を伴う土坑などが検出された。

古墳時代　「上毛古墳綜覧」によると吾妻郡内には274基の古墳が存在するとされているが、長野原町ではこれまでに発掘調査によって確認された古墳はない。また、遺跡の数も少なく林宮原Ⅱ遺跡（第8図11）や下原遺跡（第8図19）において中期の住居跡がそれぞれ１軒確認されている。

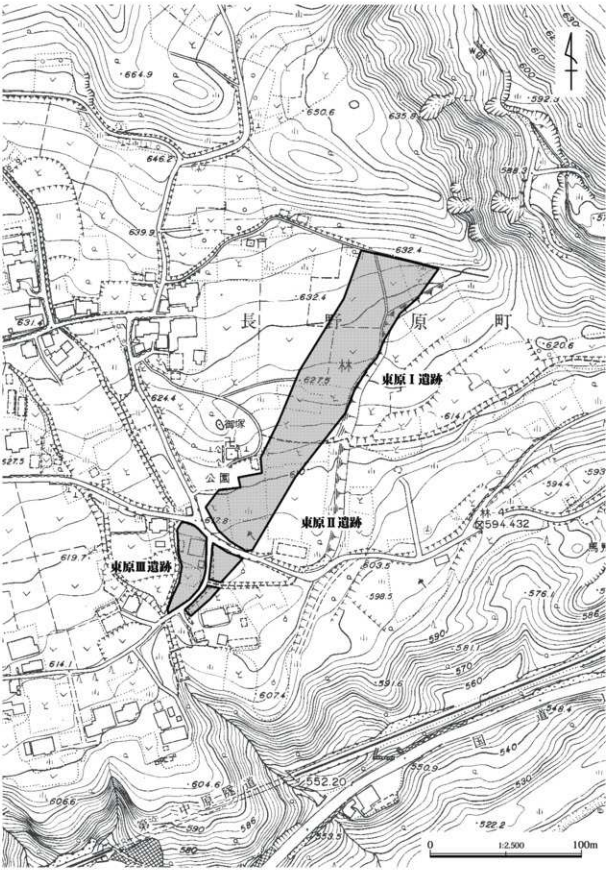
奈良・平安時代　奈良時代の遺跡は少なく羽根尾Ⅱ遺跡のみであるが、平安時代の遺跡については広範囲にわたって発掘調査が行われ、楡木Ⅱ遺跡、横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡、花畑遺跡（第8図８）、立馬Ⅰ遺跡、川原湯勝沼遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡（第8図23）でそれぞれ多くの住居跡が確認されている。平成17年長野原町教育委員会において東原Ⅰ遺跡（第8図1）の発掘調査が実施され、須恵器や土師器などの遺物や住居跡1軒が確認されている。平成21年に発掘調査が行われた楡木Ⅰ遺跡（第8図15）では9世紀後半の住居跡が4軒確認されている。

中世　吾妻郡内には数多くの城館跡があるが、長野原町にも長野原城、丸岩城、柳沢城（第8図30）などが存在する。中世の遺構では、楡木Ⅱ遺跡、長野原一本松遺跡、三平Ⅱ遺跡（第8図25）などで掘立柱建物跡が確認されている。平成19・20年の林中原Ⅰ遺跡（第8図9）の発掘調査では、林城跡の郭跡や掘立柱建物などが数多く確認された。さらに、平成21年の林中原Ⅰ遺跡の発掘調査では、竪穴遺構2軒、大型の掘立柱建物が9棟確認されている。

近世　天明三年（1783年）の浅間山噴火に伴う泥流によって埋没した遺跡が長野原町や東吾妻町において次々に発見されている。尾坂遺跡（第8図26）や東宮遺跡（第8図21）では、礎石建物跡が見つかっている。特に東宮遺跡では大型の屋敷跡や生活用具などが多数出土し、災害を受けた当時の暮らしを知る上で貴重な発見となっている。尾坂遺跡、下田遺跡（第8図19）、東宮遺跡、西宮遺跡（第8図22）では泥流下の畑痕から地域の特産である麻などの栽培が行われていたことが明らかとなっている。林地区には、長野原町指定史跡の「御塚」が所在する。

参考文献

『長野原町誌』上巻　『長野原町の自然』1993 長野原町
『町内遺跡Ⅳ』2004長野原町教育委員会
『町内遺跡Ⅵ』2006長野原町教育委員会
『上毛古墳綜覧』群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第５号
『群馬県の中世城館跡』1988　群馬県教育委員会
『八ヶ場ダム発掘調査集成（1）』2002　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団第303集
『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』2003財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団第319集
『久々戸遺跡（2）・中棚Ⅱ遺跡（2）・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』2004　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第349集
『上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』2006　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第379集
『山根Ⅲ（2）・上原Ⅳ遺跡・幸神遺跡』2008　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団第429集
『楡木Ⅱ遺跡（1）』2008　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団第432集
『立馬Ⅱ遺跡』2009　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第457集
『年報27』2008　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
『年報28』2009　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



第９図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡　遺跡位置図（「長野原町都市計画図」を使用）

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　東原Ⅰ遺跡

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡は、北側の山から南へ長さ約240m、標高差約20mとなる緩傾斜地に位置している。東原Ⅰ遺跡はその北部にあり、調査面積は5,327㎡である。東原Ⅰ遺跡は、平成20年度にNO.26地区79区（以下NO.26地区省略）・NO.26地区80区（以下NO.26地区省略）・NO.26地区89区（以下NO.26地区省略）・NO.26地区90区（以下NO.26地区省略）において平安面（1面）および縄文面（2面）における発掘調査によって土坑、ピット、掘立柱建物、溝などの遺構や縄文時代から近世の遺物を検出した。また、縄文面（2面）調査終了後に旧石器試掘調査を実施した。80区には東原Ⅰ遺跡、東原Ⅱ遺跡の2遺跡が位置し、混同を避けるため遺構については別遺跡であっても各区ごとに通し番号を使用した。そのため本報告書では、遺構番号を一部改変した。遺構番号変更一覧表を作成し、第2表において明示している。

第１項　土坑・ピット

東原Ⅰ遺跡の発掘調査では、平安面・縄文面において土坑・ピット等が検出されている。各区ごとの土坑の数は79区６基、80区23基、89区18基、90区１基となっている。ピットは、79区１基、80区25基、89区10基、90区１基である。80区のピットには、第2項の掘立柱建物の柱穴および柱穴列のピットを含んでいる。

東原Ⅰ遺跡で検出された土坑やピットは、第5表および第6表の遺構計測表にて概略を記し、本項では各区ごとに遺物を伴ったり重複したりするなどの特徴がある土坑やピットを取り上げて考察を行う。

79区１号土坑（第14図PL3） 形状は上面形・底面形ともに隅丸長方形であり、底面長径1.30m、短径0.45m、深さ0.84mの陥し穴と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、中位から下はローム崩落土による埋没となっている。壁面には工具痕跡が認められる。等高線に対しほぼ平行に構築されている。遺物の出土はない。

79区２号土坑（第14図PL3） 河岸段丘面の縁辺部にあり、等高線とほぼ平行に構築されている。形状は上面形楕円形・底面形隅丸長方形であり、底面長径1.50m、短径0.56m、深さ1.13mの陥し穴と考えられる。短軸の断面形状は垂直に立ち上がった後、開口部にかけてややY字状に開く。およそ1/3はローム崩落による埋没となり、壁面には工具痕が認められる。遺物の出土はない。弥生時代以降の構築か。

79区３号土坑（第14図PL3） 形状は上面形楕円形・底面形不正楕円形であり、底面長径1.48m、短径0.84m、深さ1.11mの陥し穴と考えられる。短径による断面観察から、壁面は斜めに立ち上がり中位から下はYPkにより埋没している。遺物の出土はない。縄文時代以降に構築されたものか。

80区１号土坑（第14図PL3） 等高線に対し垂直方向に構築されている。形状は上面形・底面形隅丸長方形であり、底面長径1.57m、短径0.48m、深さ1.09mの陥し穴と考えられる。壁面はほぼ直立し、工具痕跡が認められる。およそ1/3はロームの崩落土による埋没となっている。土坑埋没土の上位層ではあるが、縄文土器片が1点出土している。

80区２号土坑（第15図PL3） 80区1号土坑と離れた位置にあるが、同様に等高線に対し垂直方向に構築されている。形状は上面形楕円形・底面形不整長方形であり、底面長径1.85m、短径0.56m、深さ1.37mの大型の陥し穴と考えられる。中位から下はローム崩落土による埋没となり、壁面はYPkにより抉られた形状となり、崩れやすくなっている。遺物の出土はない。

80区３号土坑（第15図PL3） 形状は上面形楕円形・底面形隅丸長方形であり、底面長径1.45m、短径0.52m、深さ1.01mの陥し穴と考えられる。中位から下はローム崩落土による埋没となり、壁面は斜めに立ち上がる。遺物の出土はない。

80区６号土坑（第16図PL3） 等高線に対してほぼ平行に構築され、形状は上面形隅丸長方形・底面形不整隅丸長方形である。底面長径1.46m、短径0.37m、深さ0.82mの陥し穴と考えられる。短軸による断面

形状は、ほぼ斜めに立ち上がる。壁面には工具痕が顕著に見られる。埋没土の中位層で非掲載ではあるが縄文土器片（中期後半）が1点出土する。平安時代以降に構築されたものか。

80区７号土坑（第15図PL3） 形状は上面形楕円形・底面形隅丸長方形である。底面長径1.50m、短径0.54m、深さ1.70mの大型の陥し穴と考えられる。短軸の断面形状は斜めに立ち上がり、底面は平坦である。遺物の出土はなく、時期は平安時代以降か。

80区10号土坑（第16図PL4） 形状は上面形楕円形・底面形不整長方形である。底面長径1.50m、短径0.43m、深さ0.76mの陥し穴と考えられる。黒色土によって埋没し、壁は斜めに上がる。底面はやや丸みを持ち工具痕が顕著に見られる。遺物の出土はなく、時期は平安時代以降か。

80区11号土坑（第16図PL4） 等高線に対してほぼ平行に構築され、形状は上面形楕円形・底面形不整楕円形である。底面長径1.66m、短径0.49m、深さ1.19mの陥し穴と考えられる。底面は丸く窪む。断面による観察から壁面はローム崩落土が見られほぼ垂直に立ち上がる。遺物の出土はない。

80区12号土坑（第17図PL4） 重機などによる攪乱のため遺構の上面が壊されている。形状は上面形不整楕円形・底面形不整長方形である。底面長径1.57m、短径0.44m、深さ1.71mの大型の陥し穴と考えられる。壁面は斜めに立ち上がるが、中位から下はオーバーハングしている。遺物の出土はない。

80区13号土坑（第16図PL4） 形状は上面形・底面形隅丸長方形であり、底面長径1.49m、短径0.32m、深さ1.17mである。短径による断面観察から壁面はほぼ直立し、均質な黒褐色土によって埋没している。遺物の出土はない。80区1号掘立柱建物と重複し13号土坑が古い。

80区14号土坑（第17図PL4） 形状は上面形・底面形ともに円形であり、底面長径1.09m、短径1.00m、深さ0.60mである。短径による断面観察から壁面は垂直に立ち上がった後、開口部にかけて開く。遺物の出土はなく、時期は縄文時代か。

80区17号土坑（第17図PL4） 形状は上面形・底面形隅丸長方形であり、底面長径1.44m、短径0.40m、深さ0.95mの陥し穴と考えられる。短径による断面観察から壁面はほぼ直立した後、開口部にかけてやや広がる。壁面はローム崩落により埋没する。遺物の出土はない。

89区１号土坑（第18図PL5） 形状は上面形・底面形楕円形である。底面長径1.38m、短径0.54m、深さ1.65mを測る。遺構断面の観察からⅢ層中より掘り込まれた陥し穴と考えられる。自然埋没となり、上層にはAs-BかAs-Kkが見られる。底部施設や遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

89区２号土坑（第19図PL5） 形状は上面形楕円形・底面形隅丸長方形であり、底面長径1.55m、短径0.65m、深さ1.37mの陥し穴と考えられる。短軸断面の観察から自然埋没が見られ、壁面は斜めに立ち上がる。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

89区３号土坑（第19図PL5） 89区1号・2号土坑と隣接した位置にある。等高線に対して垂直に構築され、形状は上面形楕円形・底面形隅丸長方形である。底面長径1.55m、短径0.65m、深さ1.37mの陥し穴と考えられる。短軸断面の観察から壁面は斜めに立ち上がる。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

89区４号土坑（第19図PL5） 形状は上面形楕円形・底面形隅丸長方形である。底面長径1.18m、短径0.50m、深さ1.62mの陥し穴と考えられる。短軸断面の観察から壁面は直立に近い。底面の2箇所に逆茂木状の凹みが認められる。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

89区５号土坑（第20図PL5） 形状は上面長径2.13m、短径1.70m、深さ0.45mの楕円形である。ローム面を掘り込み、立木の抜根跡にも類似する。平安面（1面）からの検出であるが、遺物の出土はなく、時期は近現代か。

89区６号土坑（第20図PL5） 形状は上面長径0.89m、短径0.80m、深さ0.43mの円形である。遺物の出土はなく、時期は縄文時代か。

89区７号土坑（第20図PL5） 形状は上面長径0.91m、短径0.88m、深さ0.54mの円形である。底面は不整楕円形となり根攪乱が見られる。遺物の出土はなく、

時期は縄文時代か。

89区９号土坑（第20図PL5） 79区2号土坑と同様に河岸段丘面の縁辺部にあり、等高線に対してほぼ平行に構築されている。表土は薄く、ローム面までおよそ0.2mである。形状は上面形楕円形・底面形不整長方形であり、底面長径1.45m、短径0.73m、深さ1.29mの隠し穴と考えられる。底面はYPkとなり、東壁は斜めに立ち上がり、ローム崩落あるいは壁面にロームを貼った可能性もある。周辺は地滑り地帯であり地割れ跡が顕著に見られる。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

89区11号土坑（第20図PL5） 本遺跡の最北部に位置する。これより北側は山道を挟み急峻な傾斜斜面となる。形状は上面形楕円形・底面形不整楕円形であり、底面長径1.51m、短径0.71m、深さ0.81mの隠し穴と考えられる。Ⅲ層による黒褐色土を主体として埋没し、壁面は斜めに立ち上がる。底面には工具痕が顕著に見られ、刺突後に横に引かれている。遺物の出土はなく、時期は平安時代以降か。

89区12号土坑（第21図PL6） 形状は上面形・底面形不整長方形であり、底面長径1.60m、短径0.57m、深さ0.70mの隠し穴と考えられる。埋没土にはAs-BかAs-Kkが多く含む。短径断面の観察から壁面は斜めに立ち上がる。底面は平坦ながら工具痕による凹凸が認められる。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

90区１号土坑（第21図PL6） 形状は上面形・底面形ともに不整長方形であり、上面長径1.75m、短径0.62m、深さ0.66mの隠し穴と考えられる。傾斜面にあり、壁面は垂直に立ち上がった後、開口部に向かって緩やかに開いている。底面はほぼ平坦である。遺物の出土はなく、時期は平安時代以降か。

東原Ⅰ遺跡から検出されたピットの総数は、前述のとおり第2項で述べる掘立柱建物の柱穴としたピットを含めて37基を数える。2棟の掘立柱建物の周辺から検出されたピットが多い。

80区２号ピット（第22図PL8） 形状は、長径0.32m、短径0.23m、深さ0.17mの楕円形である。2号掘立柱建物P3と重複し、80区2号ピットが新しい。遺物の出土はない。

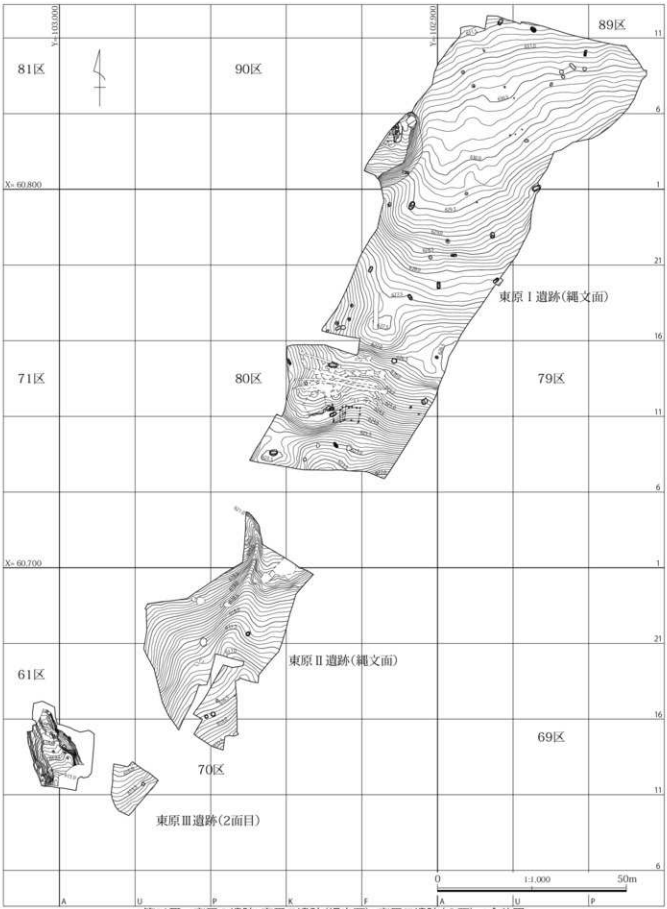
80区４号ピット（第22図PL7） 形状は、長径0.45m、短径0.35m、深さ0.45mの楕円形である。2号掘立柱建物P1と重複し、80区2号ピットが古い。遺物の出土はない。

80区６号ピット（第22図PL6） 形状は開口部がやや狭く直径0.22m、深さ0.60m円形である。東原Ⅰ遺跡において検出されたピットの中で最も深い。80区2号掘立柱建物P1と重複し、80区2号ピットが古い。遺物の出土はない。

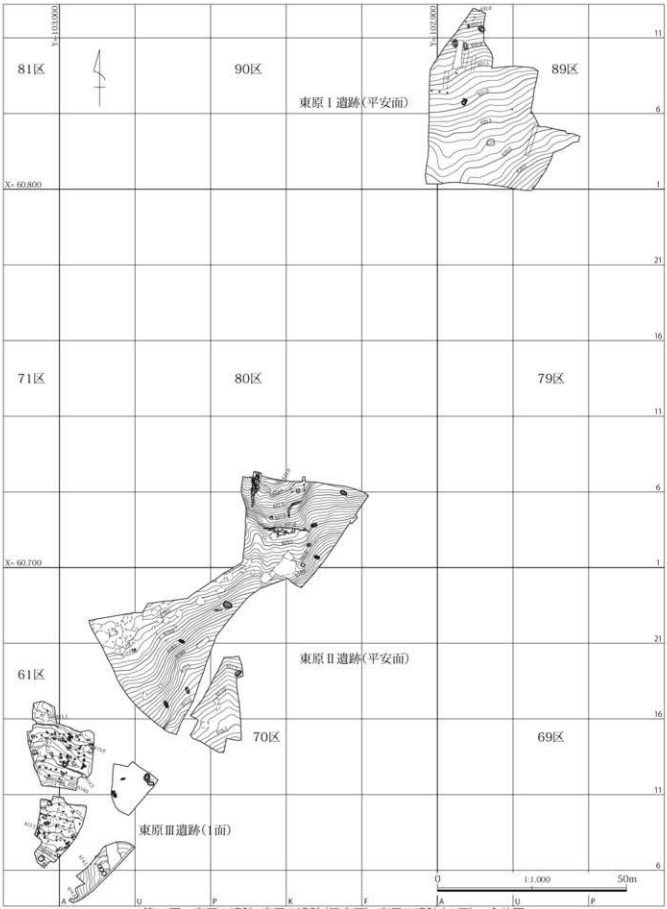
89区３号ピット（第22図PL7） Y−7グリッドに位置する。平安面において、確認が明瞭な円形であった。形状は長径0.41m、短径0.35m、深さ0.33mの円形である。89区4号ピットまでの距離は2.1mで、遺物の出土はない。

89区４号ピット（第22図PL7） Y−7グリッドに位置する。平安面からの検出で、確認が明瞭な円形である。形状は長径0.36m、短径0.32m、深さ0.25mの円形である。遺物の出土はない。

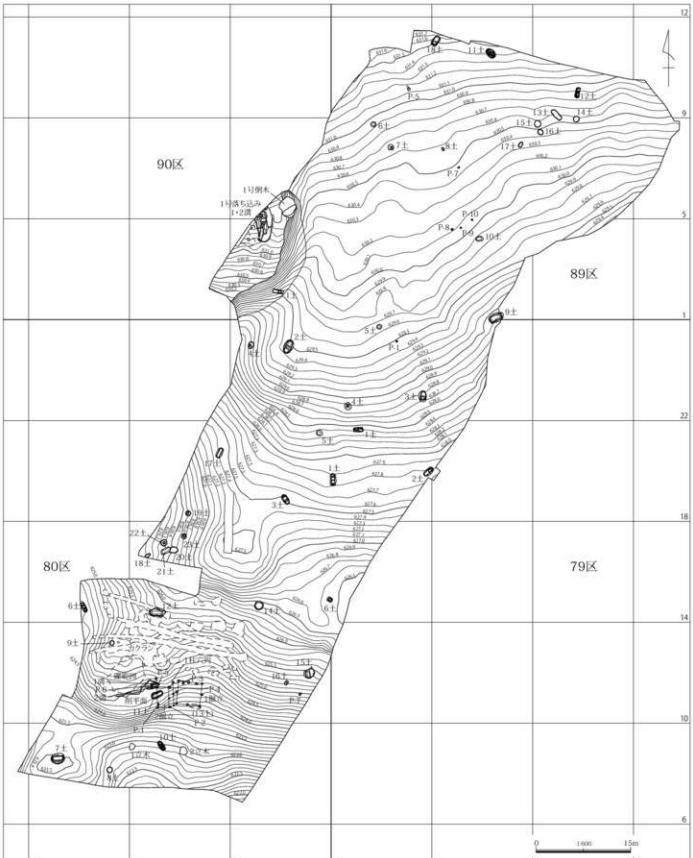
90区１号ピット（第22図PL7） A−7グリッドに位置する。平安面からの検出である。形状は長径0.35m、短径0.33m、深さ0.26mの円形である。遺物の出土はない。89区3号ピットまでの距離は2.1mである。89区3号ピット、89区4号ピットと直線上に等間隔に並ぶため、柱穴列の可能性もある。



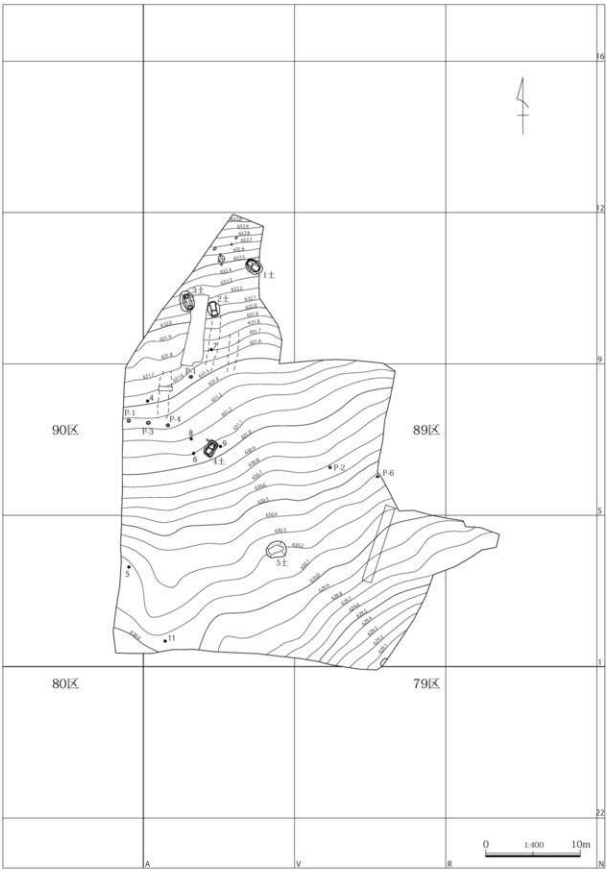
第10図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡(縄文面)・東原Ⅲ遺跡（２面）　全体図



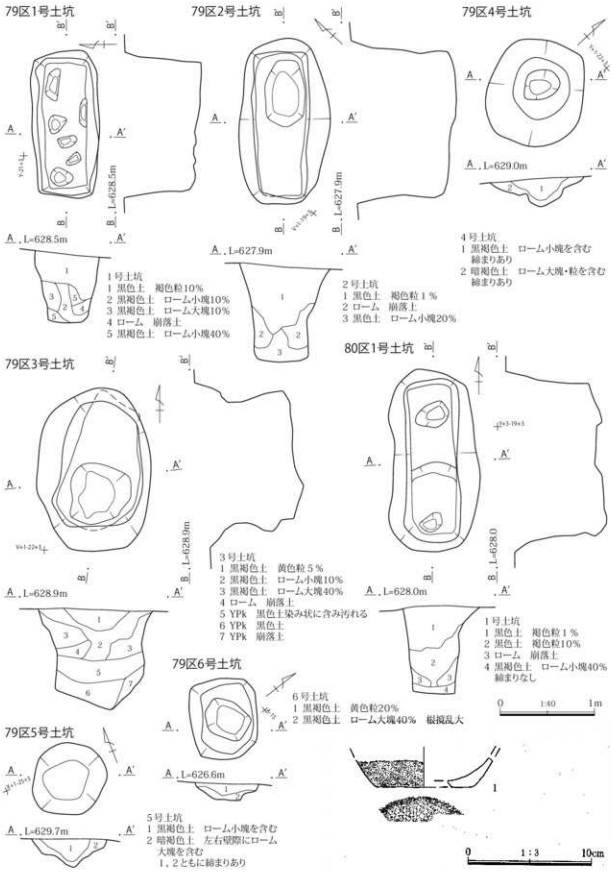
第11図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡(平安面)・東原Ⅲ遺跡(1面)　全体図



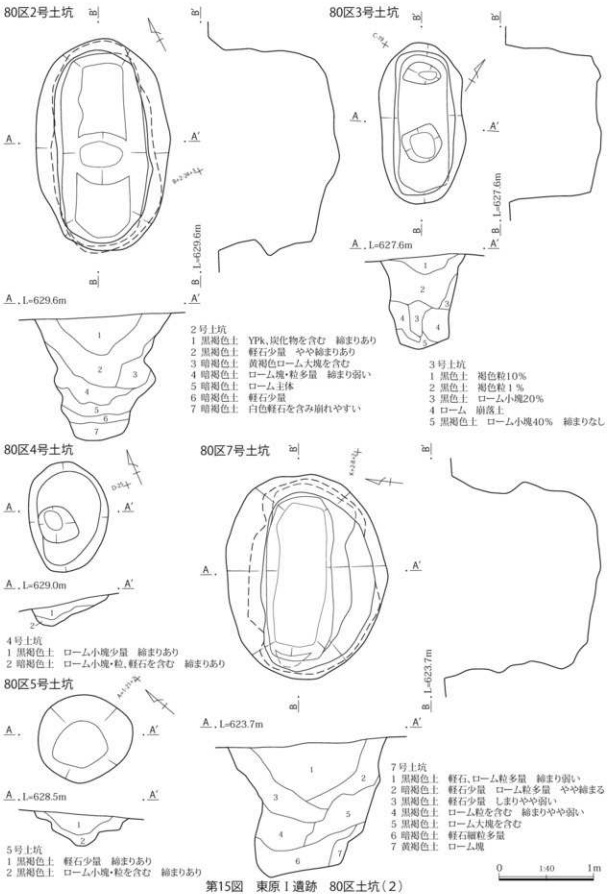
第12図　東原Ⅰ遺跡(縄文面)　遺構全体図



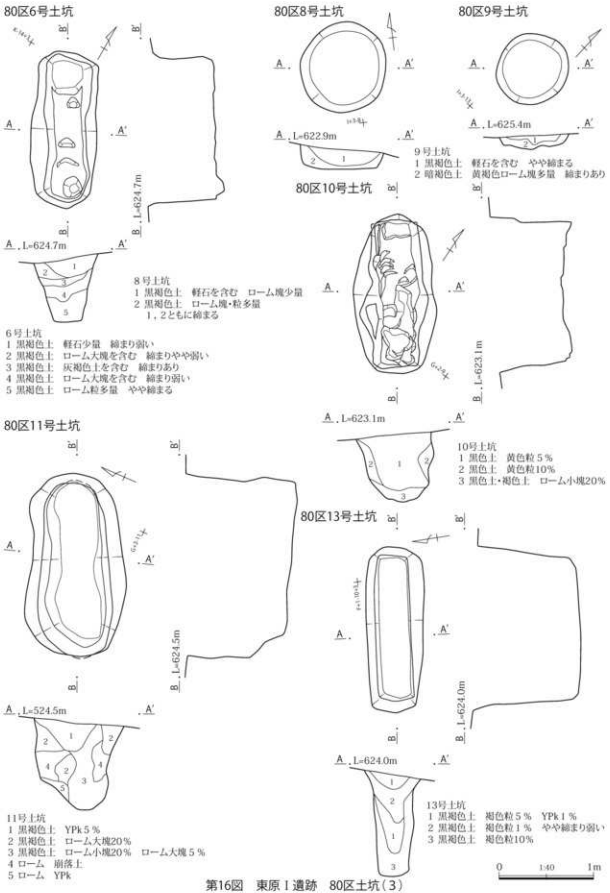
第13図　東原Ⅰ遺跡(平安面)　遺構全体図



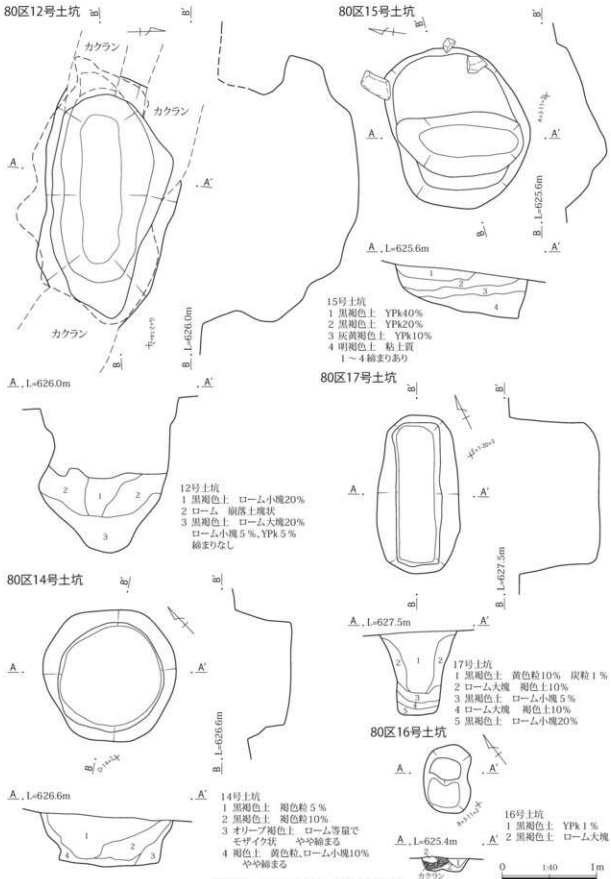
第14図　東原Ⅰ遺跡　79区土坑（1）・80区土坑（1）・80区１号土坑出土遺物



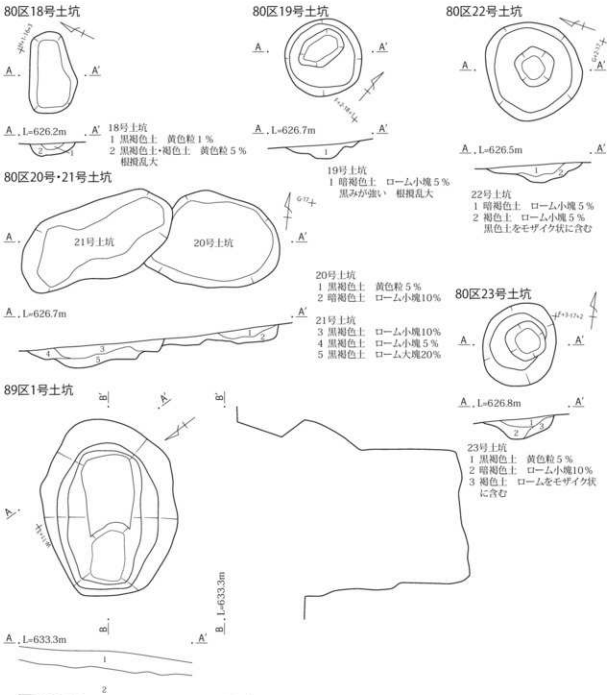
第15図　東原Ⅰ遺跡　80区土坑（２）



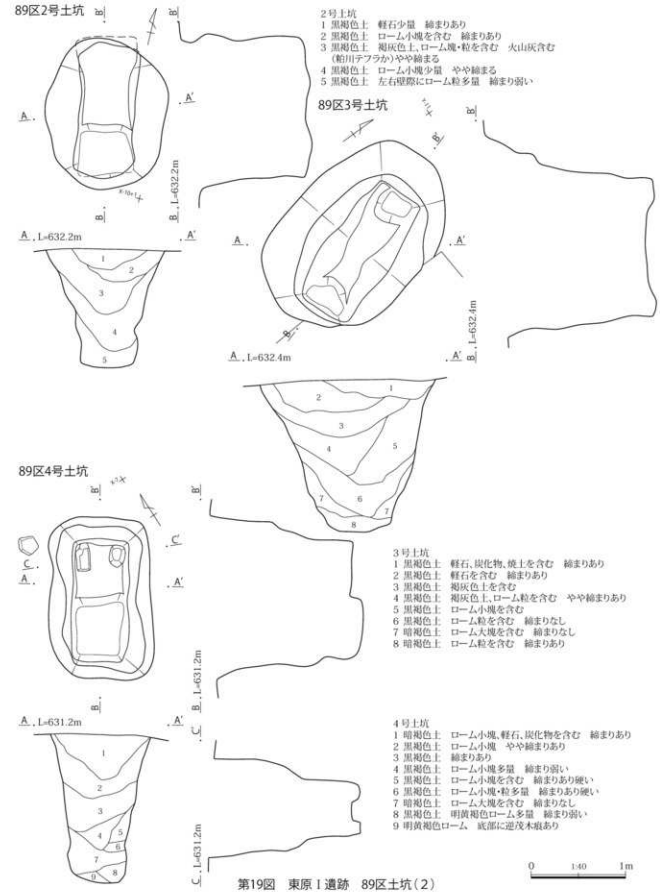
第16図　東原Ⅰ遺跡　80区土坑（３）



第17図　東原Ⅰ遺跡　80区土坑(4)

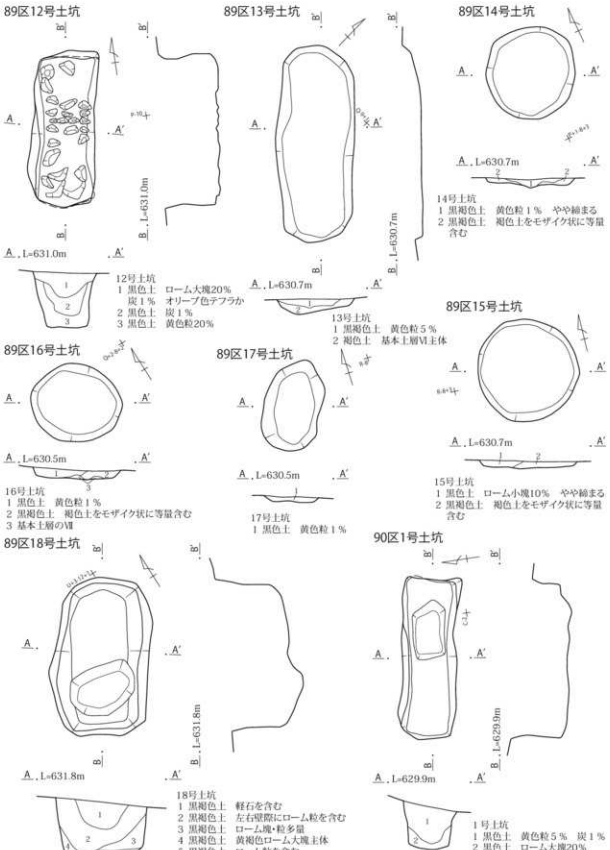


第18図　東原Ⅰ遺跡　80区土坑（５）・89区土坑（１）

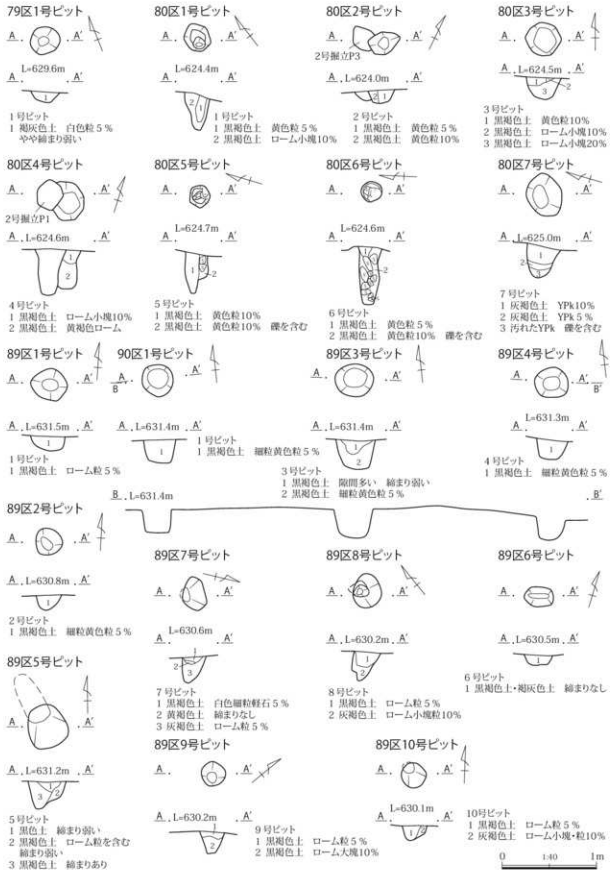


第19図　東原Ⅰ遺跡　89区土坑（2）

第20図　東原Ⅰ遺跡　89区土坑（３）



第21図　東原１遺跡　89区土坑（４）・90区土坑（１）



第22図　東原Ⅰ遺跡　79区ピット（１）・80区ピット（１）・89区ピット（１）

第２項　掘立柱建物・柱穴列

東原Ⅰ遺跡では80区縄文面(2面)の調査において、削平面が確認されるとともに、周辺からは多くのピットが検出された。80区から検出されたピットは、30基であり、そのうち15基が掘立柱建物の柱穴と判断され、2棟の掘立柱建物を復元することができた。柱穴は縄文面(2面)からの検出であるが、遺構断面の埋没土の観察などから、時期は縄文時代まで遡ることはない。表土掘削によって表土下は、起伏の激しい地形であることが分かったが、掘立柱建物の周辺の地形から人為的な削平面が見られた。掘立柱建物と同時期に削平されたと考えられる。また、2棟の掘立柱建物は、長野原町指定史跡「御塚（おつか）」のほぼ東側に隣接した位置にある。掘立柱建物の脇に3基のピットが隣接して南北の直線上に等間隔に並び、掘立柱建物との関連もあるため柱穴列として本項で扱うこととした。

80区１号掘立柱建物(第24図PL7～8)

位置　80区F－10，11、G－10，11グリッドに位置する。

重複　1号掘立柱建物P3が、80区13号土坑と重複する。新旧関係では、遺構検出状況や遺構断面の観察などから80区13号土坑が古いと判断される。掘立柱建物の北辺やや内側で80区17号ピットと重複する。

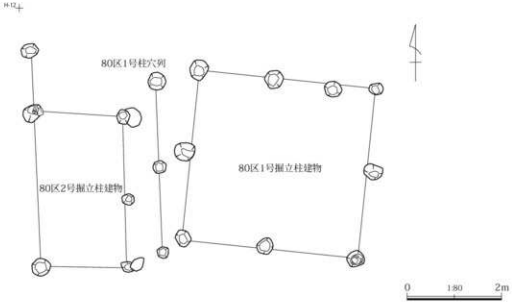
主軸方向　N－83°－W

規模　南北3.73m　東西3.76m

形態　2×2間の東西棟となり、掘立柱建物の面積は13.5㎡である。各辺はそれぞ北辺3.76m、東辺3.60m、南辺3.73m、西辺3.56mである。柱穴は9基検出され、P1からP7まで柱穴の間隔は1.73m～1.97mとなりほぼ等間隔に位置している。柱穴の深さは15㎝～52㎝でやや浅いものもあるが、表土掘削により柱穴上部が削られた可能性がある。掘立柱建物の北辺は4基の柱穴からなり、P8とP9が1.28m、P9とP1が0.90mの間隔となっている。どちらかに出入口があったか。また、1号掘立柱建物内部には80区17号ピットがあり、北辺の軸線上に乗っていないが、周辺に対応するピットが検出されないため、本遺構に属する可能性がある。

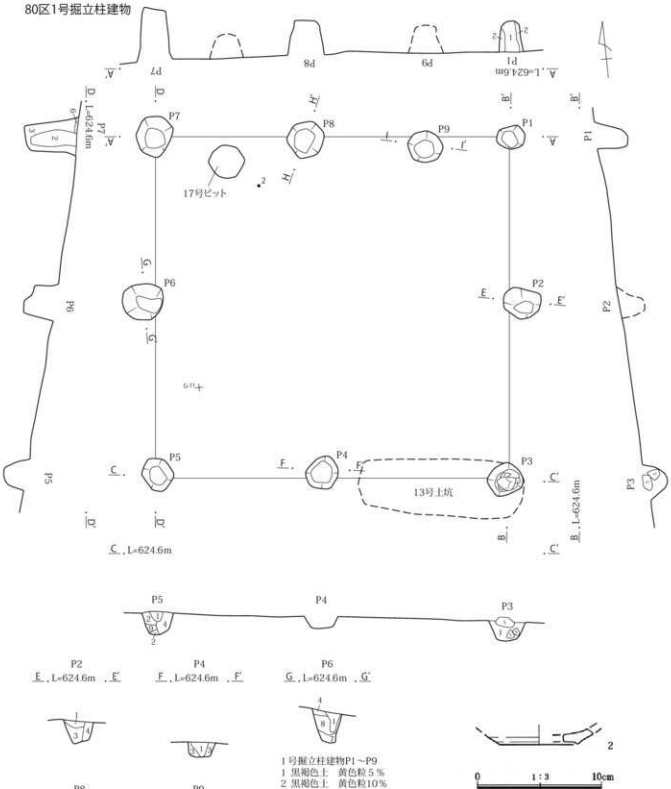
出土遺物　P1～P9の柱穴埋没土から出土した遺物はないが、掘立柱建物内部P8付近において中世末から近世の陶器皿1点が出土する。80区では、中近世の陶磁器破片が50点以上出土しており、本遺構に関連する遺物の可能性が高い。

時期　掘立柱建物の形状や柱穴埋没土の特徴などから中世から近世に比定される。

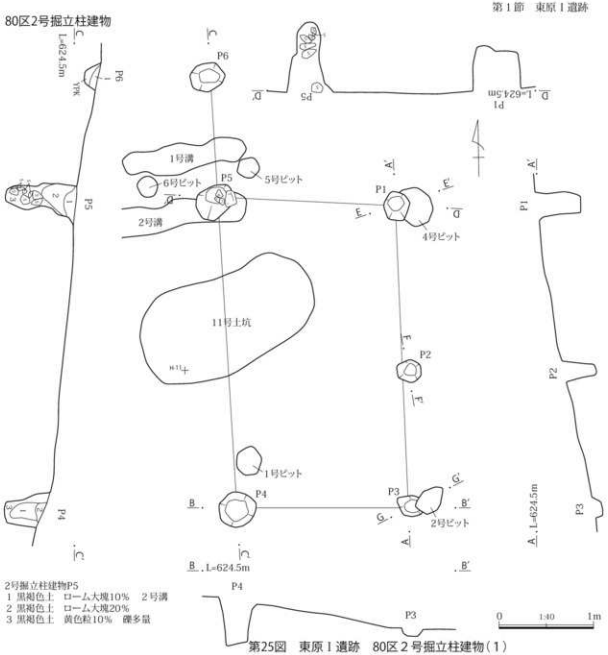


第23図　東原Ⅰ遺跡　80区１号・２号掘立柱建物・80区１号柱穴列全体図

80区1号掘立柱建物



第24図　東原１遺跡　80区１号掘立柱建物・１号掘立柱建物出土遺物



第25図　東原1遺跡　80区2号掘立柱建物(1)

80区2号掘立柱建物（第25～26図PL8～9）

位置　80区G－10，11グリッドに位置する。80区1号掘立柱建物西側に隣接する。

重複　西辺軸線上で80区11号土坑と重複し、遺構検出状況や遺構断面の観察などから80区11号土坑が古いと判断される。80区1号溝、P5は2号溝と重複し、1号・2号溝が新しい。また、P1は重複する80区4号ピットより新しく、P3は重複する80区2号ピットより古い。P4に隣接して80区1号ピットがある。

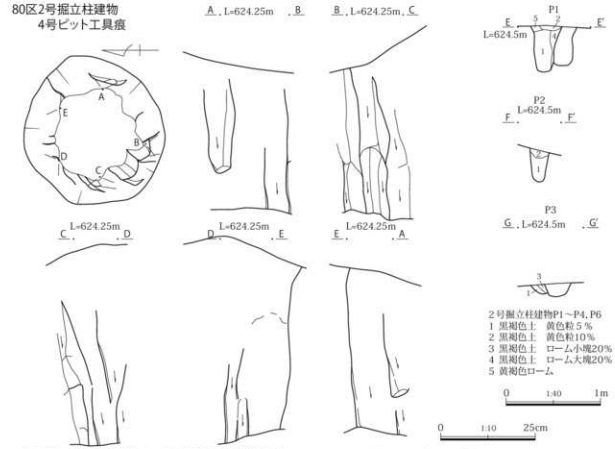
主軸方向　N－2°－W

規模　南北3.18m　東西1.90m

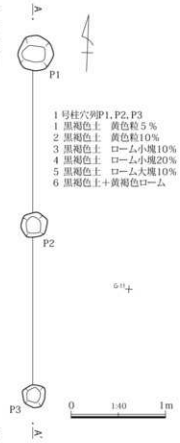
形態　1×2間の南北棟となり、面積は6.0㎡である。各辺は北辺1.90m、東辺3.18m、南辺1.87m、西辺4.60mである。柱穴は6基検出され、西辺のP5より1.30m離れた軸線上にP6があり本遺構に属するものと判断した。80区11号土坑において本遺構となる柱穴を見落としていた可能性もある。P4内部には、工具痕跡が顕著に認められたため図下した。(第26図)

出土遺物　柱穴埋没土や2号掘立柱建物の位置するグリッドから出土した遺物はない。80区の遺物として中近世の陶磁器破片が50点以上出土し、本遺構に関連する遺物の可能性が高い。

時期　掘立柱建物の形状や柱穴埋没土などから中世から近世に比定される。



第26図　東原Ⅰ遺跡　80区２号掘立柱建物（２）



第27図　東原Ⅰ遺跡　80区１号柱穴列

80区１号柱穴列(第23・27図PL9)

位置　80区G－10，11グリッドであり、80区1号掘立柱建物跡および80区2号掘立柱建物の間に位置する。

主軸方向　N－2°－W

規模　P1は長径38㎝短径37㎝深さ37㎝、P2は長径28㎝、短径27㎝、深さ13㎝であり、傾斜面に位置する。P3は長径25㎝、短径24㎝、深さ21㎝である。P1からP2は1.81m、P2からP3は1.80mとなり、ほぼ等間隔である。隣接する80区2号掘立柱建物東辺の軸線と平行し、ほぼ同規模である。

出土遺物　80区2号掘立柱建物と同様に、柱穴の埋没土や柱穴列の位置するグリッドから出土した遺物はない。

時期　柱穴埋没土の観察などから中世から近世に比定される。

第３項　溝・落ち込み

東原Ⅰ遺跡では、80区2条、90区2条の溝が検出されている。また、90区1号・2号溝と重複して落ち込みが検出されたため、遺構として扱うこととした。

80区１号溝（第28図PL10） 80区G－11，H－11グリッドに位置し、縄文面（2面）のYPk面からの検出である。80区2号溝とほぼ平行し、東西に一直線に走行している。溝の全長1.32m、幅0.33m、深さ0.12mである。主軸方向は東に85度傾き、僅かな勾配ではあるが、西から東に向かって流れていたと想定される。遺構断面の観察から黒褐色土の単層によって埋没し、水などが流れた痕跡は認められなかった。80区1号溝から出土した遺物および重複する遺構はない。

80区２号溝（第28図PL10） 80区G－11，H－11グリッドに位置し、縄文面（2面）のYPk面からの検出である。等高線に対してほぼ平行であり、同一グリッド内で隣接している80区1号溝とほぼ平行して東西に一直線に走行している。溝の全長1.94m、幅0.35m、深さ0.12mである。規模は80区2号溝がやや長いが、1号溝と形状がほぼ類似する。主軸方向は東に83度傾き、平坦であるが西から東に向かって流れていたと想定される。完掘後に検出されたため遺構断面はない。2号溝から出土した遺物はない。80区2号掘立柱建物5号ピットと重複し、2号溝が新しい。

90区１号溝（第29図PL10） 80区C－4，5グリッドに位置する。縄文面（2面）からの検出であり調査区内での溝の全長2.80m、幅0.75m、深さ0.12mである。北西から南東に緩やかに屈折しているが、調査区外となる北西方向に延長していると考えられる。勾配によって北西から南東に流れていたと想定される。遺構断面の観察から、表土に近い灰褐色土の単層によって埋没し、人為的に混入されたような大・小礫が顕著に認められる。90区2号溝、1号落ち込みと重複し90区1号溝が新しい。遺物の出土はないが、時期は近現代か。

90区２号溝（第29図PL10） 80区C－4，5グリッドに位置する。縄文面（2面）からの検出であり、全長4.84m、幅1.40m、深さ0.58mである。主軸方向は西に3度傾き、勾配によって北東から南西に流れていたと想定される。調査区外となる北西方向に延長していると考えられる。遺構断面の観察から90区1号溝のような人為的な大・小礫の混入は少ない。90区1号溝、90区1号落ち込みと重複するが、90区2号溝が古い。時期は近現代か。

90区１号落ち込み（第29図PL10） 80区C－4，5グリッドに位置する。全長5.78m、幅1.78m、深さ0.44mであり、遺構断面の観察からローム主体で人為的な埋没の様相である。主軸方向は東へ7度傾く。底面は凹凸が見られ、本遺構の北側は、表土を埋土とする石捨て穴によって壊されている可能性がある。90区2号溝と重複し90区1号落ち込みが新しい。時期は近世以降か。遺物は、表土から近世の陶器片が2点（掲載1点）、非掲載の縄文土器片が1点出土している。

第28図　東原Ⅰ遺跡　80区１号・２号溝

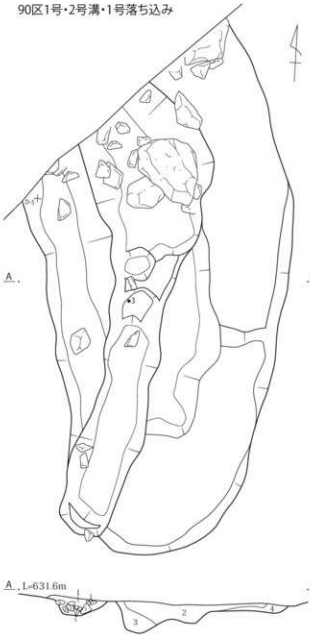
第４項　立木・倒木

東原Ⅰ遺跡では、縄文面（2面）において抜根跡および抜根土坑とされる2基の立木、1基の倒木跡を検出した。

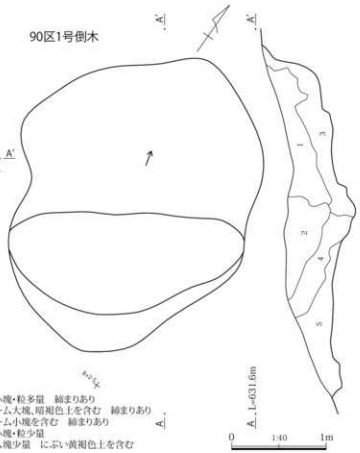
80区１号立木（第12図PL10） 80区F－8，9グリッドに位置する。上面形状は黒色土の不整楕円形であり中央部分がローム大塊によって表面まで大きく攪乱している。長径1.36m、短径1.18mの楕円形である。遺物の出土はない。

80区２号立木（第12図PL10） 80区H－8，9グリッドに位置する。上面形状は黒色土の楕円形であり中央部分がローム大塊によって攪乱している。長径1.08m、短径0.84mである。遺物の出土はない。

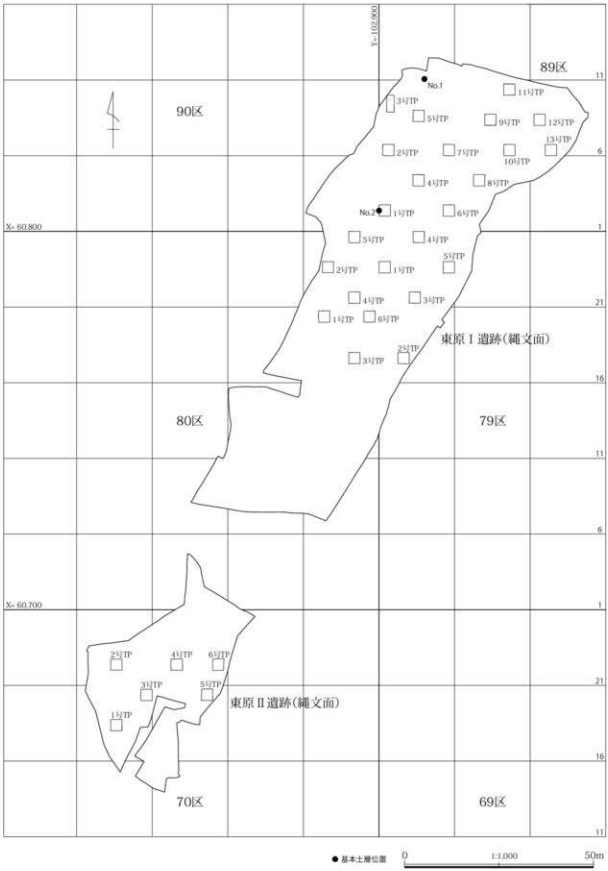
90区１号倒木（第30図PL10） 90区B－5グリッドに位置する。確認状況は黒色土と多量のローム大・小塊によって攪乱した不整楕円形である。平坦面から傾斜面へと下る位置より検出された。長径3.34m、短径2.60mであり北西方向に倒れたと想定される。遺物の出土はない。



第29図　東原Ⅰ遺跡　90区１号・２号溝・１号落ち込み・１号落ち込み出土遺物



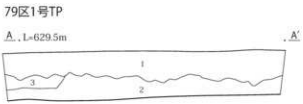
第30図　東原Ⅰ遺跡　90区１号倒木



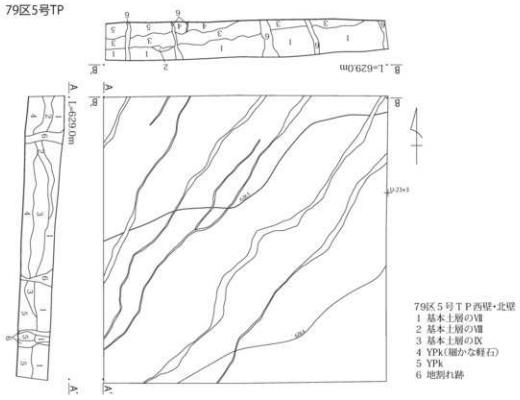
第31図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡　テストピット設定図

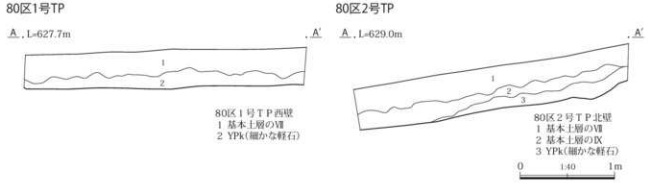
第５項　旧石器試掘

（**第32～33図PL10**）東原１遺跡において縄文面（２面）調査終了後、旧石器時代の試掘調査を実施した。79区５箇所、80区６箇所、89区13箇所の総計24箇所となった。それぞれ3mの正方形テストピット（以下TPと略す）を設定し、発掘現場作業員による鋤簾などを使った掘り下げによって、遺構や遺物の確認を行った。TP断面の観察からローム面での地割れ跡のほか、さらに下層では応桑泥流の礫層が認められた。しかし、旧石器時代に該当する遺構や遺物は検出されなかった。

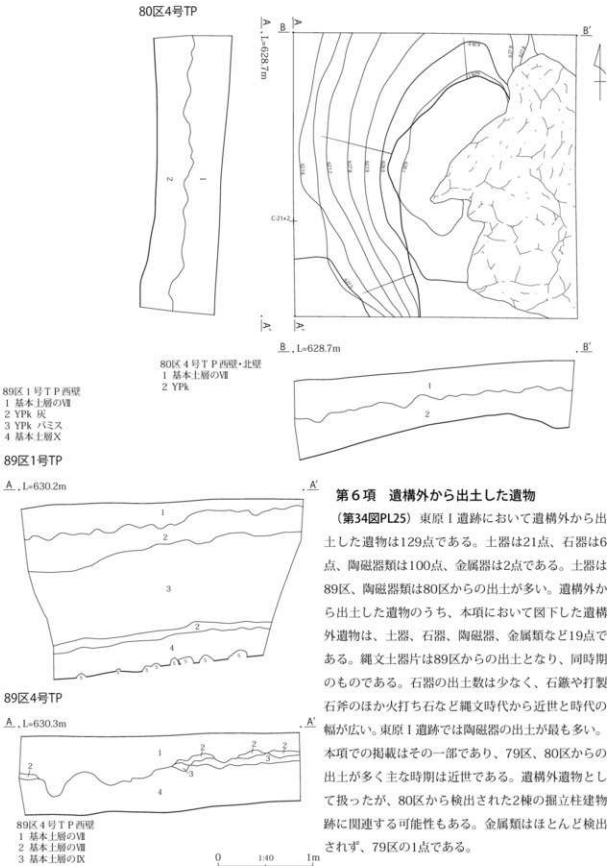


79区１号ＴＰ北壁
1 基本上層のⅦ
2 YPk
3 基本上層のⅨ





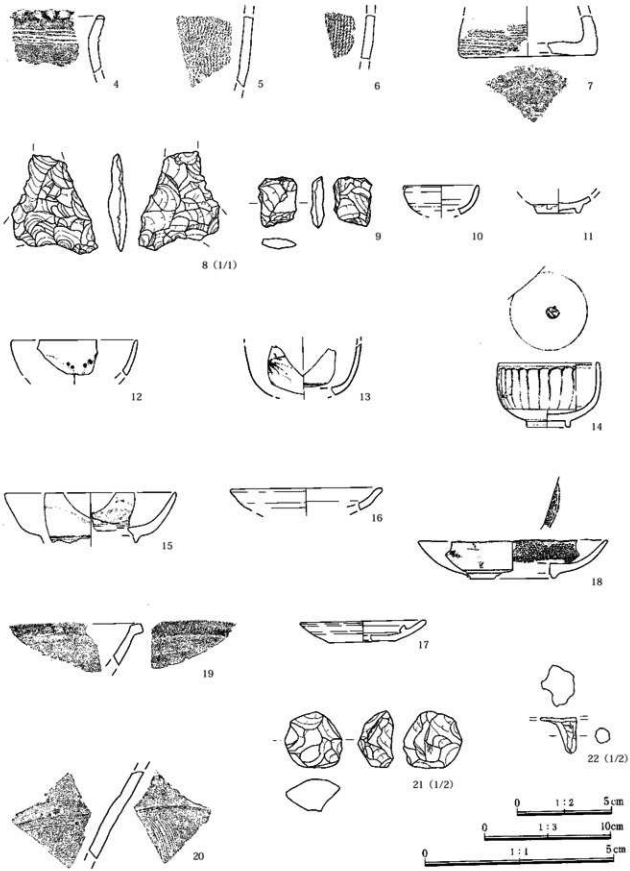
第32図　東原１遺跡　79区１号・５号ＴＰ・80区１号・２号ＴＰ



第33図　東原Ⅰ遺跡　80区４号ＴＰ・89区４号ＴＰ

第６項　遺構外から出土した遺物

（第34図PL25）東原Ⅰ遺跡において遺構外から出土した遺物は129点である。土器は21点、石器は6点、陶磁器類は100点、金属器は2点である。土器は89区、陶磁器類は80区からの出土が多い。遺構外から出土した遺物のうち、本項において図下した遺構外遺物は、土器、石器、陶磁器、金属類など19点である。縄文土器片は89区からの出土となり、同時期のものである。石器の出土数は少なく、石鏃や打製石斧のほか火打ち石など縄文時代から近世と時代の幅が広い。東原Ⅰ遺跡では陶磁器の出土が最も多い。本項での掲載はその一部であり、79区、80区からの出土が多く主な時期は近世である。遺構外遺物として扱ったが、80区から検出された2棟の掘立柱建物跡に関連する可能性もある。金属類はほとんど検出されず、79区の1点である。



第34図　東原Ⅰ遺跡　遺構外出土遺物

第２節　東原Ⅱ遺跡

東原Ⅱ遺跡は、東原Ⅰ遺跡と東原Ⅲ遺跡に挟まれたNO.26地区70区（以下NO.26地区省略）・NO.26地区80区（以下NO.26地区省略）に位置する。調査面積は2,366㎡である。東西に走行する畑道によって東原Ⅰ遺跡と東原Ⅱ遺跡を分けている。80区は東原Ⅰ遺跡と70区は東原Ⅲ遺跡と重複している。発掘調査前の現状は、雑木林地などで、北側から南側へ緩やかに下る傾斜地である。表土を掘削すると東原Ⅰ遺跡と同様にローム面は一部で起伏の激しい地形となっている。東原Ⅱ遺跡の東側に隣接して長野原町指定史跡の「御塚（おつか）」が所在する。その南側の70区平坦面は、近年まで住宅地となり石垣の一部が残されていた。周辺からはおもに近世の遺物が多数出土し、遺構外出土遺物として扱ったが、中近世にかけて屋敷などの建物が存在していた可能性が高い。東原Ⅱ遺跡の発掘調査は、平成20年度に平安面および縄文面の2面によって行われ、土坑、ピット、掘立柱建物、溝、削平面、焼土などの遺構や多くの遺物を検出した。また縄文面の発掘調査後は、70区においてグリッドごとに旧石器試掘調査を実施した。

第１項　土坑・ピット

東原Ⅱ遺跡の土坑は、70区11基、80区10基である。また、ピットは70区1基、80区5基となっている。東原Ⅱ遺跡で検出されたすべての土坑やピットは、第8表および第9表の遺構計測表に概略を記載した。本項では、形状や遺物を伴うなど特徴が見られる土坑やピットを取り上げて考察する。

70区１号土坑（第37図PL12） 縄文面（2面）からの検出である。形状は上面形・底面形ともに円形であり底面長径0.71m、短径0.60m、深さ0.67mである。壁面は垂直に立ち上がった後開口部に向かって開く。遺物はなく、縄文時代の陥し穴の可能性もある。

70区２号土坑（第37図PL12） 縄文面（2面）からの検出であり、70区1号土坑に隣接する。形状は70区1号土坑に類似し、上面形・底面形円形であり底面長径0.87m、短径0.85m、深さ0.73mを計る。短径断面の観察から、壁面は垂直に立ち上がった後、開口部に向かって開いていく。遺物の出土はなく、形状や埋没土から縄文時代の陥し穴の可能性がある。

70区４号土坑（第37図PL12） 平安面（1面）からの検出である。形状は上面形楕円形・底面形不整長方形であり、底面長径1.50m、短径0.40m、深さ1.50mの陥し穴と考えられる。短径断面の観察から壁面は斜めに立ち上がり、ローム崩落土が見られる。底部施設および遺物の出土はない。時期は平安時代以降か。

70区５号土坑（第37図PL12） 平安面（1面）からの検出である。等高線に対して垂直方向に構築されている。形状は上面形楕円形・底面形不整長方形であり、底面長径1.53m、短径0.32m、深さ1.31mの陥し穴と考えられる。短径断面の観察から壁面は斜めに立ち上がり、左右壁面にローム崩落土が見られる。黒曜石の剥片が1点（非掲載）出土する。時期は平安時代か。

70区６号土坑（第38図PL12） 平安面（1面）からの検出である。形状は上面形楕円形・底面形不整形であり、底面長径1.80m、短径0.40m、深さ1.77mの陥し穴と考えられる。短径断面の観察から壁面は斜めに立ち上がり、中段はオーバーハングしている。埋没土から中近世土器片が1点（非掲載）出土する。

70区７号土坑（第37図PL12） 形状は上面長径2.04m、短径0.33m、深さ0.43mの溝状である。底面には工具痕が見られる。黒褐色土の単層で一気に埋没した様相である。埋没土から縄文土器片が1点（非掲載）出土する。時期は近現代か。

70区８号土坑（第38図PL12） 近現代の石垣南側に位置する。周辺は攪乱が多く確認される。形状は上面長径1.04m、短径0.70m、深さ0.47mの長方形である。石臼破片1点、近世磁器片が1点（非掲載）出土している。埋没状況は、黒褐色土の単層で締まりがなく大礫が多量に含まれる。時期は近世以降か。

70区９号土坑（第38図PL12） 平安面（1面）からの検出である。形状は上面形長方形・底面形整形長方形であり、底面長径1.53m、短径0.40m、深さ1.31mの陥し穴と考えられる。短径断面の観察から壁面

はほぼ垂直に立ち上がる。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

70区10号土坑（第38図PL12） 縄文面（2面）からの検出である。形状は上面形・底面形ともに楕円形である。底面長径0.62m、短径0.50m、深さ0.98mの陥し穴と考えられる。埋没土は黒褐色土主体で締まりがあり、短径断面の観察から壁面は斜めに立ち上がり中段はオーバーハングする。遺物の出土はなく時期は縄文時代か。

80区１号土坑（第39図PL13） 平安面（1面）からの検出で、形状は上面長径0.93m、短径0.80m、深さ0.36mの長方形である。80区1号掘立柱建物内側に位置する。時期は中世から近世か。

80区２号土坑（第39図PL13） 平安面（1面）からの検出であり、削平面に位置する。形状は、上面長径0.79m、短径0.50m、深さ0.19mの楕円形である。遺物の出土はなく、時期は中世から近世か。

80区４号土坑（第39図PL13） 平安面（1面）からの検出である。形状は上面長径2.22m、短径0.93m、深さ0.33mの長方形である。遺物は縄文土器片1点、陶器1点、金属器1点が出土する。80区5号土坑と重複し、5号土坑を壊している。時期は江戸時代から近現代か。

80区５号土坑（第39図PL13） 平安面（1面）からの検出である。形状は上面長径2.60m、短径1.13m、深さ0.56mの不整形である。80区4号土坑、80区2号ピットと重複し80区5号土坑が古い。遺構断面の観察などから第3層が別の土坑となって重複している可能性もある。遺物の出土はなく、時期は近世か。

80区６号土坑（第40図PL13） 平安面（1面）からの検出である。形状は上面形・底面形ともに楕円形で、底面長径1.36m、短径0.30m、深さ1.71mの陥し穴と考えられる。短径断面による観察から壁面は斜めに立ち上がり、下位はオーバーハングする。左右壁際で縄文土器片2点（掲載1点）の出土がある。時期は古墳時代から平安時代か。

80区７号土坑（第40図PL13） 平安面（1面）からの検出である。形状は上面形・底面形ともに隅丸長方形で、底面長径1.36m、短径0.52m、深さ1.21mの陥し穴と考えられる。短径断面による観察から壁面は斜めに立ち上がり、底面は平坦で工具痕がやや見られる。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

80区８号土坑（第40図PL13） 平安面（1面）からの検出であり、80区3号溝北側に位置する。形状は、上面形・底面形ともに長方形で上面長径0.87m、短径0.69m、深さ0.34m。遺構断面の観察から黒褐色土の人為的な埋没の様相となる。遺物の出土はなく、時期は削平面と同時期となる中世面から近世か。

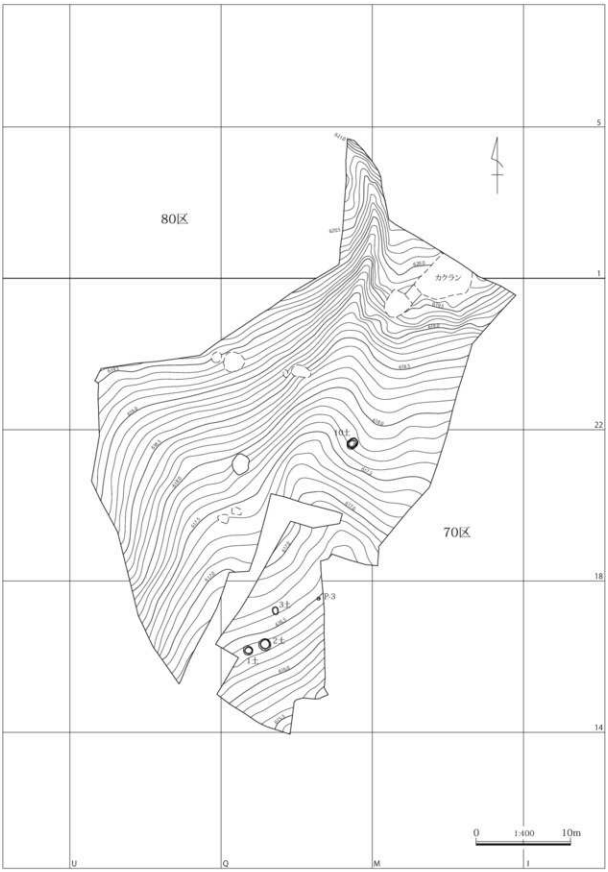
80区９号土坑（第40図PL13） 平安（1面）からの検出である。形状は上面形隅丸長方形・底面形長方形で、底面長径1.40m、短径0.30m、深さ1.04mの陥し穴と考えられる。短径断面による観察から壁面は斜めに立ち上がり、ローム崩落が見られる。遺物の出土はなく、時期は平安時代以降か。

東原Ⅱ遺跡から検出されたピットは、70区1基、80区5基となる。6基のうち3基は、第2項の掘立柱建物の柱穴となっている。

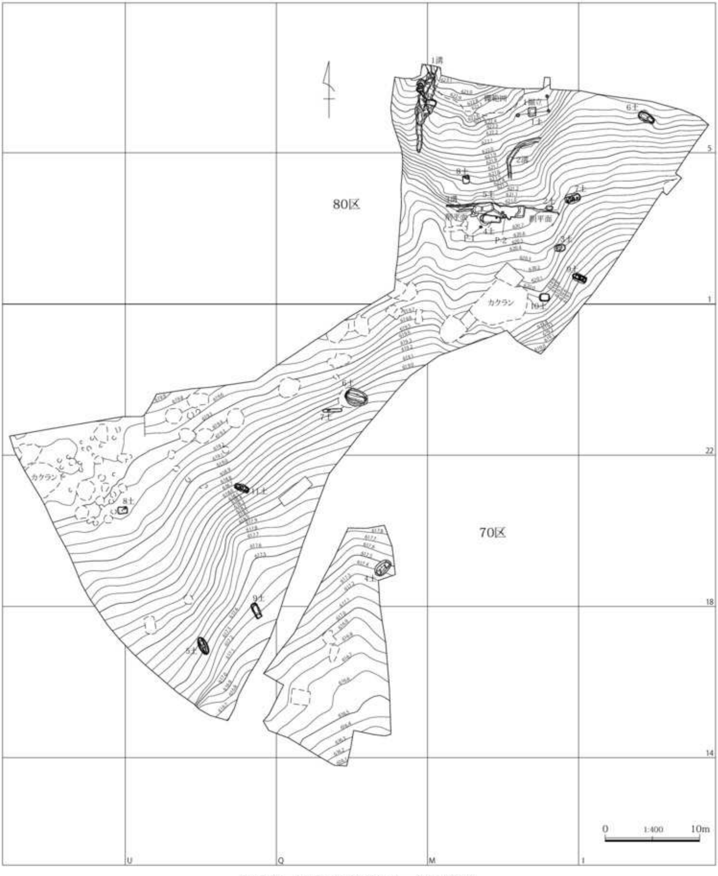
70区１号ピット（第41図PL13） 縄文面（2面）からの検出である。70区1号ピット以外に周辺からピットの検出はない。形状は長径0.35m、短径0.33m、深さ0.32mの円形である。遺物の出土はない。

80区１号ピット（第41図PL13） 平安面（1面）からの検出である。80区4号土坑・80区5号土坑の南側に位置する。形状は長径0.27m、短径0.25m、深さ0.14mの円形である。遺物の出土はない。

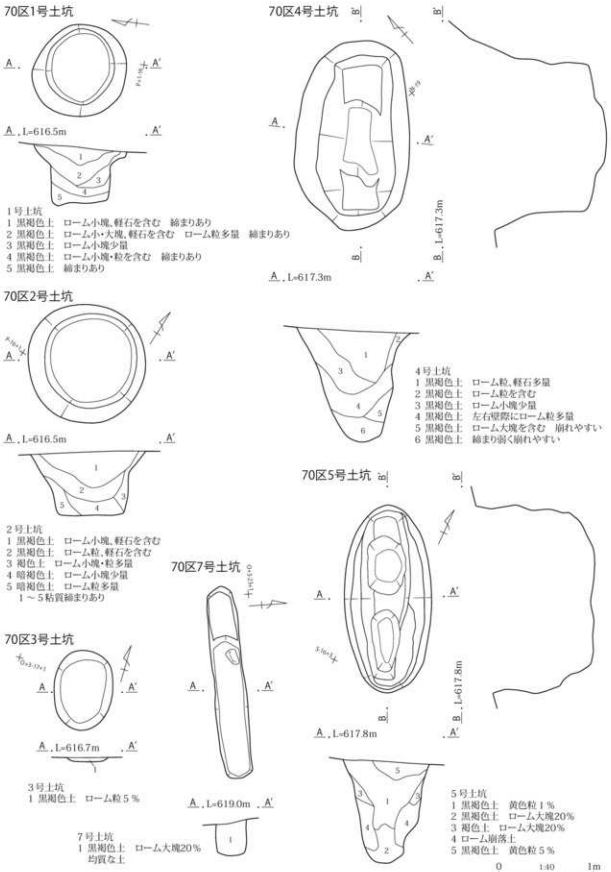
80区２号ピット（第41図PL13） 平安面（1面）からの検出である。長径0.38m、短径0.34m、深さ0.13mの楕円形である。80区5号土坑と重複し、80区2号ピットが新しい。遺物の出土はない。



第35図　東原Ⅱ遺跡(縄文面)　遺構全体図



第36図　東原Ⅱ遺跡(平安面)　遺構全体図



1号土坑
1 黒褐色土　ローム小塊、軽石を含む　締まりあり
2 黒褐色土　ローム小・大塊、軽石を含む　ローム粒多量　締まりあり
3 黒褐色土　ローム小塊少量
4 黒褐色土　ローム小塊・粒を含む　締まりあり
5 黒褐色土　締まりあり

2号土坑
1 黒褐色土　ローム小塊、軽石を含む
2 黒褐色土　ローム粒、軽石を含む
3 褐色土　ローム小塊・粒多量
4 暗褐色土　ローム小塊少量
5 暗褐色土　ローム粒多量
1～5粘質締まりあり

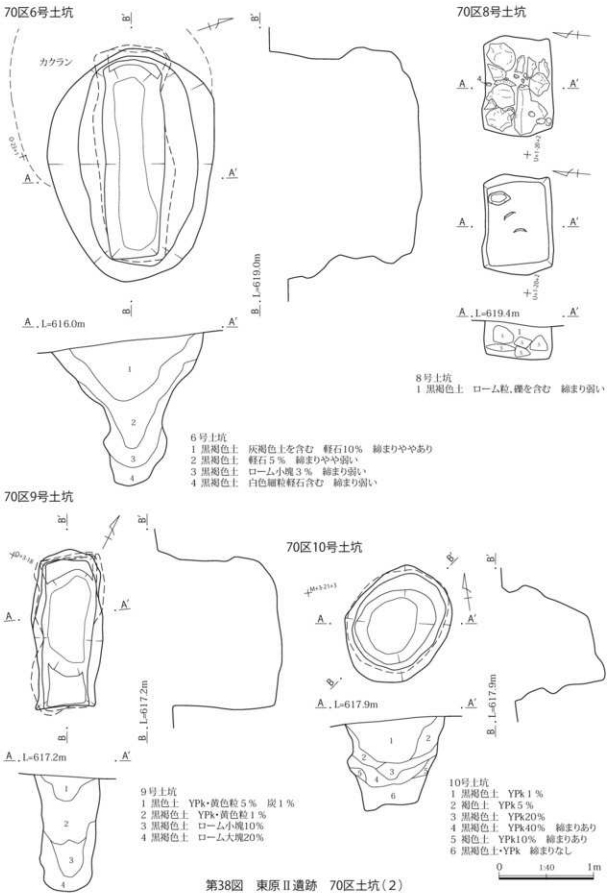
3号土坑
1 黒褐色土　ローム粒５％

4号土坑
1 黒褐色土　ローム粒、軽石多量
2 黒褐色土　ローム粒を含む
3 黒褐色土　ローム小塊少量
4 黒褐色土　左右壁際にローム粒多量
5 黒褐色土　ローム大塊を含む　崩れやすい
6 黒褐色土　締まり弱く崩れやすい

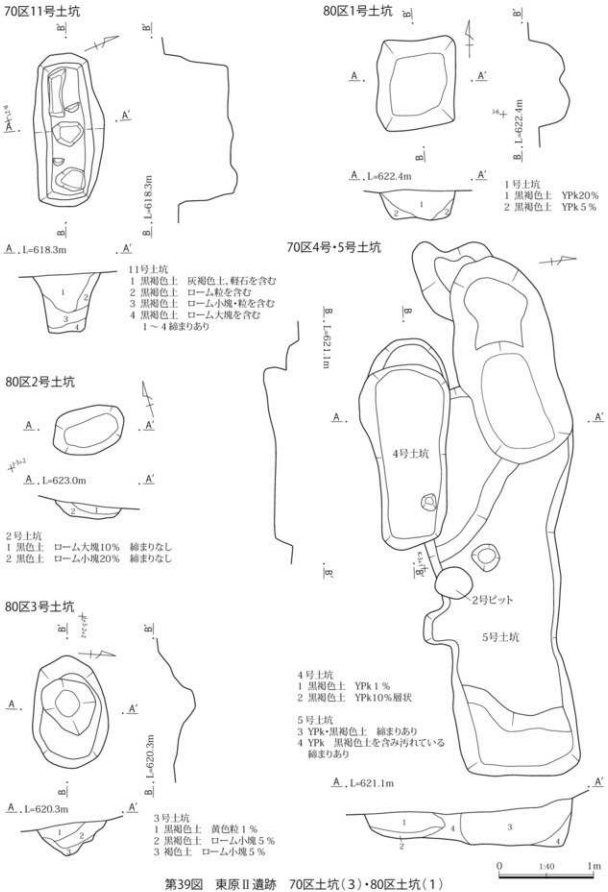
5号土坑
1 黒褐色土　黄色粒１％
2 黒褐色土　ローム大塊20％
3 褐色土　ローム大塊20％
4 ローム崩落土
5 黒褐色土　黄色粒５％

7号土坑
1 黒褐色土　ローム大塊20％
均質な土

第37図　東原Ⅱ遺跡　70区土坑（１）

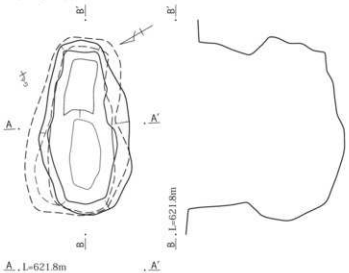


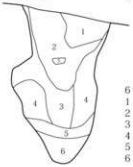
第38図　東原Ⅱ遺跡　70区土坑（２）



第39図　東原Ⅱ遺跡　70区土坑（３）・80区土坑（１）

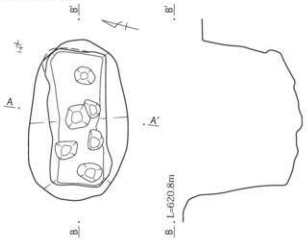
80区6号土坑





6号土坑
1 黒褐色土　YPk10%　炭粒１%
2 黒褐色土　YPk１%
3 黒褐色土　ローム小塊20%
4 黒褐色土　ローム大塊40%
5 YPk 崩落土
6 YPk・黒色土　よく混じり締まりなし

80区7号土坑

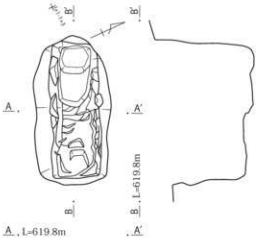


7号土坑
1 灰褐色土　YPk５%
2 黒褐色土　ローム小塊５%
3 黒褐色土　ローム大塊20%　ローム小塊20%

80区8号土坑

8号土坑
1 黒褐色土　ローム大塊多量　ローム粒を含む
2 黒褐色土　ローム小塊少量
　1，2ともに根攪乱あり

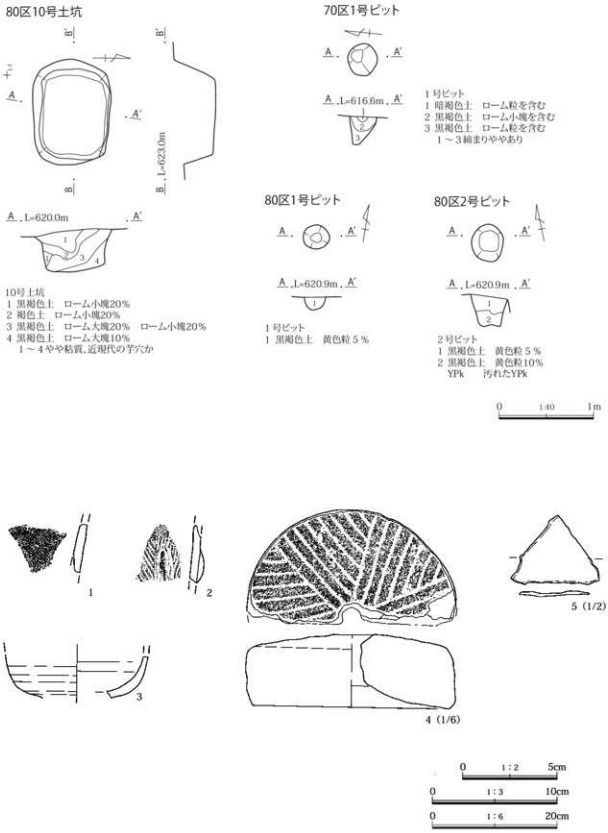
80区9号土坑



9号土坑
1 黒褐色土　ローム小塊、軽石多量　灰褐色土を含む
　締まりややあり
2 黒褐色土　軽石小量　締まりややあり
3 黒褐色土　ローム粒を含む　締まりややあり
4 黄褐色土　ローム大塊を含む　締まりややあり
5 にぶい黄褐色土　ローム大塊を含む　締まり弱い
6 黒褐色土　ローム粒を含む　締まり弱い

0　1:40　1m

第40図　東原Ⅱ遺跡　80区土坑（２）



第41図　東原Ⅱ遺跡　80区土坑（３）・70区ピット（１）・80区ピット（１）・70区・80区土坑出土遺物

第２項　掘立柱建物

東原Ⅱ遺跡では、1棟の掘立柱建物が検出された。80区3号掘立柱建物としていたが、本報告書では、東原Ⅱ遺跡80区１号掘立柱建物に変更した。

80区１号掘立柱建物(第42図PL13～14)

位置　80区I－6、J－5，6グリッドに位置する。

重複　P2・P3の南辺軸線上で80区1号土坑と重複するが、掘立柱建物との新旧関係は不明である。

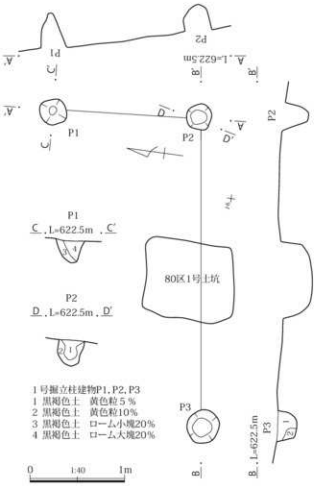
主軸方向　N－83°－E

規模　南北1.55m以上　東西3.25m以上

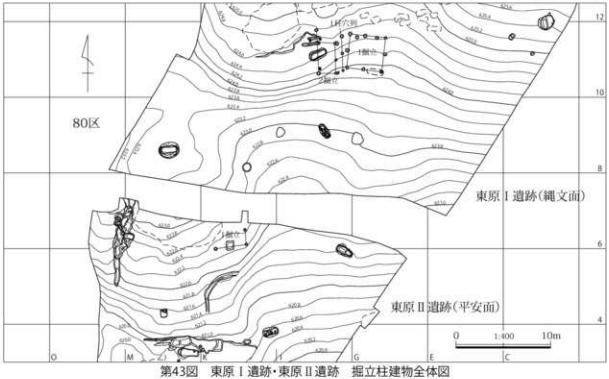
形態　1×1以上間であり面積はおよそ5.0㎡である。東辺1.55m、南辺3.25mとなる。柱穴は3基のみであるが、北西角に柱穴があった可能性がある。また、重複する80区1号土坑内において本遺構となる柱穴が存在していた可能性もある。

出土遺物　柱穴埋没土や1号掘立柱建物の位置するグリッドから出土した遺物はない。80区では中近世の陶磁器片が30点以上出土し、関連する遺物の可能性もある。

時期　柱穴埋没土から中世から近世に比定される。



第42図　東原Ⅱ遺跡　80区１号掘立柱建物



第43図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡　掘立柱建物全体図

第３項　溝・削平面

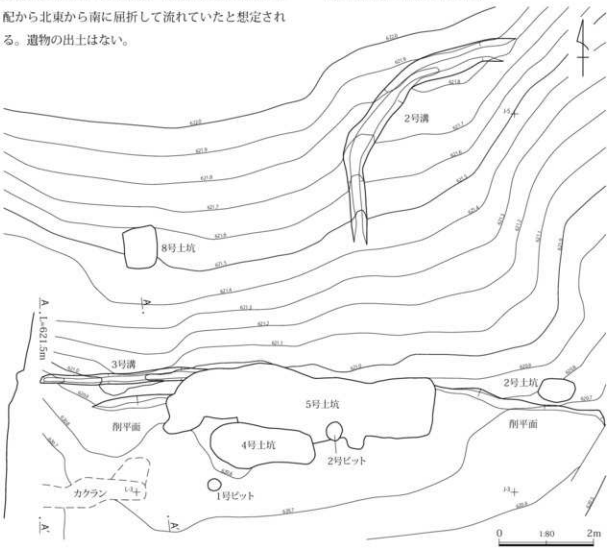
東原Ⅱ遺跡では、80区で3条の溝を調査し、80区3号・4号・5号と付番していたが、本報告書では、東原Ⅱ遺跡80区1号、2号、3号と変更した。また80区2号・3号溝周辺では削平面が確認された。第10表の遺構計測表に溝の概略を記している。

80区１号溝（第45図PL14） 80区M－5, 6, 7, L－5, 6, 7グリッドに位置する。縄文面（2面）からの検出である。溝の全長9.08m、1.90m、深さ1.39mである。主軸方向は東に8度傾き、勾配から北から南に流れていたと想定される。遺物は、非掲載であるが埋没土から石器剥片が2点出土している。

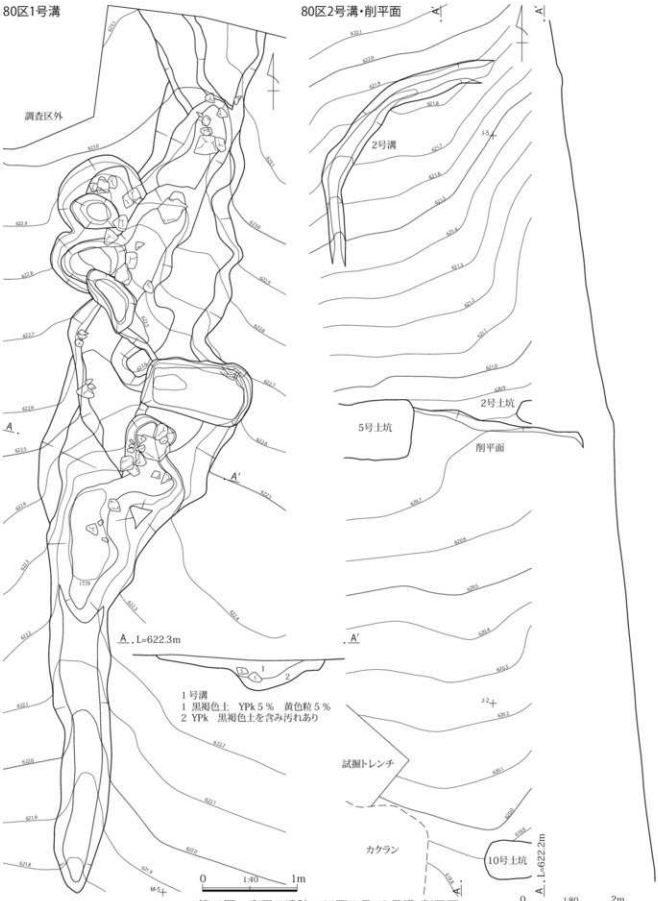
80区２号溝（第45図PL14） 80区J－4, 5グリッドに位置する。縄文面（2面）からの検出である。溝の全長およそ2.70m、幅0.58m、深さ0.52mである。勾配から北東から南に屈折して流れていたと想定される。遺物の出土はない。

80区３号溝（第44図PL13） 80区K－3, L－3グリッドに位置する。縄文面（2面）のローム面からの検出である。等高線に対してほぼ平行に走る。溝の全長3.20m、幅0.23m、深さ0.29mである。底面に鍬を使用したような工具痕が見られる。80区4号，5号土坑と重複し、新旧は不明である。溝の時期は中世から近世か。遺物の出土はない。

80区2号・3号溝の南側では、削平面が認められる。80区3号溝は、その法面に位置している。北側に位置する2号溝から3号溝までは傾斜角がややあり、3号溝を境として削平面が現れ緩やかに下る傾斜地となっている。削平面の周辺では、土坑やピットなども検出されている。また、東原Ⅰ遺跡80区1号・2号掘立柱建物跡周辺においても削平面が確認されている。時期は、中世から近世か。

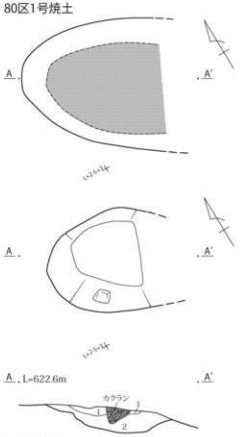


第44図　東原Ⅱ遺跡　80区２号・３号溝・削平面

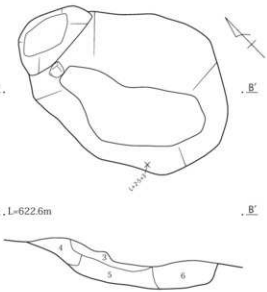


第45図　東原Ⅱ遺跡　80区１号・２号溝・削平面

80区1号焼土

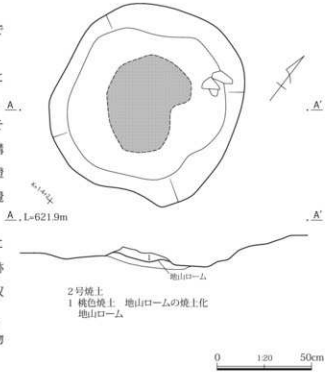


1 号焼土SPA－A′
1 灰白色灰　やや粘質のシルト　炭片５％
2 橙色焼土　よく焼けている　YPk含む



1 号焼土SPB－B′(掘り方)
3 黒色粘質土　焼土大塊10%　焼土小塊５％
4 黒色粘質土　焼土小塊10%
5 黒色粘質土　焼土小塊20%
6 YPk

80区2号焼土



2 号焼土
1 橙色焼土　地山ロームの焼土化
地山ローム

第４項　焼土

東原Ⅱ遺跡において検出された焼土は、2基のみである。

80区１号焼土（第46図PL14） 80区L－5グリッドに位置する。平安面(1面)からの検出である。焼土は、確認面において長径東半部は不明であるが、およそ0.75m、短径0.70mの楕円形の範囲に収まる。遺構断面の観察から第1層は炭化物が含まれ、第2層は橙色焼土となりよく焼けている。上面中央部には根攪乱が見られる。遺物の出土はない。

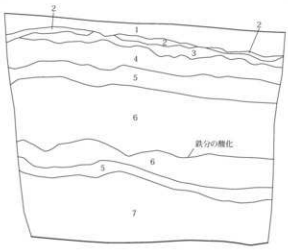
80区２号焼土（第46図PL14） 80区K－4グリッドに位置する。平安面（1面）からの検出である。焼土跡は、長径1.04m、短径0.95mの不整円形の範囲に収まる。遺構断面の観察から焼土の残りは僅かとなり、地山ロームの焼土化した部分が残されている。遺物の出土はない。

第46図　東原Ⅱ遺跡　80区１号・２号焼土

第５項　旧石器試掘

（第47図PL14）東原Ⅱ遺跡において縄文面（2面）調査終了後、旧石器時代の試掘調査を実施した。70区R－18，R－22，P－20，N－22，L－20，K－22グリッドの6箇所に3mの正方形テストピット（以下TPと略す）を設定し、発掘現場作業員による鋤簾などを使った掘り下げによって遺構や遺物の確認を行った。しかし、旧石器時代に該当する遺構や遺物は検出されなかった。

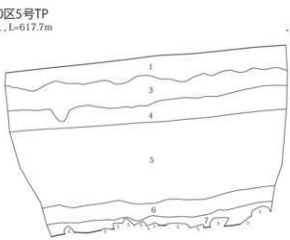
70区3号TP



70区３号ＴＰ北壁
1 基本土層のⅦ
2 基本土層のⅦ
3 基本土層のⅨ
4 YPk細粒パミス
5 アッシュ
6 粗粒パミス
7 基本土層のⅪb　鉄分酸化で分かれる

70区５号ＴＰ西壁
1 基本土層のⅦ
3 YPk細粒軽石
4 アッシュ
5 パミス
6 基本土層のⅩ
7 基本土層のⅪ

70区5号TP

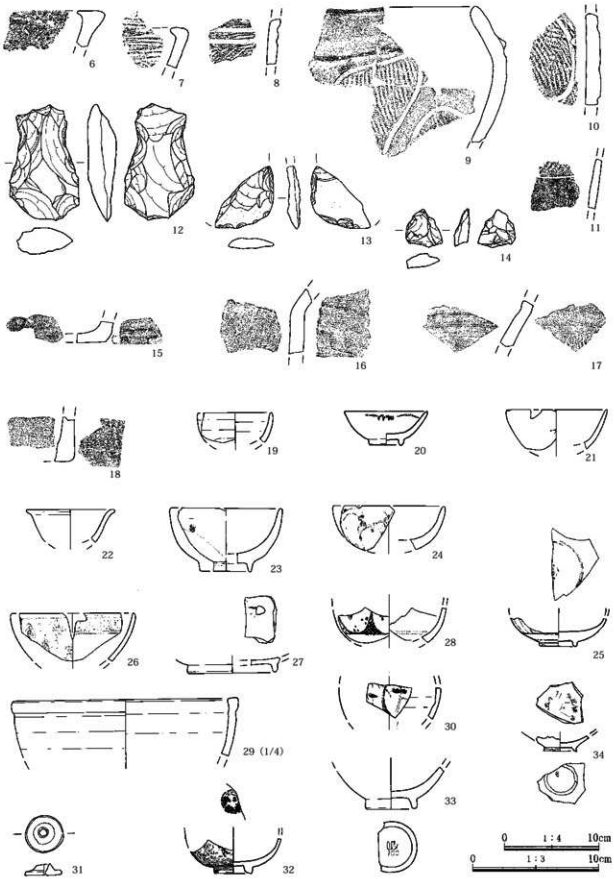


第６項　遺構外から出土した遺物

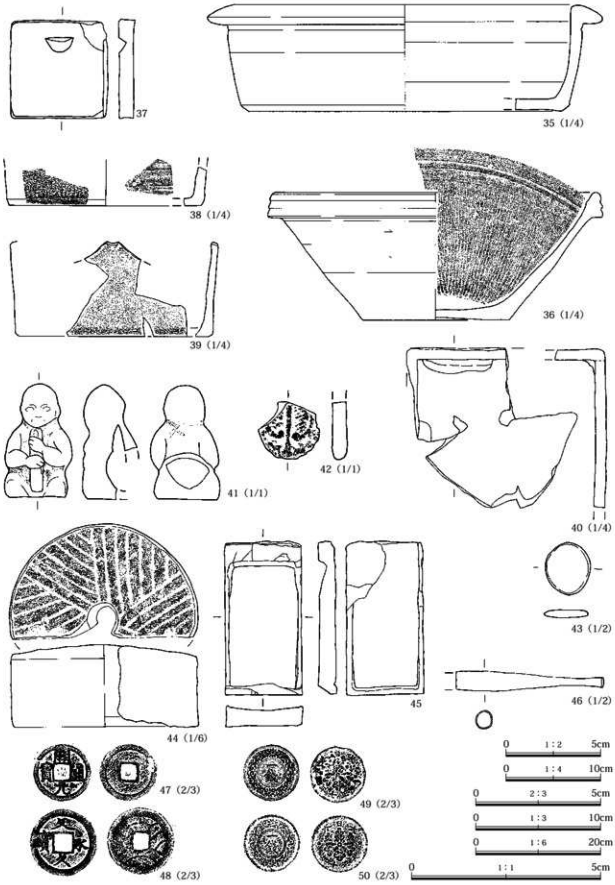
（第48～49図PL25～26）東原Ⅱ遺跡において遺構外から出土した遺物は、278点である。土器片（縄文・平安）は25点、石器は11点、中世から近世の陶磁器は234点、金属類は8点である。遺構外から出土した遺物のうち、本項において図下した遺構外遺物は、土器、石器、陶磁器、金属類など45点となった。縄文時代の土器片は6点であり、数は少ないが前期から中期後半まで時期の幅が広く出土している。土器片6点のうち5点が70区からの出土であるが、調査区およびその周辺から縄文時代の住居跡などは検出されなかった。また中近世の遺物では、70区石垣周辺において中世内耳土器破片、すり鉢や火鉢などの破片が5点出土している。石器は6点であり、80区において打製石斧や剥離片、70区石垣周辺では、石臼破片、砥石、硯、碁石などが出土している。東原Ⅱ遺跡においても陶磁器の出土が最も多い。本項における掲載も一部のみとなり、70区23点、80区5点である。主な時期は近現代である。金属類については、煙管1点、古銭（開元通寶・文久永寶）2点、近代の硬貨2点の計5点なっている。70区の遺構外から出土した遺物のうち、石垣周辺から出土したものを数えると165点となり、そのほとんどが近現代の遺物である。石垣は長野原町指定史跡「御塚」南側の調査区境界に位置し、石垣南の表土下は削平され広範囲に攪乱が認められた。この石垣については、表土掘削前から確認されており、周辺住民の証言から近年に転居されるまで屋敷があったことが分かった。本書では、この石垣については近現代の所産とした。石垣周辺から出土した遺物は遺構外遺物として扱ったが、近世を中心とした数多くの遺物出土状況などから石垣南側では近世から屋敷などが存在していたことが伺える。80区遺構外から出土した遺物は、80区北側において検出された中近世と考えられる掘立柱建物や東原Ⅰ遺跡から検出された2棟の掘立柱建物跡、さらには隣接する長野原町指定史跡の「御塚」に関連する可能性もある。

0　1:40　1m

第47図　東原Ⅱ遺跡　70区３号・５号ＴＰ



第48図　東原Ⅱ遺跡 遺構外出土遺物(1)



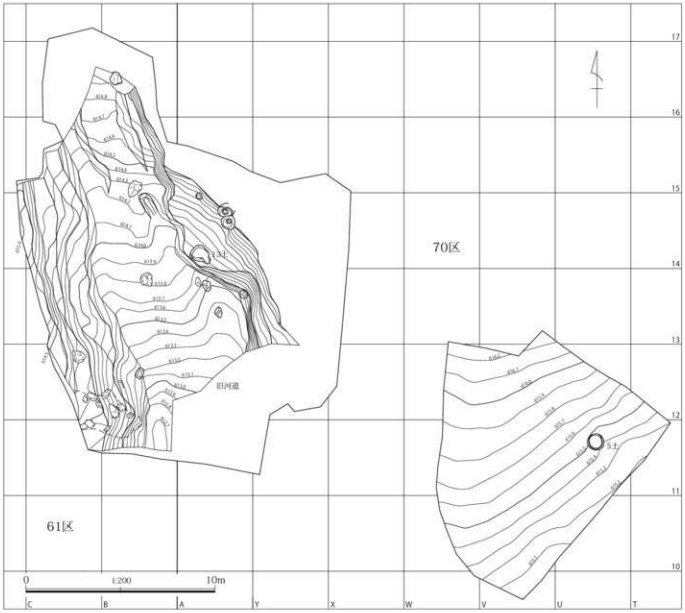
第49図　東原Ⅱ遺跡 遺構外出土遺物(2)

第３節　東原Ⅲ遺跡

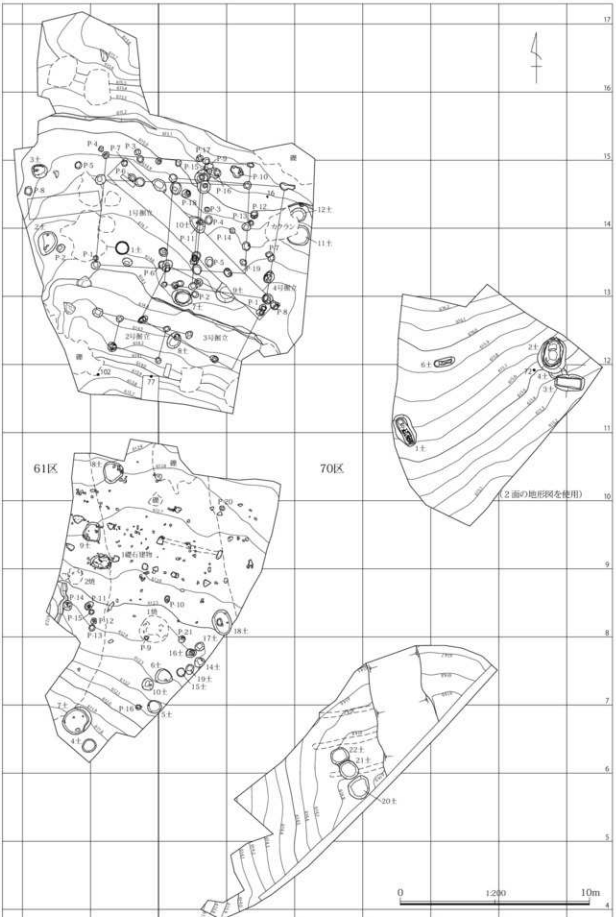
東原Ⅲ遺跡は、町道によって東原Ⅱ遺跡と分かれている。標高は３遺跡の中で最も低い位置にある。調査面積は、平成20年度779㎡、平成21年度487㎡である。東原Ⅲ遺跡は、NO.27地区61区(以下NO.27地区省略)、NO.26地区70区(以下NO.26地区省略)の2つの「地区」に所在する。また、東原Ⅱ遺跡と70区において重複している。平成20年度・21年度の発掘調査によって数多くの遺構や遺物が検出された。

第１項　土坑・ピット

東原Ⅲ遺跡において検出された土坑は61区11基、70区21基、計32基である。ピットは61区16基、70区22基の計38基となった。土坑、ピットとしていたが、掘立柱建物の柱穴となった土坑およびピットが42基ある。旧70区48号ピットは、4号掘立柱建物P1と同一のため欠番とした。東原Ⅲ遺跡で検出された土坑やピットは、第11表および第12表の土坑、ピット計測表に概略を記した。本項では調査区ごとに特徴が見られる土坑やピットを取り上げて考察する。



第50図　東原Ⅲ遺跡（２面）　全体図



第51図　東原Ⅲ遺跡（１面）　全体図

NO.27地区

61区１号土坑（第52図PL15）1面からの検出である。形状は上面直径0.79m、深さ0.09mの円形である。遺構断面の観察から壁面および底面に黄色粘土を充填し、内側縁には溝状の凹みが確認できる。また、底面には腐食した木片痕跡が多く見られ、桶を埋設していた土坑である。遺物の出土はなく、時期は近世以降か。

61区２号土坑（第52図PL15）形状は上面形・底面形ともに楕円形であり、上面長径1.43m、短径1.02m、深さ0.36mである。大角礫が多量に含まれている。遺物は近世の陶器1点、砥石１点、縄文土器片1点（非掲載）が出土する。時期は近世か。

61区４号土坑（第52図PL15）形状は上面形・底面形ともに円形であり、上面長径0.83m、短径0.75m、深さ0.02mである。粘土貼りとなり、形状などから桶を埋設していた土坑の可能性がある。時期は近世か。近世後半染付碗か猪口1点(非掲載)が出土する。

61区５号土坑（第52図PL15）形状は上面形・底面形ともに円形であり上面長径0.82m、短径0.78m、深さ0.31mである。時期は近世か。遺物は近世尾呂茶碗の破片1点が出土する。

61区７号土坑（第52図PL15）形状は上面形・底面形ともに円形であり上面長径1.70m、短径1.48m、深さ0.22mである。粘土の充填などは見られないが、形状などから大型の桶を敷設していた土坑の可能性がある。時期は近世か。遺物の出土はない。

61区８号土坑（第52図PL15）形状は上面形・底面形ともに円形であり上面長径1.25m、短径1.15m、深さ0.31mである。遺構上層に焼土が多く含まれているが、全面的な広がりはない。時期は近世か。遺物は近世以降の染付碗が1点出土している。

61区９号土坑（第53図PL15）61区1号礎石建物内に位置する。形状は上面形・底面形ともに円形であり上面長径1.13m、短径0.98m、深さ0.20mである。焼土が含まれている。時期は近世か。遺物は近世の染付破片4点（掲載1点）が出土している。

61区10号土坑（第53図PL15）形状は上面形・底面形ともに円形であり上面長径0.70m、短径0.68m、深さ0.31mである。暗褐色土の埋没である。時期は近現代か。遺物は、近世の染付碗が1点出土する。

NO.26地区

70区１号土坑（第53図PL15）1面からの検出である。上面形・底面形ともに不整長方形であり、底面長径1.60m、短径0.32m、深さ1.11mの陥し穴と考えられる。遺物は非掲載であるが縄文土器片が1点出土する。短径断面の観察から壁面は斜めに立ち上がり、底面は南側がやや深く掘り込まれ工具痕が認められる。時期は平安時代か。

70区２号土坑（第54図PL15）1面からの検出である。上面形・底面形ともに楕円形であり、底面長径0.95m、短径0.50m、深さ2.33mの陥し穴と考えられる。短径断面の観察から壁面はほぼ斜めに立ち上がり、中段でオーバーハングしている。底部施設はない。時期は平安時代か。遺物は縄文土器片が2点（非掲載）、打製石斧が1点出土している。

70区３号土坑（第53図PL15）1面からの検出である。上面形・底面形ともに不整長方形であり、底面長径1.36m、短径0.48m、深さ1.82mの陥し穴と考えられる。短径断面の観察から壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

70区４号土坑（第54図PL15）上面形・底面形ともに不整長方形か。断面の観察から壁は斜めに立ち上がり深さは0.45mである。70区2号土坑、3号土坑と重複し、2基の土坑より新しい。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

70区５号土坑（第53図PL16）2面からの検出である。上面形・底面形ともに円形であり、上面長径0.87m、短径0.86m、深さ0.40mで壁面は斜めに立ち上がる。遺物の出土はなく、時期は縄文時代か。

70区６号土坑（第53図PL16）1面からの検出である。上面形楕円形・底面形不整長方形である。上面長径1.25m、短径0.44m、深さ0.32mであり、壁面は斜めに立ち上がる。遺物の出土はなく、時期は平安時代か。

70区８号土坑（第54図PL22）1面からの検出である。上面形・底面形ともに楕円形であり、上面長径0.95m、短径0.75m、深さ0.25mである。遺物は敲石が

1点出土する。

70区９号土坑（第54図PL16）1面からの検出である。試掘トレンチによって一部欠損しているが、上面形不整楕円形・底面形楕円形、深さ0.37mである。近世以降の瀬戸・美濃染付1点（非掲載）が出土する。

70区10号土坑（第54図PL16）1面からの検出である。上面形・底面形ともに楕円形であり、上面長径1.20m、短径0.70m、深さ0.44mである。70区19号ピットと重複し、70区10号土坑が古い。

70区13号土坑（第54図PL16）2面からの検出である。上面形・底面形ともに不整形であり、上面長径1.10m、短径0.80m、深さ0.23mである。遺物の出土はなく、時期は縄文時代か。

70区14号土坑（第55図PL16）1面からの検出である。上面形・底面形ともに円形であり、上面長径0.63m、短径0.57m、深さ0.28mである。近世染付碗の破片1点（非掲載）が出土する。

70区17号土坑（第55図PL17）1面からの検出である。上面形・底面形ともに円形であり、上面長径0.58m、短径0.50m、深さ0.40mである。遺物は近世すり鉢破片1点（非掲載）が出土する。

70区20号土坑（第55図PL17）人為的な削平が激しい1面からの検出である。上面形円形・底面形楕円形であり、上面長径1.37m、短径1.25m、深さ0.57mである。断面の観察から壁面は垂直に立ち上がり、人為的に埋め戻された様相である。形状などから桶を埋設していた土坑と考えられる。時期は近現代か。

70区21号土坑（第55図PL17）70区20号土坑と同様に1面からの検出である。上面形・底面形ともに円形であり、上面長径1.08m、短径1.03m、深さ0.63mである。桶を埋設していた土坑と見られ、時期は近現代か。近世の陶器碗1点が出土する。

70区22号土坑（第55図PL17）70区20号・21号土坑と隣接した位置からの検出である。上面形楕円形・底面形円形であり上面長径1.04m、短径0.84m、深さ0.30mである。形状などから桶を埋設した土坑の可能性があり、時期は近現代か。

東原Ⅲ遺跡のピットは、前述のとおり70区61区16基、21基である。掘立柱建物の柱穴を合わせると総数は74基となる。

NO.27地区

61区９号ピット（第56図PL17）1面からの検出である。形状は長径0.25m、短径0.21m、深さ0.15mの円形である。61区1号焼土内において重複している。遺物の出土はない。

61区10号ピット（第56図PL17）1面からの検出である。形状は長径0.42m、短径0.28m、深さ0.14mの楕円形で、近世陶器片1点（非掲載）が出土する。

61区14号ピット（第56図PL18）1面からの検出である。形状は長径0.60m、短径0.55m、深さ0.67mの円形である。遺物は、陶器片1点、煙管1点が出土する。時期は近世か。

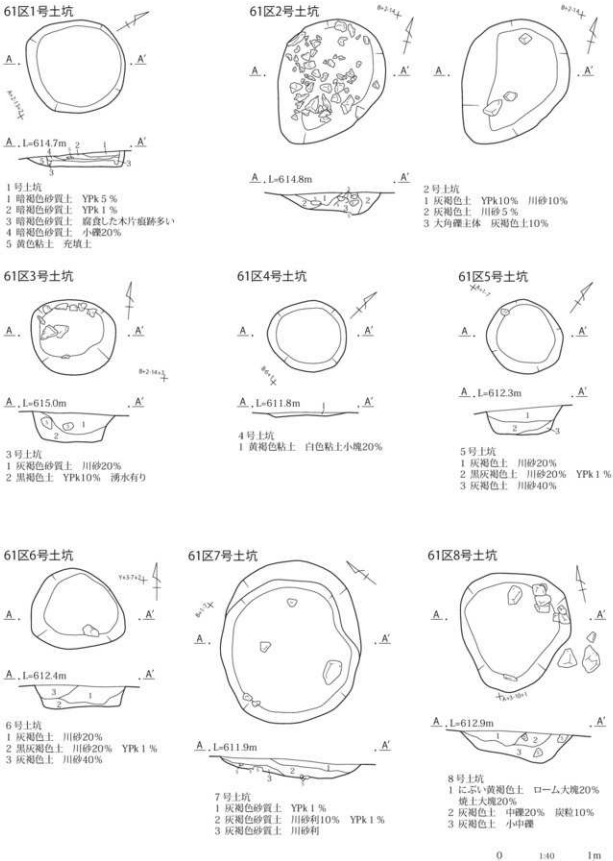
NO.26地区

70区１号ピット（第56図PL21）1面からの検出である。形状は長径0.37m、短径0.35m、深さ0.17mの円形である。3号掘立柱建物P3と重複し70区１号ピットが古い。遺物の出土はなく、時期は近世か。

70区９号ピット（第57図PL18）1面からの検出である。形状は長径0.58m、短径0.33m、深さ0.36mの不整形である。70区15号・16号ピットと重複する。遺物の出土はない。

70区13号ピット（第57図PL18）1面からの検出である。形状は長径0.31m、短径0.30m、深さ0.15mの円形である。70区1号掘立柱建物P1と重複し、70区13号ピットが新しい。遺物の出土はない。

70区20号ピット（第57図PL19）1面からの検出である。形状は長径0.32m、短径0.25m、深さ0.09mの楕円形で、近世磁器片1点（非掲載）が出土する。



1 号土坑
1 暗褐色砂質土　YPk５％
2 暗褐色砂質土　YPk１％
3 暗褐色砂質土　腐食した木片痕跡多い
4 暗褐色砂質土　小礫20％
5 黄色粘土　充填土

2 号土坑
1 灰褐色土　YPk10％　川砂10％
2 灰褐色土　川砂５％
3 大角礫主体　灰褐色土10％

3 号土坑
1 灰褐色砂質土　川砂20％
2 黒褐色土　YPk10％　湧水有り

4 号土坑
1 黄褐色粘土　白色粘土小塊20％

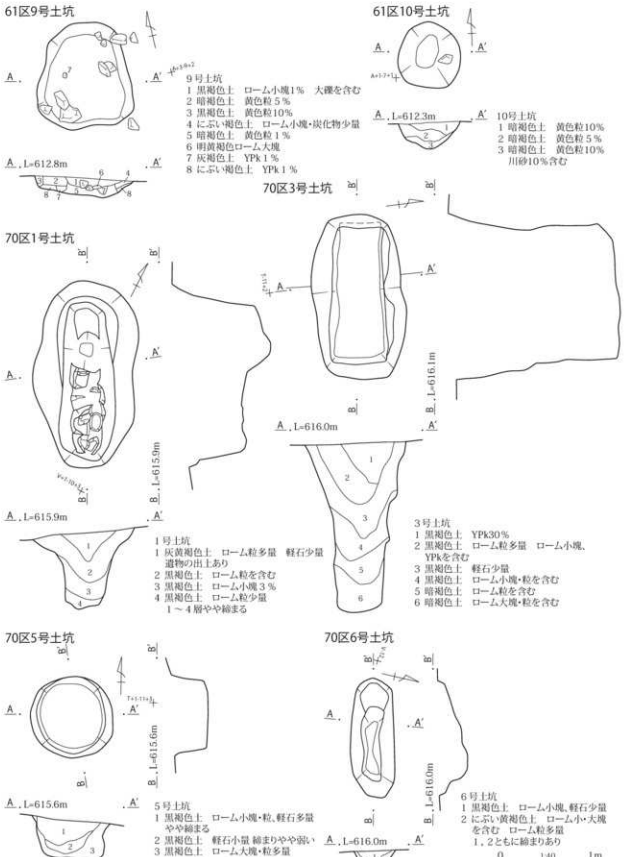
5 号土坑
1 灰褐色土　川砂20％
2 黒灰褐色土　川砂20％　YPk１％
3 灰褐色土　川砂40％

6 号土坑
1 灰褐色土　川砂20％
2 黒灰褐色土　川砂20％　YPk１％
3 灰褐色土　川砂40％

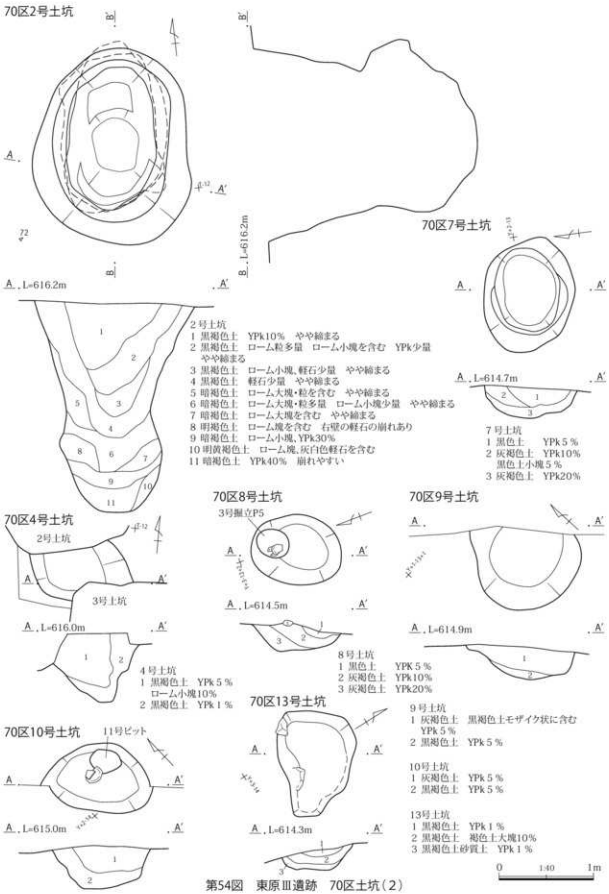
7 号土坑
1 灰褐色砂質土　YPk１％
2 灰褐色砂質土　川砂利10％　YPk１％
3 灰褐色砂質土　川砂利

8 号土坑
1 にぶい黄褐色土　ローム大塊20％
焼土大塊20％
2 灰褐色土　中礫20％　炭粒10％
3 灰褐色土　小中礫

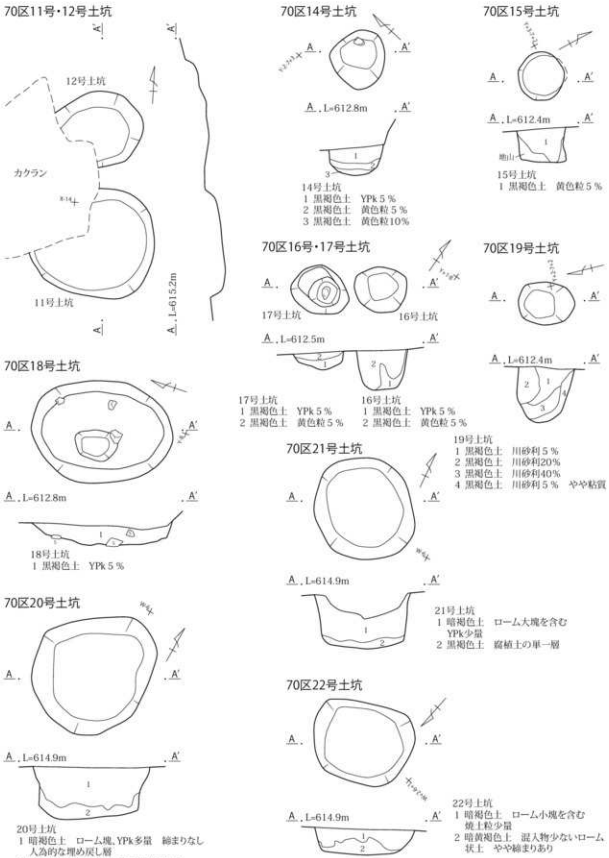
第52図　東原Ⅲ遺跡　61区土坑（１）



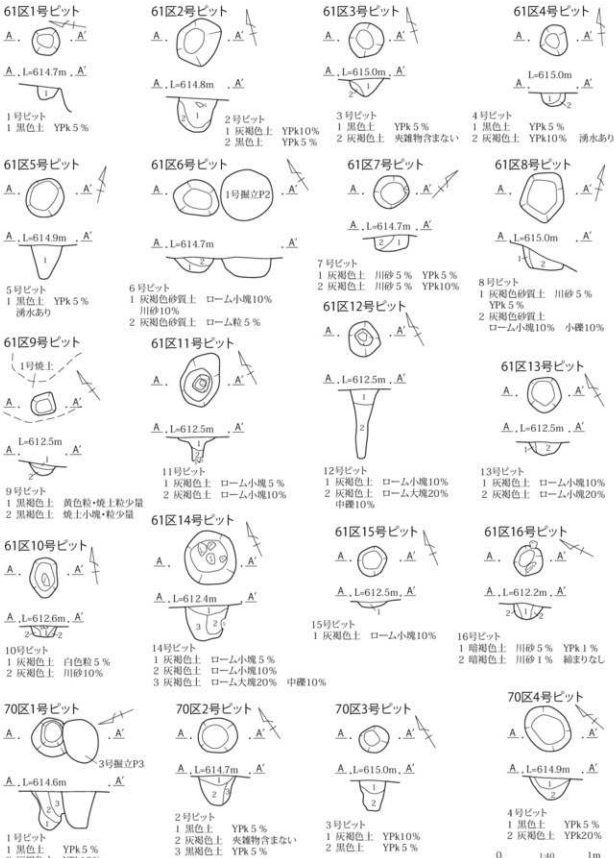
第53図　東原Ⅲ遺跡　61区土坑（２）・70区土坑（１）



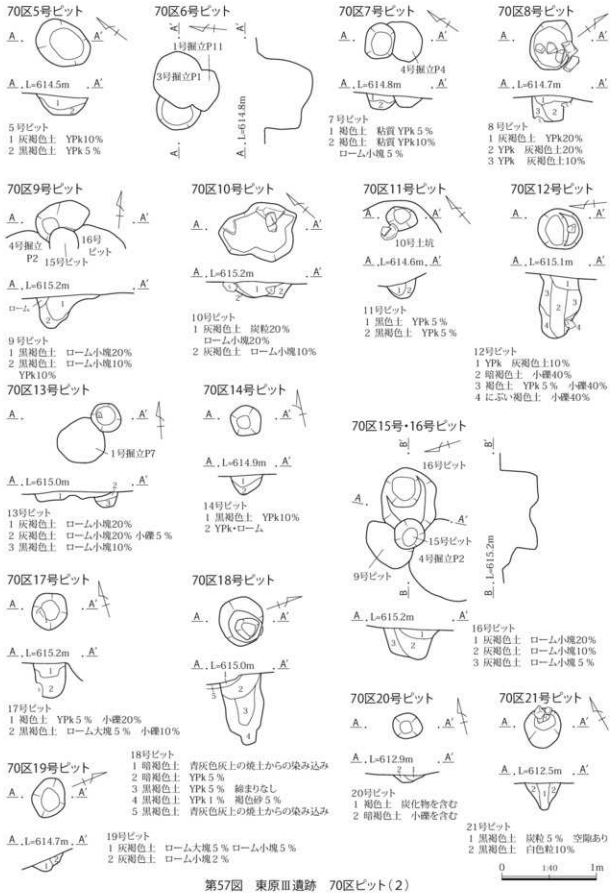
第54図　東原Ⅲ遺跡　70区土坑（2）



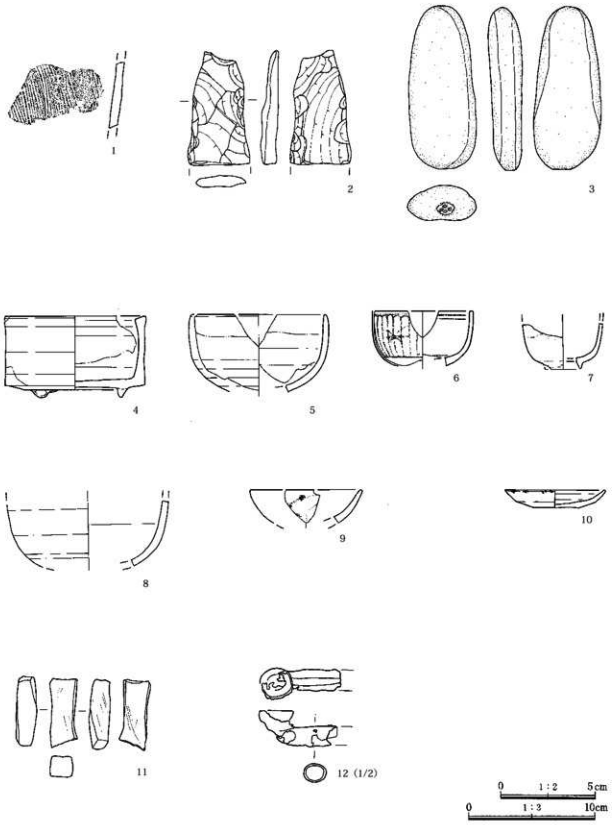
第55図　東原Ⅲ遺跡　70区土坑（３）



第56図　東原Ⅲ遺跡　61区ピット（１）・70区ピット（１）



第57図　東原Ⅲ遺跡　70区ピット（２）



第58図　東原Ⅲ遺跡 61区・70区土坑・ピット出土遺物

第２項　掘立柱建物

東原Ⅲ遺跡では、61区、70区それぞれ1面の調査から4棟の掘立柱建物が復元された。

70区１号掘立柱建物（第60～61図PL19～21）

位置　70区X－13，14、Y－13，14，15、61区A－13，14，15グリッドに位置する。

重複　70区3号・4号掘立柱建物と重複する。P11は3号掘立柱建物P1と重複しP11が新しい。61区1号土坑は、木桶を埋設していた円形の土坑である。

主軸方向　N－86°－W

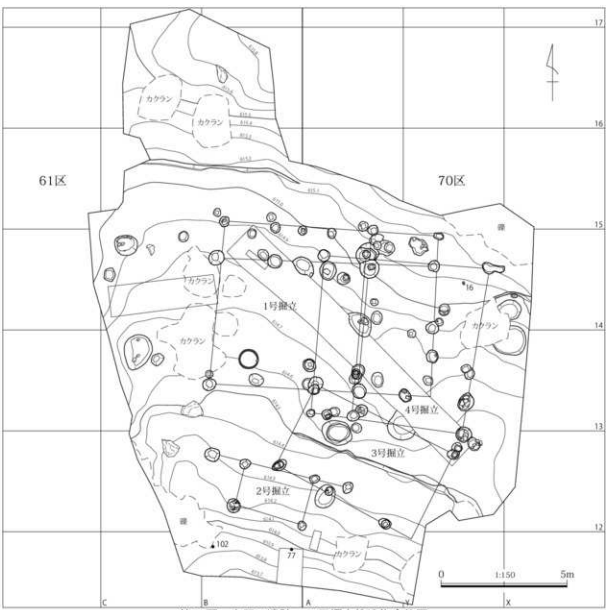
規模　南北6.44m、東西8.54m。

形態　2×4間の東西棟。下屋：北 。南東隅柱穴は未検出だが、試掘調査時に欠損した可能性がある。柱筋の通りは全体に良くない。北辺（P1～6）と南辺（P9～13）で、向かい合う柱穴同士の軸がそろわず、南辺が全体として西に寄っている。この状況で屋根が架かっているとすれば、棟方向は歪んで、主軸方向より少し東に振れているのではなかろうか。P3とP16は半間の間柱となっている。下屋部分だけ間柱が入る事例が、八ツ場地域で散見されるが、身屋柱も合わせている例は少ない。間仕切りの必要に起因するのかもしれない。梁側の東辺中間付近にP7・8を設けるのは、出入り口に関係する可能性がある。

内部施設　なし

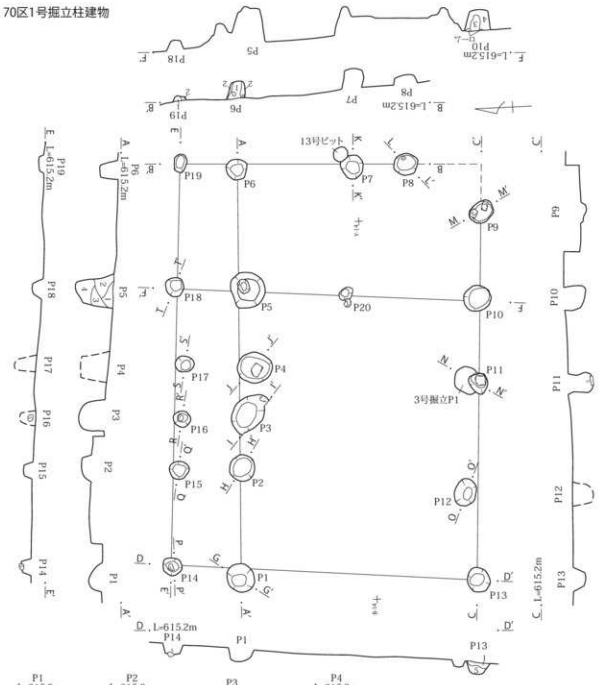
出土遺物　P11砥石（NO.13）、P13碁石（NO.14）、P5近世の瀬戸・美濃陶器片1点（非掲載）が出土する。P17付近で近世の肥前磁器1点（非掲載）が出土する。

時期　近世

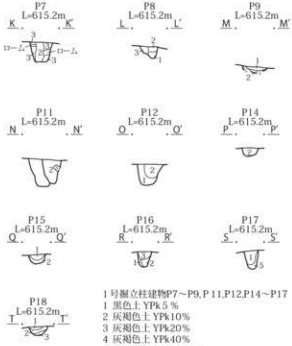


第59図　東原Ⅲ遺跡　70区掘立柱建物全体図

70区1号掘立柱建物



第60図　東原Ⅲ遺跡　70区１号掘立柱建物（１）・１号掘立柱建物出土遺物



第61図　東原Ⅲ遺跡　70区１号掘立柱建物（２）

70区２号掘立柱建物（第62図PL21）

位置　70区Y－12、61区A－12グリッドに位置する。

重複　重複している土坑やピットなどの遺構はないが、北辺（P1 ～ P4）の軸線と3号掘立柱建物の南辺（P4 ～ P6）が重なっている。

主軸方向　N－73°－W

規模　南北3.72m、東西4.10m。

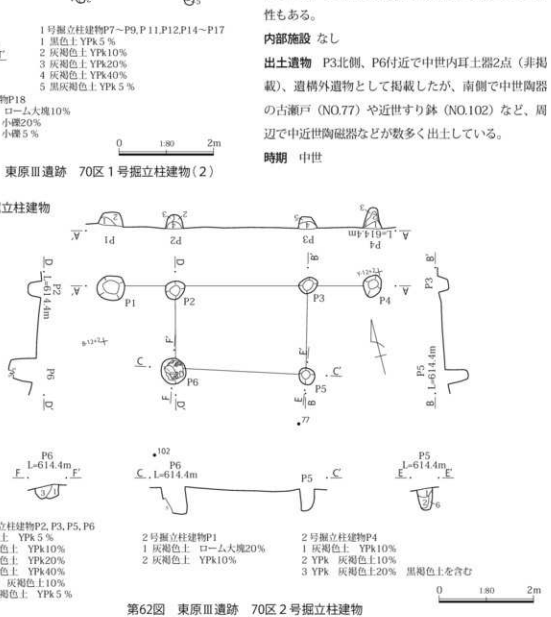
形態　1×1間。東原Ⅲ遺跡の中で規模が最も小さい。柱穴は6基である。北辺P1からP2の間隔は1.38m、P3からP4の間隔は1.40mとなり、ほぼ等間隔である。P1、P4は軸線に乗っているため本遺構に属すると考えられる。1×1間であるが、南側へさらに延びる可能性もある。

内部施設　なし

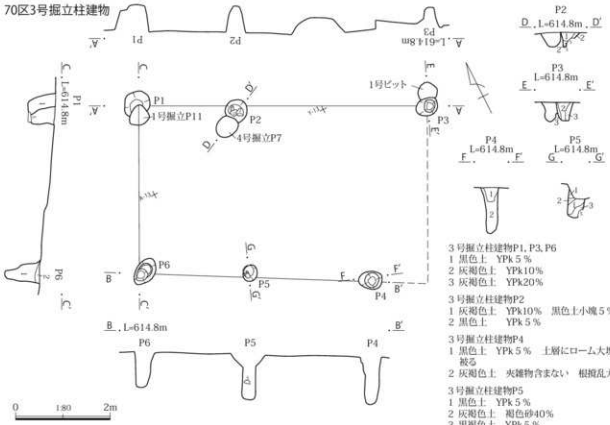
出土遺物　P3北側、P6付近で中世内耳土器2点（非掲載）、遺構外遺物として掲載したが、南側で中世陶器の古瀬戸（NO.77）や近世すり鉢（NO.102）など、周辺で中近世陶磁器などが数多く出土している。

時期　中世

70区2号掘立柱建物



第62図　東原Ⅲ遺跡　70区２号掘立柱建物



第63図　東原Ⅲ遺跡　70区３号掘立柱建物

70区３号掘立柱建物（第63図PL21～22）

位置　70区X－12、Y－12、13、61区A－12グリッドに位置する。

重複　1号・2号・4号掘立柱建物と重複する。P1は1号掘立柱建物P11と重複しP1が古い。P2は4号掘立柱建物P7と重複しP7が新しい。P3は70区1号ピットと重複しP3が新しい。

主軸方向　N－63°－W

規模　南北3.54m、東西6.20m。

形態　1×2以上間の東西棟である。柱穴は6基である。西辺（P1－P6）の軸線とP3－P4の軸線が揃わないことから、P4と向かい合う柱穴がP2とP3の間に設定された試掘トレンチの位置にあった可能性がある。

内部施設　なし

出土遺物　非掲載であるがP1から近世後半陶器碗破片1点、P6から縄文土器片2点、P4付近から中世内耳土器1点が出土している。遺構外遺物として周辺で中近世陶磁器などが数多く出し、関連が想定される。

時期　近世

70区４号掘立柱建物（第64図PL22）

位置　70区X－12、13、14、Y－13、14グリッドに位置する。

重複　1号・3号掘立柱建物と重複する。3号掘立柱建物より新しい。P2と1号掘立柱建物P5と重複するが、新旧は不明である。

主軸方向　N－63°－W

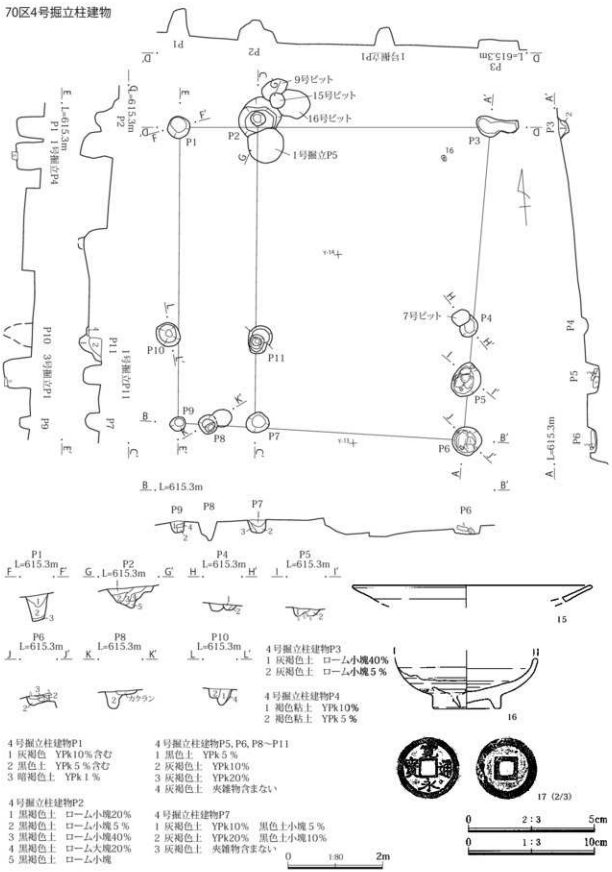
規模　南北3.54m、東西6.20m。

形態　2×2間あるいは3×3間の東西棟である。西辺P1からP9とP2からP7の2本の軸線方向は揃うが、東辺（P3～P6）の軸線が内側に傾くため、やや歪みが生じている。東辺のP4、P5が出入り口か。

内部施設　なし

出土遺物　P2から古銭（寛永通寶）1点、P7から近世陶器皿1点（NO.15）、縄文土器片1点（非掲載）、P3付近で近世陶器碗（NO.16）が出土している。遺構外遺物として周辺で中近世陶磁器などが数多く出土している。

時期　近世



第64図　東原Ⅲ遺跡　70区４号掘立柱建物・４号掘立柱建物出土遺物

第3項　礎石建物

平成20年度は61区、70区北側において前述のとおり4棟の掘立柱建物の調査を行った。平成21年度は調査区が拡張され、61区、70区南側の発掘調査によって1棟の礎石建物が検出された。

61区1号礎石建物（第65図PL23）

位置　70区X−8，9、Y−8，9、61区A−8，9，10、B−8，9，10グリッドに位置する。

重複　礎石1と礎石2の間に61区1号炉が重複している。礎石建物の内部では、61区9号土坑が重複している。重複していないが、隣接する遺構として礎石建物の北西角および南西角付近にそれぞれ1基の土坑がある。また、南側に61区1号焼土、61区2号焼土がある。

確認状況　調査前の土地利用状況は畑地であったが、表土掘削の結果、約50㎝の盛土が確認され、元来窪地であったことが判明した。遺構確認面は、表土下約50㎝の旧地表面から約1m掘削したⅢ層上面であり、重機による掘削作業時に礎石を確認した面である。北東部は基盤層（ローム二次堆積層のような固い礫混土）が露呈しており、旧時に削平されていたと思われる。なお、周辺住人の聞き取りにより、昔家が建っていたという伝承があることが判明した。

形態　礎石は12基残っていた。明確な掘り方を持つものは少ないが、礎石5・6は下層に石が1・2石入れられていた。下層の石は根石であろうが、礎石より大きい石もあり、亀の子積み状を成している。

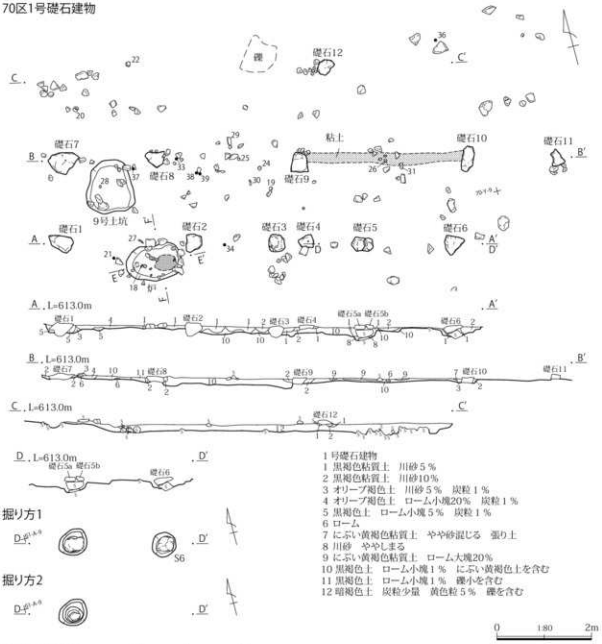
内部施設　61区1号炉は、イロリである可能性が高い。規模は長径117㎝、短径0.72 ～ 0.76㎝、深さ20㎝である。周辺にはまばらに石が囲っており、枠の構築材の一部であろう。礎石9と礎石10の間に、幅20㎝強、厚さ約3㎝のにぶい黄褐色粘質土が直線的に張られていた。特に硬化面は認められなかったが、上部構造に関係すると思われ、壁あるいは土台に伴うものと思われる。61区2号焼土及び61区9号土坑も位置的に関連が想定される。

出土遺物　61区1号礎石建物から出土した遺物は、近世陶磁器の出土が最も多く、破片ではあるが11点となる。石器は3点で、砥石や粉ひき形の上臼破片が出土している。金属類は8点となり、簪や古銭（寛永通寶）などが出土している。また、1号礎石建物の内部施設とした61区1号炉の上部からは、近世の陶器破片1点、小杯破片1点が出土している。また、1号礎石建物が位置する70区X−8，9、Y−8，9、61区A−8，9，10、B−8，9，10グリッド以外にも周辺グリッドにおいて数多くの遺物が出土している。陶磁器は非掲載を含めると212点となり、ほとんどが近世である。石器は61区A−9グリッドから8点となり砥石や火打ち石が出土している。金属類では61区A−9，10、X−8、Y−9グリッドから古銭（寛永通寶）、釘、煙管などが出土し、61区1号礎石建物と関連する遺物である可能性が高い。

時期　近世後半から近代前半

総評　本建物は民家建築の一部と判断されるが、残存状況は悪く全貌を明らかにすることはできない。礎石12も位置的に関係が想定されるが、1石であり建物の内部であるのか不明である。礎石1 ～ 11は直線的に並び、間隔も規格性が認められるため、ほぼ原位置を止め欠損がないと判断される。礎石の分布状況から、建物は礎石3・4及び礎石9付近で東西に別れるように見えるが、礎石4と礎石9が南北軸の直線上に載らないのは、やや理解に苦しむ。61区1号炉が礎石1・2の間にあるため、通常はこちら側が床貼りされた居室空間と想定されるが、61区2号焼土・10号土坑の存在や周辺に礎石が少ない点など上間側とも思われる。対して東側半分では礎石4 ～ 6間に礎石5があり、間隔も狭いなど床張りを思わせる。いずれにしろ、内部構造は礎石の残存状況が悪く特定できない。

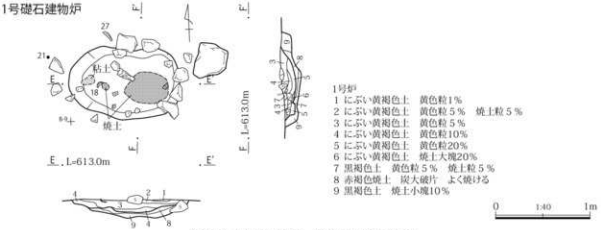
70区1号礎石建物



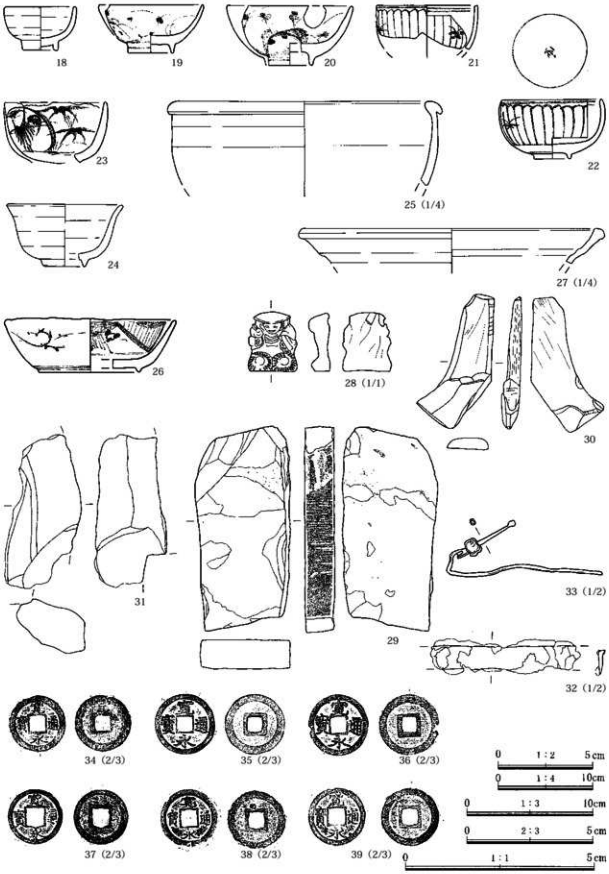
掘り方1

掘り方2

1号礎石建物炉



第65図　東原Ⅲ遺跡　70区１号礎石建物



第66図　東原Ⅲ遺跡　70区1号礎石建物出土遺物

第４項　焼土

東原Ⅲ遺跡において検出された焼土は、61区2基、70区2基の計4基である。

NO.27地区

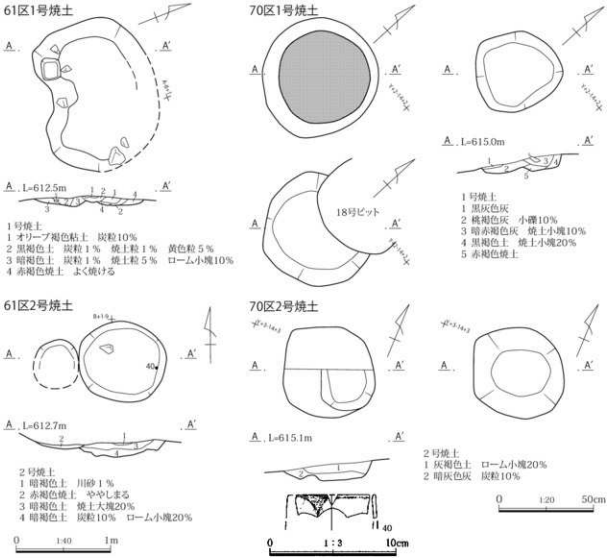
61区１号焼土（第67図PL24） 70区Y－7，8、61区A－7，8グリッド、1号礎石建物南側に位置する。焼土跡は確認面において長径1.64m、短径1.12mの不整楕円形の範囲に収まる。遺構断面の観察から赤褐色焼土が顕著に見られ礫を含む。遺物の出土はない。

61区２号焼土（第67図PL24） 61区B－8グリッド、61区1号炉に隣接する。焼土跡は直径0.92m、直径0.48mの大小円形の範囲に収まる。へっついか。遺構断面の観察から暗褐色土に赤褐色焼土を多量に含む。遺物は近世以降の染付碗か猪口が1点出土する。

NO.26地区

70区１号焼土（第67図PL24） 70区Y－14グリッドに位置する。1面からの検出である。焼土跡は確認面において長径0.68m、短径0.62mの円形となる。遺構断面の観察から焼土小塊を含む褐灰色灰や灰褐色灰が多量に認められる。70区18号ピットと重複し、70区1号焼土が新しい。1号焼土から遺物の出土はない。

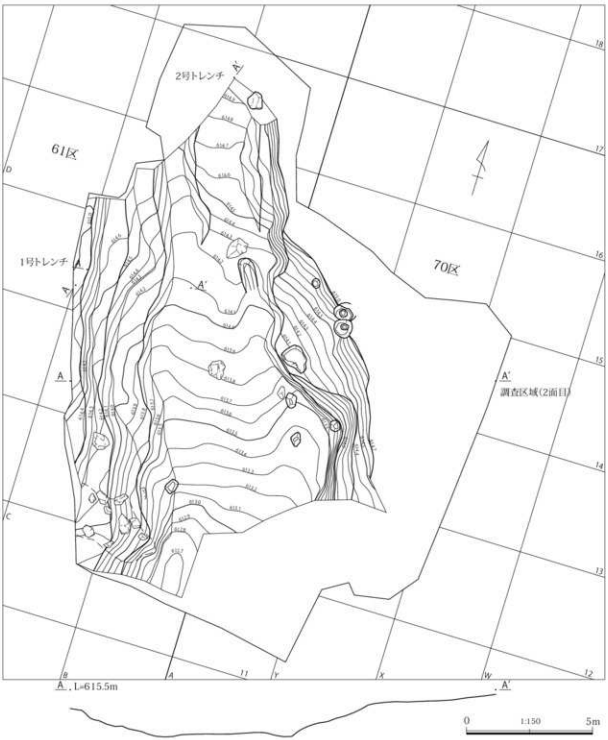
70区２号焼土（第67図PL24） 70区K－4グリッドに位置する。1面からの検出である。焼土跡は確認面において長径0.55m、短径0.50mの不整円形の範囲に収まる。遺構断面の観察から焼土粒を含む灰褐色灰が厚く残存する。2号焼土から遺物の出土はない。



第67図　東原Ⅲ遺跡　61区１号・２号焼土・70区１号・２号焼土・70区２号焼土出土遺物

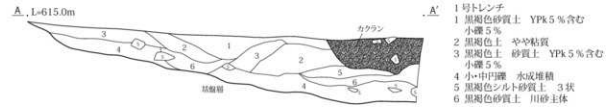
第５項　旧河道

（第68～69図PL24） 東原Ⅲ遺跡61区の2面調査において2箇所のトレンチ調査を実施した。2面下は谷地形となり、北側から南側へ緩やかに下る傾斜面である。1号・2号トレンチの断面による観察から、小・中礫や水性堆積物のほか基盤層の上面はシルト質土や川砂が顕著であり、中位層にはAs-Kkに類似する砂質土が認められた。また、1号・2号トレンチ底面および周辺から検出された土坑やピットの底面からも湧水があることから、古代以降の旧河道であったと考えられる。遺物は縄文土器1点（非掲載）、石器3点（非掲載1点）、内耳土器や白磁が出土している。

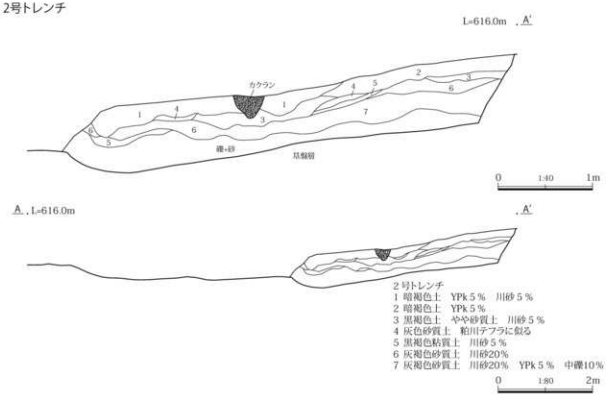


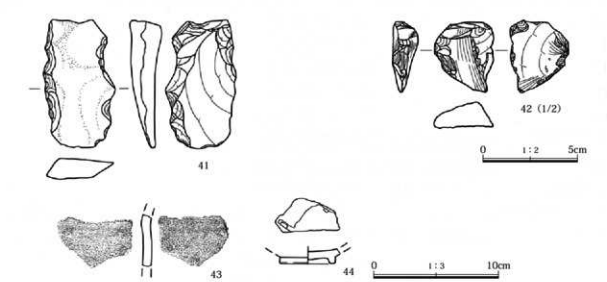
第68図　東原Ⅲ遺跡（２面）　61区旧河道・１号・２号トレンチ（１）

1号トレンチ



2号トレンチ

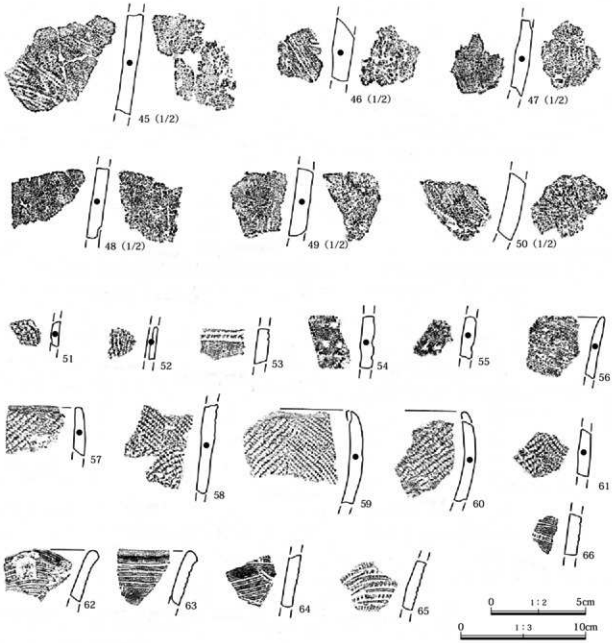




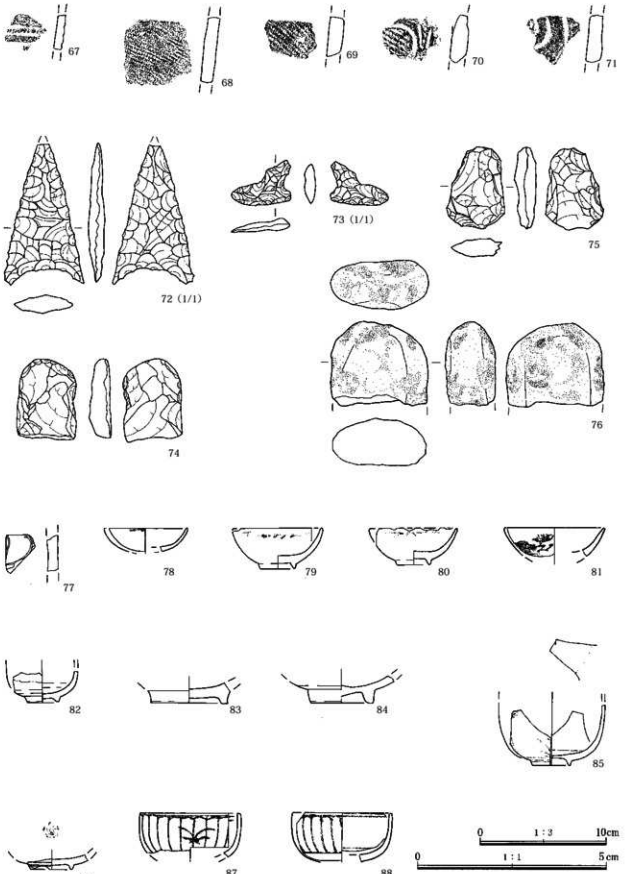
第69図　東原Ⅲ遺跡（２面）　61区旧河道・１号・２号トレンチ（２）・61区旧河道出土遺物

第６項　遺構外から出土した遺物

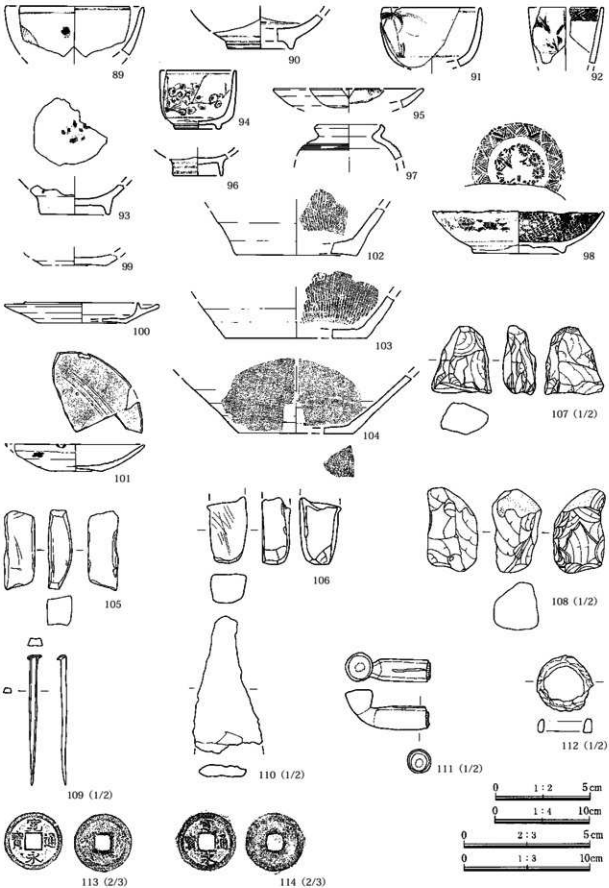
（第70～72図PL27～28）東原Ⅲ遺跡において遺構外から出土した遺物は464点である。土器(縄文・平安)93点、石器22点、陶磁器は338点、金属類11点である。遺構外から出土した遺物において、本項で図化した遺物は、縄文土器、石器、中近世陶磁器、金属類など70点である。縄文土器は70区西側調査区からの出土が多い。狭い範囲に土器片が集中していたが、周辺から住居跡などは検出されなかった。石器は、70区から石鏃や打製石斧、61区では火打ち石や砥石などが出土した。中近世の陶磁器の出土が最も多い。特に61区から検出された礎石建物や70区の掘立柱建物周辺から数多く出土し、時期は近世が中心である。金属類では、出土数は少ないが61区や70区において、1号礎石建物との関連が想定される釘、煙管のほか古銭(寛永通寶)などが出土している。



第70図　東原Ⅲ遺跡 遺構外出土遺物(1)



第71図　東原Ⅲ遺跡 遺構外出土遺物(2)



第72図　東原Ⅲ遺跡 遺構外出土遺物(3)

第2表　東原Ⅰ遺跡　遺構番号変更一覧表

区・遺構名	番号	変更後の番号 空欄は変更無し	区・遺構名	番号	変更後の番号 空欄は変更無し	区・遺構名	番号	変更後の番号 空欄は変更無し
79区土坑	1		89区土坑	3		80区ピット	18	1号掘立柱建物Ｐ9
	2			4			19	1号掘立柱建物Ｐ7
	3			5			20	1号柱穴列Ｐ1
	4			6			21	4
	5			7			22	2号掘立柱建物Ｐ1
	6			8			23	1号柱穴列Ｐ3
80区土坑	1			9			24	1号掘立柱建物Ｐ3
	2			10			25	5
	3			11			26	2号掘立柱建物Ｐ5
	4			12			27	6
	5			13			28	2号掘立柱建物Ｐ6
	6			14			30	7
	7			15		89区ピット	1	
	8			16			2	
	9			17			3	
	10			18			4	
	11		90区土坑	1			5	
	12		79区ピット	1			6	
	13		80区ピット	5	1		7	
	22	14		6	2号掘立柱建物Ｐ4		8	
	25	15		7	2		9	
	26	16		8	2号掘立柱建物Ｐ3		10	
	27	17		9	1号掘立柱建物Ｐ5	90区ピット	2	1
	28	18		10	2号掘立柱建物Ｐ2	80区掘立柱建物	1	
	29	19		11	1号掘立柱建物Ｐ6		2	
	30	20		12	1号柱穴列Ｐ2	80区柱穴列	1	
	31	21		13	1号掘立柱建物Ｐ4	80区溝	1	
	32	22		14	1号掘立柱建物Ｐ2		2	
	33	23		15	1号掘立柱建物Ｐ1	90区溝	1	
89区土坑	1			16	1号掘立柱建物Ｐ8		2	
	2			17	3	90区落ち込み	1	

第3表　東原Ⅱ遺跡　遺構番号変更一覧表

区・遺構名	番号	変更後の番号 空欄は変更無し	区・遺構名	番号	変更後の番号 空欄は変更無し	区・遺構名	番号	変更後の番号 空欄は変更無し
70区土坑	1		80区土坑	14	1	80区ピット	1	1号掘立柱建物Ｐ3
	2			15	2		2	1号掘立柱建物Ｐ2
	3			16	3		3	1
	4			17	4		4	2
	5			18	5		29	1号掘立柱建物Ｐ1
	6			19	6	80区掘立柱建物	3	1号掘立柱建物
	7			20	7	80区焼土	1	
	8			21	8		2	
	9			23	9	80区溝	3	1
	10			24	10		4	2
	11		70区ピット	1			5	3

第4表　東原Ⅲ遺跡　遺構番号変更一覧表

区・遺構名	番号	変更後の番号 空欄は変更無し	区・遺構名	番号	変更後の番号 空欄は変更無し	区・遺構名	番号	変更後の番号 空欄は変更無し
61区土坑	1		61区ピット	5	1号掘立柱建物Ｐ13	70区ピット	22	3号掘立柱建物Ｐ4
	2	1号掘立柱建物Ｐ1		6	1		23	4号掘立柱建物Ｐ8
	3	2		7	2		24	3号掘立柱建物Ｐ5
	4	3		8	1号掘立柱建物Ｐ15		25	1号掘立柱建物Ｐ9
	5	4		9	3		26	6
	6	5		10	1号掘立柱建物Ｐ14		27	7
	7	6		11	4		28	4号掘立柱建物Ｐ4
	8	7		12	2号掘立柱建物Ｐ1		29	8
	9	8		13	5		30	4号掘立柱建物Ｐ3
	10	9		14	1号掘立柱建物Ｐ2		31	1号掘立柱建物Ｐ6
	11	10		15	6		32	1号掘立柱建物Ｐ19
70区土坑	12	1		16	7		33	9
	13	2		17	8		34	1号掘立柱建物Ｐ18
	14	3		18	9		35	10
	15	4		19	10		36	4号掘立柱建物Ｐ2
	16	5		20	11		37	11
	17	6		21	12		38	12
	18	1号掘立柱建物Ｐ4		22	13		39	1号掘立柱建物Ｐ7
	19	1号掘立柱建物Ｐ3		23	14		40	13
	20	7		24	15		41	14
	21	8		25	16		42	4号掘立柱建物Ｐ6
	22	9	70区ピット	2	3号掘立柱建物Ｐ3		43	15
	23	10		3	1		44	16
	24	4号掘立柱建物Ｐ5		4	2		45	4号掘立柱建物Ｐ1
	25	1号掘立柱建物Ｐ5		5	4号掘立柱建物Ｐ7		46	17
	26	11		6	4号掘立柱建物Ｐ10		47	18
	27	12		7	1号掘立柱建物Ｐ11		48	4号掘立柱建物Ｐ1と同一
	28	13		8	3号掘立柱建物Ｐ1			
	29	14		9	4号掘立柱建物Ｐ9		49	19
	30	15		10	2号掘立柱建物Ｐ4		50	20
	31	16		11	3号掘立柱建物Ｐ2		51	21
	32	17		12	2号掘立柱建物Ｐ3	61区焼土	1	
	33	18		13	2号掘立柱建物Ｐ5		2	
	34	19		14	1号掘立柱建物Ｐ17	70区焼土	1	
	35	20		15	1号掘立柱建物Ｐ16		2	
	36	21		16	3	70区焜立柱建物	1	
	37	22		17	4		2	
61区ピット	1	3号掘立柱建物Ｐ6		18	1号掘立柱建物Ｐ10		3	
	2	2号掘立柱建物Ｐ2		19	4号掘立柱建物Ｐ11		4	
	3	2号掘立柱建物Ｐ6		20	5	61区礎石建物	1	
	4	1号掘立柱建物Ｐ12		21	1号掘立柱建物Ｐ8			

第5表　東原Ⅰ遺跡　土坑計測表

区	番号	位　置	上面形態 規模(長径×短径)m	底面形態 規模(長径×短径)m	深さ(m) ()は底部施設を含む深さ	主軸方向	備考
79	1	Y−21, X−21	隅丸長方形 1.56×0.72	隅丸長方形 1.30×0.45	0.84	N−89°−W	陥し穴
79	2	V−19, V−20	楕円形 1.75×0.96	隅丸長方形 1.50×0.56	1.13	N−48°−E	陥し穴
79	3	V−22, V−23	楕円形 1.73×1.22	不整楕円形 1.48×0.84	1.11	N−5°−E	陥し穴
79	4	Y−22	楕円形 1.14×1.02	円形 0.65×0.60	0.36	N−38°−W	
79	5	X−25	円形 0.82×0.77	不整円形 0.49×0.42	0.29	N−89°−W	
79	6	Y−14	楕円形 0.86×0.71	楕円形 0.48×0.40	0.21	N−65°−W	時期:近現代
80	1	A−19	隅丸長方形 1.95×0.92	隅丸長方形 1.57×0.48	1.09	N−8°−W	縄文土器Ⅰ　陥し穴 時期:平安か
80	2	B−24, B−25	楕円形 2.24×1.43	不整長方形 1.85×0.56	1.37	N−25°−E	陥し穴 時期:平安か
80	3	B−18, B−19	楕円形 1.71×0.89	隅丸長方形 1.45×0.52	1.01	N−31°−W	陥し穴 時期:平安か
80	4	D−24, D−25	楕円形 1.16×0.85	楕円形 0.24×0.16	0.34	N−21°−E	時期:縄文か
80	5	A−21	円形 1.03×0.94	円形 0.58×0.50	0.40	N−59°−W	
80	6	J−14	隅丸長方形 1.67×0.70	不整長方形 1.46×0.37	0.82	N−33°−W	縄文土器Ⅰ　陥し穴 時期:平安以降
80	7	K−8	楕円形 2.16×1.70	隅丸長方形 1.50×0.54	1.70	N−83°−E	陥し穴 時期:平安か
80	8	I−8	円形 0.97×0.91	円形 0.78×0.74	0.26	N−17°−E	時期:縄文か
80	9	I−13	円形 0.79×0.74	円形 0.63×0.60	0.17	N−9°−E	時期:縄文か
80	10	G−8, G−9	楕円形 1.70×0.86	不整長方形 1.50×0.43	0.76	N−36°−W	陥し穴 時期:平安以降か
80	11	G−11, H−11	楕円形 1.93×1.05	不整楕円形 1.66×0.49	1.19	N−66°−E	陥し穴 時期:平安か
80	12	G−14, H−14	不整楕円形 2.65×1.44	不整長方形 1.57×0.44	1.71	N−88°−W	陥し穴 時期:平安か
80	13	F−10	隅丸長方形 1.75×0.62	隅丸長方形 1.49×0.32	1.17	N−82°−W	陥し穴 時期:平安か
80	14	C−14, D−14	円形 1.47×1.35	円形 1.09×1.00	0.60	N−10°−E	時期:縄文か
80	15	A−11, A−12	楕円形 1.75×1.41	楕円形 1.05×0.35	0.58	N−2°−W	時期:近現代
80	16	B−11	楕円形 0.73×0.50	不整楕円形 0.52×0.34	0.23	N−45°−E	時期:近現代
80	17	E−20	隅丸長方形 1.68×0.88	隅丸長方形 1.44×0.40	0.95	N−29°−E	陥し穴 時期:古代
80	18	H−16	不整長方形 0.86×0.51	不整長方形 0.71×0.35	0.18	N−62°−E	時期:近現代
80	19	F−18	円形 0.84×0.82	楕円形 0.40×0.19	0.22	N−81°−E	時期:縄文か
80	20	G−16	不整楕円形 1.45×1.02	− 1.30×0.84	0.23	N−75°−E	時期:縄文か
80	21	G−16	楕円形 1.72×0.84	不整長方形 1.49×0.55	0.32	N−61°−E	時期:縄文か
80	22	G−17	円形 1.07×1.05	円形 0.25×0.25	0.27	N−5°−E	時期:縄文か
80	23	F−17	円形 0.92×0.77	円形 0.27×0.26	0.29	N−19°−E	時期:縄文か
89	1	V−11, W−11	楕円形 1.88×1.42	楕円形 1.38×0.54	1.65	N−60°−W	陥し穴 時期:平安か
89	2	X−10	楕円形 1.60×1.30	隅丸長方形 1.55×0.65	1.37	N−13°−W	陥し穴 時期:平安
89	3	X−10	楕円形 2.21×1.47	不整長方形 1.43×0.42	1.74	N−10°−W	陥し穴 時期:平安

区	番号	位　置	上面形態 規模(長径×短径)m	底面形態 規模(長径×短径)m	深さ(m) (立柱痕跡を含む深さ	主軸方向	備考
89	4	X－6	楕円形 1.71×1.10	隅丸長方形 1.18×0.50	1.62	N－32°－E	抜き穴 時期:平安
89	5	V－3, V－4	楕円形 2.13×1.70	不整楕円形 1.60×0.76	0.45	N－66°－E	時期:近現代か
89	6	X－8	円形 0.89×0.80	円形 0.50×0.45	0.43	N－42°－E	時期:縄文か
89	7	W－7	円形 0.91×0.88	不整楕円形 0.22×0.10	0.54	N	時期:縄文か
89	8	U－7	楕円形 0.60×0.39	楕円形 0.24×0.16	0.25	N－30°－W	時期:縄文
89	9	89－S－1 79－S－25	楕円形 2.35×1.42	不整長方形 1.45×0.73	1.29	N－65°－E	時期:平安か
89	10	T－4	楕円形 1.16×0.77	不整楕円形 0.83×0.47	0.32	N－83°－E	時期:平安
89	11	S－11	楕円形 1.75×1.20	不整楕円形 1.51×0.71	0.81	N－44°－W	抜き穴 時期:平安以降か
89	12	P－9, P－10	不整長方形 1.65×0.72	不整長方形 1.60×0.57	0.70	N－10°－E	抜き穴 時期:平安
89	13	P－9, Q－9	隅丸長方形 2.08×0.84	不整長方形 1.95×0.73	0.21	N－43°－W	時期:縄文か
89	14	P－8, P－9	円形 0.97×0.96	円形 0.89×0.80	0.15	N	時期:縄文
89	15	Q－8	円形 1.09×1.09	円形 0.95×0.87	0.14	N－32°－E	時期:平安以降
89	16	Q－8	円形 0.98×0.84	楕円形 0.84×0.64	0.15	N－50°－W	時期:平安以降
89	17	R－7, R－8	楕円形 0.98×0.60	楕円形 0.77×0.41	0.10	N－30°－E	時期:平安以降
89	18	U－11, U－12	不整長方形 1.66×1.05	隅丸長方形 1.48×0.60	0.80	N－33°－E	工具痕跡あり 時期:古代
90	1	B－2, C－2	不整長方形 1.75×0.62	不整長方形 0.45×0.28	0.66	N－80°－W	抜き穴 時期:平安以降か

第6表　東原Ⅰ遺跡　ピット計測表

区	番号	位　置	形　態	規模(長径×短径)m	深さ(m)	主軸方向	備考
79	1	W－25	円形	0.32×0.29	0.11	N－77°－E	
80	1	G－10	円形	0.31×0.26	0.42	N－15°－E	
80	2	G－10	楕円形	0.32×0.23	0.17	N－31°－E	
80	3	F－11	円形	0.40×0.35	0.24	N－85°－E	
80	4	G－11	楕円形	0.45×0.35	0.45	N－40°－W	
80	5	G－11	円形	0.24×0.22	0.33	N－84°－E	
80	6	H－11	円形	0.22×0.22	0.60	N－35°－W	
80	7	B－11	楕円形	0.47×0.35	0.41	N－57°－E	
89	1	X－8	円形	0.40×0.34	0.19	N－88°－W	
89	2	U－6	円形	0.30×0.29	0.17	N－35°－W	
89	3	Y－7	円形	0.41×0.35	0.33	N－80°－W	
89	4	Y－7	円形	0.36×0.32	0.25	N－79°－W	
89	5	V－10	楕円形	0.45×0.42	0.34	N－20°－W	
89	6	S－5	楕円形	0.31×0.21	0.11	N－78°－E	
89	7	T－7	楕円形	0.37×0.25	0.29	N－68°－E	
89	8	U－4	楕円形	0.36×0.30	0.11	N－36°－E	
89	9	T－4	円形	0.25×0.25	0.24	N－8°－E	
89	10	T－4	円形	0.27×0.27	0.27	N－1°－E	
90	1	A－7	円形	0.35×0.33	0.26	N－1°－E	

第7表　東原Ⅰ遺跡　溝計測表

区	番号	位　置	形　態	規模(長径×短径)m	深さ(m)	主軸方向	備考
80	1	G－11, H－11	不整楕円形 1.32×0.33	不整楕円形 1.13×0.15	0.12	N－85°－E	
80	2	G－11, H－11	不整楕円形 1.94×0.35	不整楕円形 1.79×0.17	0.12	N－83°－E	
90	1	C－4, C－5	－×0.75	－×0.43	0.35	N－16°－W	時期:近現代か
90	2	C－4, C－5	4.84×1.40	－×0.75	0.58	N－3°－E	時期:近現代か

第8表　東原Ⅱ遺跡　土坑計測表

区	番号	位　置	上面形態 規模(長径×短径)m	底面形態 規模(長径×短径)m	深さ(m) ()は底面陥没を含む深さ	主軸方向	備考
70	1	P－16	円形 0.98×0.97	円形 0.71×0.60	0.67	N－7°－W	隠し穴か 時期:縄文か
70	2	O－16	円形 1.26×1.24	円形 0.87×0.85	0.73	N－36°－W	時期:縄文か
70	3	O－17	楕円形 0.84×0.61	楕円形 0.67×0.45	0.13	N－5°－W	時期:近現代
70	4	N－18, 19	楕円形 2.00×1.20	不整長方形 1.50×0.40	1.50	N－42°－E	隠し穴 時期:平安以降か
70	5	S－16, 17 R－16, 17	楕円形 1.97×0.92	不整形 1.53×0.32	1.31	N－25°－W	石器1　隠し穴 時期:平安か
70	6	N－23, O－23	楕円形 2.45×1.73	不整形 1.80×0.40	1.77	N－71°－W	中近世土器1　隠し穴 時期:平安か
70	7	O－23	隅丸長方形 2.04×0.33	隅丸長方形 1.95×0.27	0.43	N－87°－E	縄文土器1 時期:近現代か
70	8	T－20, U－20	長方形 1.04×0.70	長方形 0.85×0.63	0.47	N－84°－E	石臼1　磁器1 時期:近現代
70	9	Q－17, 18	長方形 1.65×0.75	不整長方形 1.53×0.40	1.31	N－28°－W	隠し穴 時期:平安か
70	10	M－21	楕円形 1.26×1.00	楕円形 0.62×0.50	0.98	N－43°－E	隠し穴 時期:縄文か
70	11	Q－21, R－21	隅丸長方形 1.61×0.74	長方形 1.35×0.35	0.75	N－68°－W	隠し穴 時期:平安か
80	1	J－6	長方形 0.93×0.80	不整形 0.62×0.60	0.36	N－5°－E	時期:中世～近世か
80	2	I－3	楕円形 0.79×0.50	楕円形 0.58×0.27	0.19	N－80°－E	時期:中世～近世か
80	3	I－2	楕円形 1.18×0.77	円形 0.27×0.25	0.39	N－87°－E	時期:縄文か
80	4	K－4	長方形 2.22×0.93	長方形 1.77×0.72	0.33	N－85°－W	土器1　陶器1　金属器1 時期:江戸～近現代か
80	5	K－4	不整形 2.60×1.13	不整形 2.26×0.58	0.56	N－67°－E	時期:近世
80	6	G－5, 6	楕円形 1.84×0.93	楕円形 1.36×0.30	1.71	N－60°－W	縄文土器2　隠し穴 時期:古墳～平安か
80	7	I－3	隅丸長方形 1.69×1.02	隅丸長方形 1.36×0.52	1.21	N－76°－E	隠し穴　時期:平安か
80	8	K－4, L－4	長方形 0.87×0.69	長方形 0.54×0.13	0.34	N－2°－W	時期:中世～近世か
80	9	I－1, H－1	隅丸長方形 1.57×0.78	長方形 1.40×0.30	1.04	N－67°－W	隠し穴 時期:平安以降か
80	10	I－1	楕円形 1.12×0.82	楕円形 0.82×0.67	0.43	N－88°－E	時期:近現代

第9表　東原Ⅱ遺跡　ピット計測表

区	番号	位　置	形　態	規模(長径×短径)m	深さ(m)	主軸方向	備考
70	1	N－17	円形	0.35×0.33	0.32	N－35°－W	
80	1	K－3	円形	0.27×0.25	0.14	N－79°－E	
80	2	J－3	楕円形	0.38×0.34	0.13	N	

第10表　東原Ⅱ遺跡　溝計測表

区	番号	位　置	形　態	規模(長径×短径)m	深さ(m)	主軸方向	備考
80	1	M－5, 6, 7 L－5, 6, 7	9.08×1.90	－	1.39	N－8°－E	石器2 磁器:中世から近世か
80	2	J－4, 5	－×　0.58	－×　0.32	0.52	－	時期:中世から近世か
80	3	K－3, L－3	3.20×0.23	3.13×0.11	0.29	N－87°－E	時期:中世から近世か

第11表　東原Ⅲ遺跡　土坑計測表

区	番号	位　置	上面形態 規模(長径×短径)m	底面形態 規模(長径×短径)m	深さ(m) ()は底面脚部を含む深さ	主軸方向	備考
61	1	A－13	円形 0.79×0.79	円形 0.68×0.65	0.09	N－63°－W	時期:近世以降か
61	2	B－13	楕円形 1.43×1.02	楕円形 1.02×0.66	0.36	N－17°－E	縄文土器1 陶器1 礫石1 時期:近世か
61	3	B－14	円形 0.89×0.79	楕円形 0.67×0.53	0.33	N－86°－E	
61	4	A－6, B－6	円形 0.83×0.75	円形 0.67×0.58	0.02	N－45°－E	磁器1 時期:近世か
61	5	A－6, 7	円形 0.82×0.78	円形 0.61×0.61	0.31	N－54°－E	陶器1 時期:近世か
61	6	61－A－7 70－Y－7	円形 0.98×0.85	楕円形 0.78×0.63	0.22	N	時期:近世か
61	7	B－6	円形 1.70×1.48	円形 1.32×1.21	0.22	N－50°－E	時期:近世か
61	8	A－10	円形 1.25×1.15	円形 1.00×0.98	0.31	N－13°－E	磁器1 時期:近世
61	9	A－9, B－9	円形 1.13×0.98	円形 0.93×0.77	0.20	N－19°－E	磁器4 時期:近世
61	10	A－7	円形 0.70×0.68	円形 0.35×0.23	0.31	N－30°－W	磁器1 時期:近現代か
70	1	V－10, 11	不整長方形 1.97×1.08	不整長方形 1.60×0.32	1.11	N－27°－W	縄文土器1　隠し穴 時期:平安か
70	2	T－11, 12	楕円形 2.06×1.67	楕円形 0.95×0.40	2.33	N－6°－E	縄文土器2　隠し穴　石器1 時期:平安か
70	3	S－11, T－11	不整長方形 1.73×0.96	不整長方形 1.36×0.48	1.82	N－83°－W	隠し穴 時期:平安か
70	4	T－11	不整形 (0.39)×(0.95)	円形 (0.39)×0.59	0.45	N－25°－W	時期:平安か
70	5	T－11	円形 0.87×0.86	円形 0.68×0.65	0.40	N	時期:平安か
70	6	U－11, 12	楕円形 1.25×0.44	不整長方形 0.95×0.20	0.32	N－77°－E	時期:平安か
70	7	Y－12, 13	楕円形 1.25×0.96	楕円形 0.75×0.53	0.43	N－66°－W	
70	8	Y－12	楕円形 0.95×0.75	楕円形 (0.42)×0.46	0.25	N－20°－E	石器1
70	9	X－12, 13 Y－12, 13	(不整楕円形) (0.75)×(0.51)	(楕円形) 1.10×0.86	0.37	N－45°－E	磁器1
70	10	Y－13, 14	楕円形 1.20×0.70	楕円形 0.87×0.50	0.44	N－45°－W	
70	11	W－13, X－13	円形 (1.34)×(1.18)	楕円形 (1.20)×(0.92)	0.17	N－80°－E	時期:近世以降
70	12	W－14, X－14	不整形 (0.82)×(0.78)	不整形 (0.65)×(0.55)	0.09	N－73°－E	時期:近世以降
70	13	Y－14	不整形 1.10×0.80	不整形 0.95×0.62	0.23	N－57°－W	時期:縄文か
70	14	Y－7	円形 0.63×0.57	円形 0.37×0.30	0.28	N－45°－E	磁器1
70	15	Y－7	円形 0.51×0.48	円形 0.43×0.43	0.37	N－61°－W	
70	16	Y－7	円形 0.55×0.48	円形 0.30×0.26	0.45	N－54°－E	
70	17	Y－7	円形 0.58×0.50	楕円形 0.22×0.20	0.40	N	近世すり鉢破片1
70	18	X－8, Y－8	楕円形 1.49×1.07	楕円形 1.29×0.81	0.24	N－18°－W	

区	番号	位　置	上面形態 規模(長径×短径)m	底面形態 規模(長径×短径)m	深さ(m) ()は底面部を含む深さ	主軸方向	備考
70	19	Y－7	楕円形 0.60×0.45	円形 0.32×0.30	0.65	N－13°－E	
70	20	V－5, W－5	円形 1.37×1.25	楕円形 1.05×0.97	0.57	N－10°－E	時期:近現代か
70	21	W－5, 6	円形 1.08×1.03	円形 0.84×0.78	0.63	N－33°－W	陶器1　時期:近現代か
70	22	W－6	楕円形 1.04×0.84	円形 0.87×0.72	0.30	N－57°－E	時期:近現代か

第12表　東原Ⅲ遺跡　ピット計測表

区	番号	位　置	形　態	規模(長径×短径)m	深さ(m)	主軸方向	備考
61	1	A－13	円形	0.30×0.30	0.17	N－2°－W	
61	2	B－13	円形	0.50×0.43	0.39	N－44°－E	
61	3	A－15	円形	0.38×0.35	0.21	N－43°－E	
61	4	A－15	円形	0.34×0.32	0.22	N－15°－W	
61	5	B－14	円形	0.43×0.39	0.42	N－24°－E	
61	6	A－14	楕円形	0.50×0.34	0.20	N－40°－W	
61	7	A－14	円形	0.38×0.32	0.12	N	
61	8	B－14	円形	0.53×0.45	0.24	N－12°－W	
61	9	A－7, 8	円形	0.25×0.21	0.15	N－74°－W	
61	10	Y－8	楕円形	0.42×0.28	0.14	N－10°－E	陶器1
61	11	A－8, B－8	楕円形	0.59×0.40	0.31	N－54°－E	
61	12	A－8	円形	0.37×0.32	0.73	N－22°－E	
61	13	A－8, B－8	円形	0.37×0.35	0.17	N－30°－E	
61	14	B－8	円形	0.60×0.55	0.67	N－6°－W	陶器1 煙管1　時期:近世か
61	15	A－8, B－8	円形	0.32×0.30	0.6	N－25°－E	
61	16	A－6	円形	0.32×0.30	0.25	N－60°－E	
70	1	X－12	不整形	0.41×(0.33)	0.37	N－74°－W	時期:近世か
70	2	Y－12, 13	円形	0.41×0.36	0.33	N－55°－W	
70	3	Y－14	円形	0.31×0.28	0.38	N－58°－W	
70	4	Y－14	楕円形	0.53×0.43	0.31	N	
70	5	Y－13	楕円形	0.60×0.45	0.22	N	
70	6	Y－13	楕円形	0.47×(0.15)	0.43	N－2°－E	
70	7	X－13	楕円形	0.37×0.30	0.15	N－63°－E	
70	8	X－12	円形	0.55×0.47	0.25	N－24°－W	
70	9	Y－14	不整形	0.58×0.33	0.36	N－63°－E	
70	10	X－14	不整形	0.77×0.58	0.19	N－41°－W	
70	11	Y－14	楕円形	0.33×0.25	0.62	N－30°－W	
70	12	X－14	円形	0.46×0.42	0.67	N－4°－E	
70	13	X－14	円形	0.31×0.30	0.15	N－87°－W	
70	14	X－13	円形	0.32×0.31	0.23	N	
70	15	X－14	円形	0.33×0.30	0.25	N－1°－W	
70	16	Y－14	不整形	(0.53)×0.56	0.38	N－74°－W	
70	17	Y－14, 15	円形	0.38×0.36	0.39	N－15°－E	
70	18	Y－14	円形	0.52×0.46	0.74	N－65°－W	
70	19	X－13	楕円形	0.44×0.35	0.17	N－42°－W	
70	20	Y－9	楕円形	0.32×0.25	0.90	N－77°－W	磁器1
70	21	Y－7, 8	円形	0.43×0.38	0.39	N－40°－E	

第13表　東原Ⅰ遺跡　堀立柱建物計測表

遺構名		80区1号堀立柱建物			主軸方向	N－83°－W		面積	13.5㎡	備考（出土遺物等）
全体規模　2×2間 東西棟		柱ピNo.	規模(cm) 上面長径	下面長径	上面短径	下面短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
北辺P1～P7	3.76m	P1	30	16	24	16	35	楕円	1.78	
東辺P1～P3	3.60m	P2	40	20	33	13	29	円	1.85	
南辺P3～P5	3.73m	P3	38	－	30	－	15	楕円	1.97	
西辺P5～P7	3.55m	P4	34	22	34	22	17	円	1.77	
		P5	39	20	30	15	28	楕円	1.80	
		P6	44	12	38	13	32	円	1.73	
		P7	42	22	36	24	52	楕円	1.57	
		P8	38	22	36	22	36	楕円	1.28	
		P9	38	20	34	18	32	円	0.90	
遺構名		80区2号堀立柱建物			主軸方向	N－2°－W		面積	6.0㎡	備考（出土遺物等）
全体規模　1×2間 南北棟		柱ピNo.	規模(cm) 上面長径	下面長径	上面短径	下面短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
北辺P1～P5	1.90m	P1	33	15	27	15	49	楕円	1.76	
東辺P1～P3	3.18m	P2	26	14	23	13	32	円	1.44	
南辺P3～P4	1.87m	P3	－	－	23	14	11	－	1.87	
西辺P4～P6	4.60m	P4	40	22	38	22	47	円	3.28	
		P5	42	22	33	17	34	楕円	1.30	
		P6	39	20	30	16	20	楕円	－	

第14表　東原Ⅱ遺跡　堀立柱建物計測表

遺構名		80区1号堀立柱建物			主軸方向	N－83°－W		面積	(5.0㎡)	備考（出土遺物等）
全体規模 1×1以上間		柱ピNo.	規模(cm) 上面長径	下面長径	上面短径	下面短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
東辺P1～P2	1.55m	P1	30	10	27	8	41	円	1.55	
南辺P2～P3	3.25m	P2	27	17	26	15	30	円	3.25	
		P3	36	20	36	20	32	円	－	

第15表　東原Ⅲ遺跡　堀立柱建物計測表

遺構名		70区1号堀立柱建物	下屋　北		主軸方向	N－86°－W		面積	55.4㎡	備考（出土遺物等）
全体規模　2×4間 東西棟		柱ピNo.	規模(cm) 上面長径	下面長径	上面短径	下面短径	深さ	形状	次ピットとの間隔(m)	
北辺P14～P19	8.54m	P1	60	30	56	26	28	円	1.42	
東辺P8～P19	4.78m	P2	54	44	54	36	21	円		
南辺P9～P13	7.78m	P3	90	54	60	38	56	楕円	1.12	
西辺P13～P14	6.44m	P4	72	60	64	44	57	円	1.00	
		P5	78	48	70	66	77	円	1.62	縄文土器1 陶器1
		P6	46	28	44	28	39	円	2.44	
		P7	50	28	48	28	46	円	1.12	
		P8	50	38	48	38	20	円	－	
		P9	52	46	42	28	16	楕円	1.80	
		P10	56	46	54	40	40	円	1.76	
		P11	－	－	－	－	53	－	2.40	弥石1 石器(砥石)1
		P12	58	28	46	18	47	楕円	1.84	
		P13	54	28	46	30	25	円	5.00	碁石1
		P14	40	28	36	22	23	円	2.20	
		P15	44	26	40	26	21	円	1.10	
		P16	42	20	34	16	34	楕円	1.12	
		P17	42	20	32	18	45	楕円	1.68	
		P18	42	24	40	22	25	円	1.60	
		P19	40	28	28	18	14	楕円	1.20	

遺構名		70区2号掘立柱建物			主軸方向	N－73°－W		面積	5.2㎡	備考（出土遺物等）
全体規模　1×1間		柱穴No	規模(cm)					形状	次ピットとの間隔(m)	
			上面長径	下面長径	上面短径	下面短径	深さ			
北辺P1～P4	5.54m	P1	58	36	50	28	30	円	1.38	
東辺P3～P5	1.90m	P2	46	22	38	20	29	楕円	2.80	
南辺P5～P6	2.76m	P3	40	24	30	20	24	楕円	1.40	縄文土器1石器剥片1
西辺P2～P6	1.70m	P4	48	22	40	20	43	円	－	
		P5	36	18	32	16	45	円	2.76	
		P6	56	40	54	－	56	円	－	
遺構名		70区3号掘立柱建物			主軸方向	N－63°－W		面積	21.9㎡	備考（出土遺物等）
全体規模　1×2間以上 東西棟		柱穴No	規模(cm)					形状	次ピットとの間隔(m)	
			上面長径	下面長径	上面短径	下面短径	深さ			
北辺P1～P3	6.20m	P1	－	－	－	－	55	－	2.10	近世陶器碗1
東辺	3.72m	P2	－	－	－	－	55	－	4.10	
南辺P4～P6	4.88m	P3	48	16	36	16	37	楕円	－	
西辺P1～P6	3.54m	P4	48	16	38	16	104	楕円	2.60	火打ち石か2
		P5	34	－	32	－	97	円	2.30	
		P6	62	16	40	16	77	楕円		縄文土器1
遺構名		70区4号掘立柱建物			主軸方向	N－10°－E		面積	42.1㎡	備考（出土遺物等）
全体規模　2×2間(3×3間) 東西棟		柱穴No	規模(cm)					形状	次ピットとの間隔(m)	
			上面長径	下面長径	上面短径	下面短径	深さ			
北辺P1～P3	6.58m	P1	48	34	46	32	57	円	1.66	
東辺P3～P6	6.62m	P2	78	16	－	16	49	－	4.92	寛永通寶1
南辺P6～P9	6.08m	P3	88	80	42	22	23	楕円	4.22	
西辺P9～P10	6.24m	P4	－	－	－	－	12	－	1.18	
		P5	76	60	58	42	23	楕円	1.24	
		P6	60	－	60	－	21	円	4.40	
		P7	48	28	40	28	29	円	0.96	陶器1 縄文土器1
		P8	38	12	38	10	41	円	0.62	
		P9	34	20	30	16	23	円	1.90	
		P10	54	18	48	16	21	円	－	
		P11	－	－	－	－	22	－	－	

第16表　東原Ⅲ遺跡　礎石建物計測表

遺構名		61区1号礎石建物		主軸方向	N－76°－W	備考（出土遺物等）
全体規模 （　）は推定		礎石No	縦・横・厚さ(cm)	次礎石との間隔(m)		
北辺	(8.24m)	1	縦:52　横:34　厚さ:29	2.68		
東辺	(3.82m)	2	縦:39　横:32　厚さ:28	1.70		
南辺1～6	8.20m	3	縦:37　横:33　厚さ:24	0.75		
西辺	(3.44m)	4	縦:27　横:31　厚さ:8	1.12		
		5a	縦:30　横:28　厚さ:9	0.18		
南北辺4～12	3.72m	5b	縦:28　横:14　厚さ:9	1.75		
東西辺7～11	10.3m	6	縦:42　横:41　厚さ:14	－		
面積	(31.3㎡)	7	縦:47　横:66　厚さ:13	1.96		
		8	縦:31　横:40　厚さ:12	2.95		
		9	縦:41　横:33　厚さ:13	3.60		
		10	縦:53　横:23　厚さ:12	1.82		
		11	縦:35　横:27　厚さ:10	－		
		12	縦:32　横:35　厚さ:10	－		

第17表　出土土器観察表（縄文）

東原Ⅰ遺跡 土坑出土土器

図版番号 写真図版	遺物番号	残存状態 出土位置	①胎土 ②色調	②焼成	文様の特徴等	時期	備考
第14図 PL25	1	底部破片 80区1土坑	①砂多 ③にぶい黄褐	②良	内外面研磨・光沢。底面に網代痕。	縄文後期	

東原Ⅰ遺跡 遺構外出土土器

図版番号 写真図版	遺物番号	残存状態 出土位置	①胎土 ②色調	②焼成	文様の特徴等	時期	備考
第34図 PL25	4	Ⅰ類部破片 89区1面	①砂少 ③にぶい黄橙	②良	Ⅰ類部に横位の条線、口縁部に刻目を施す。内外面無文。	諸磯b式	
第34図 PL25	5	体部破片 89区1面	①砂少 ③にぶい赤褐	②良	内外面無文。縄文ＬＲ	諸磯b式	
第34図 PL25	6	体部破片 89区1面	①砂少 ③にぶい赤褐	②良	4と同一個体。内外面無文。縄文ＬＲ	諸磯b式	
第34図 PL25	7	底部破片 89区1面	①砂少 ③褐	②良	内外面無文。縄文を地文に横位の集合沈線を施す。	諸磯b式	

東原Ⅱ遺跡 土坑出土土器

図版番号 写真図版	遺物番号	残存状態 出土位置	①胎土 ②色調	②焼成	文様の特徴等	時期	備考
第41図 PL25	1	体部破片 80区6号土坑	①砂多 ③灰褐	②良	内外面無文。	前期後半	
第41図 PL25	2	体部破片 80区4号土坑	①砂多 ③にぶい黄橙	②良	条線縄の集合沈線で文様を構成。棒状の貼付文がつく。内面無文。	諸磯c式	

東原Ⅱ遺跡 遺構外出土土器

図版番号 写真図版	遺物番号	残存状態 出土位置	①胎土 ②色調	②焼成	文様の特徴等	時期	備考
第48図 PL25	6	Ⅰ類部破片 2号トレンチ	①砂少 ③にぶい褐	②良	Ⅰ類がくの字に内折。内外面無文。	諸磯b式	
第48図 PL25	7	Ⅰ類部破片	①砂少 ③にぶい赤褐	②良	Ⅰ類がくの字に内折。縄文地に数条の集合沈線で文様を構成する。	諸磯b式	
第48図 PL25	8	体部破片	①砂少 ③灰黄褐	②良	平行沈線を施す。縄文ＬＲ	前期後半	
第48図 PL25	9	Ⅰ類部から 体部破片	①細砂多 ③にぶい赤褐	②良	内外面軽い研磨。縄文ＬＲ	加曽利E4式	
第48図 PL25	10	体部破片	①細砂多 ③にぶい赤褐	②良	9と同一個体。内外面軽い研磨。縄文ＬＲ	加曽利E4式	
第48図 PL25	11	体部破片	①砂少 ③にぶい黄褐	②良	内外面研磨。縄文ＬＲ	堀之内2式	

東原Ⅲ遺跡 土坑出土土器

図版番号 写真図版	遺物番号	残存状態 出土位置	①胎土 ②色調	②焼成	文様の特徴等	時期	備考
第58図 PL26	1	体部破片 70区11号掘2土	①砂多 ③にぶい赤褐	②良	内面軽い研磨。外面に条痕文	諸磯式？	

東原Ⅲ遺跡 遺構外出土土器

図版番号 写真図版	遺物番号	残存状態 出土位置	①胎土 ②色調	②焼成	文様の特徴等	時期	備考
第70図 PL27	45	体部破片70区 U-12グリッド	①砂多・繊維少 ③にぶい褐	②並	外面に条痕文。内面に指頭状の凹凸を残す。	早期後半	
第70図 PL27	46	体部破片70区 U-12グリッド	①砂少・繊維少 ③にぶい褐	②良	外面に浅い条痕文。内面無文。	早期後半	
第70図 PL27	47	体部破片70区 U-12グリッド	①砂多・繊維少 ③明褐	②良	内外面無文。一部に条痕文の痕跡が残る。	早期後半	
第70図 PL27	48	体部破片70区 U-12グリッド	①砂多・繊維少 ③明褐	②良	46と同一個体。内外面無文。	早期後半	
第70図 PL27	49	体部破片70区 T-11グリッド	①細砂多・繊維小 ③にぶい褐	②良	内外面無文。外面に条痕文が残る。	早期後半	
第70図 PL27	50	体部破片70区 T-10グリッド	①細砂多 ③褐	②良	内外面に浅い条痕文。	早期後半	
第70図 PL27	51	体部破片70区 U-12グリッド	①繊維多 ③にぶい黄褐	②並	0段多条縄文　ＲＬ・ＬＲで菱形羽条を構成。	花積下層式～二ツ木式	
第70図 PL27	52	体部破片70区 U-12グリッド	①繊維少 ③明褐	②良	0段多条縄文ＲＬ・ＬＲを斜方向に施文。	花積下層式	
第70図 PL27	53	体部破片70区 U-10グリッド	①砂少 ③にぶい赤褐	②良	横位平行沈線間に爪形文を施す。内面軽い研磨。	諸磯b式	
第70図 PL27	54	体部破片70区 U-10グリッド	①砂多・繊維少 ③にぶい褐	②良	縄文菱形構成。原体不明瞭。横位２列の刺突列を施す。内面無で、凹凸あり。	黒浜式期	
第70図 PL27	55	体部破片70区 U-10グリッド	①砂多・繊維少 ③橙	②良	53と同一個体。	黒浜式期	
第70図 PL27	56	体部破片70区 U-10グリッド	①砂多・繊維少 ③橙	②良	53と同一個体。弱く外反する口縁部片。	黒浜式期	
第70図 PL27	57	体部破片70区 U-11グリッド	①繊維多 ③黒褐	②良	内面研磨・光沢。縄文ＬＲ	黒浜式期	
第70図 PL27	58	体部破片70区 U-10グリッド	①繊維多 ③褐灰	②良	内面研磨・光沢。縄文ＲＬ・ＬＲ　羽状構成	黒浜式期	
第70図 PL27	59	体部破片70区 U-10グリッド	①繊維多 ③黒褐	②良	内面研磨・光沢。縄文ＲＬ・ＬＲ　菱形構成	黒浜式期	
第70図 PL27	60	体部破片70区 U-10グリッド	①繊維多 ③黒褐	②良	58と同一個体。内面研磨・光沢。縄文ＲＬ・ＬＲ　菱形構成	黒浜式期	
第70図 PL27	61	体部破片70区 T-11グリッド	①繊維多 ③にぶい褐	②良	内面無で。縄文ＲＬ・ＬＲ　菱形構成	花積下層式	
第70図 PL27	62	Ⅰ類部破片70区 U-10グリッド	①砂少 ③黒褐	②良	内面研磨・光沢。波状口縁。口縁部に集合沈線。	諸磯b式	
第70図 PL27	63	Ⅰ類部破片	①砂少 ③褐灰	②良	内面研磨・光沢。波状口縁か。口縁部に集合沈線。	諸磯b式	
第70図 PL27	64	体部破片70区 U-10グリッド	①砂少 ③黒褐	②良	集合沈線で菱形文様を構成。内面研磨・光沢	諸磯b式	
第70図 PL28	65	体部破片70区 T-10グリッド	①砂少 ③にぶい赤褐	②良	爪形文で文様を構成。内外面研磨・光沢	諸磯b式	
第70図 PL28	66	体部破片70区 T-10グリッド	①砂少 ③黒褐	②良	爪形文で文様を構成。内面研磨・光沢	諸磯b式	
第71図 PL28	67	体部破片70区 T-11グリッド	①砂少 ③にぶい褐	②良	横位に爪形文を施文。内面軽い研磨。	諸磯b式	

図版番号 写真図版	遺物 番号	残存状態 出土位置	①脚土 ②色調	②焼成	文様の特徴等	時期	備考
第71図 PL28	68	体部破片70区 T-10グリッド	①砂少 ③にぶい赤褐	②良	内面研磨・光沢、縄文RL	諸磯b式	
第71図 PL28	69	体部破片70区 T-10グリッド	①砂少 ③にぶい赤褐	②良	67と同一個体、内面研磨・光沢、縄文RL	諸磯b式	
第71図 PL28	70	体部破片70区 T-11グリッド	①細砂多 ③にぶい橙	②良	縄文RLを地文に沈線で文様を描く。	加曽利E1式	
第71図 PL28	71	体部破片70区 T-11グリッド	①細砂多 ③にぶい赤褐	②良	断面菱餅状の隆帯で文様を描く。	勝坂3式	

第18表　出土石器観察表(縄文～近世)

東原Ⅰ遺跡 遺構外出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	器　種	石　材 残存状態	出土位置	計測値 [　]残存値 単位cm	特　徴
第34図 PL25	8	石鏃か	アナーク 欠損	80区1面	長:[2.5]　厚:0.5 幅:2.1　重:2.1g	凹基無茎鏃。脚、両先端部欠損。石鏃の可能性もある。
第34図 PL25	9	打製石斧	黒色安山岩 欠損	80区1面	長:[3.9]　厚:0.9 幅:3.0　重:14.0g	打製石斧の刃部片か。
第34図 PL25	21	火打ち石か	珪質変質岩	80区	長:3.0　厚:1.8 幅:3.1　重:18.2g	稜線部分に打撃痕、剥離が見られる。

東原Ⅱ遺跡 土坑出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	器　種	石　材 残存状態	出土位置	計測値 [　]残存値 単位cm	特　徴
第41図 PL25	4	石臼	粗粒輝石安山岩 欠損	70区8号土坑埋没土	径:32.3　厚:11.3 重:9,000g	粉磨形の下臼。半分に割れている。

東原Ⅱ遺跡 遺構外出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	器　種	石　材 残存状態	出土位置	計測値 [　]残存値 単位cm	特　徴
第48図 PL25	12	打製石斧	ほぼ完形 黒色頁岩	70区	長:9.2　厚:2.1 幅:5.4　重:117.0g	撥形。やや短身で基部両側縁に抉りを持つ。
第48図 PL25	13	打製石斧	黒色安山岩 欠損	80区	長:[3.2]　厚:1.0 幅:[4.5]　重:21.4g	刃部片。使用による摩耗が顕著に見られる。
第48図 PL25	14	剥片	珪質変質岩	70区	長:2.9　厚:1.0 幅:2.9　重:9.1g	石片。成形や使用痕などは見られない。
第49図 PL26	43	小型円盤礫	安山岩か	70区	長:2.8　厚:0.4 重:4.2g	ほぼ円形で薄い自然礫。用途不明。暮石の黒石か。
第49図 PL26	44	石臼	粗粒輝石安山岩 欠損	70区近現代石Ⅲ	径:29.8　厚:12.8 重:10,500g	粉磨き形の下臼。半分に割れている。
第49図 PL26	45	硯	粘板岩	70区近現代石Ⅲ	長:12.1　厚:1.7 幅:6.1　重:252.4g	表面海部は深く、陸部は中央部や中央部で緩一部欠損。裏面に浅い海部と陸部がある。

東原Ⅲ遺跡 土坑出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	器　種	石　材 残存状態	出土位置	計測値 [　]残存値 単位cm	特　徴
第58図 PL26	2	打製石斧か	黒色頁岩 欠損	70区2号土坑埋没土	長:9.0　厚:1.2 幅:5.0　重:59.3g	撥形。刃部欠損。比較的薄手。片面に一部自然面を残す。
第58図 PL26	3	敲石	黒色安山岩 完形	70区8号土坑埋没土	長:12.8　厚:2.6 幅:5.4　重:262.4g	側縁部に敲打による打痕が見られる。扁平な棒状の礫。
第58図 PL26	11	砥石	砥沢石	61区2号土坑埋没土	長:[5.4]　厚:1.6 幅:2.1　重:27.8g	4面使用。表は中央部が厚く山なりで、裏は平坦面。側面は中央部が磨り減る。

東原Ⅲ遺跡 堀立柱建物出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	器　種	石　材 残存状態	出土位置	計測値 [　]残存値 単位cm	特　徴
第58図 PL27	13	砥石	砥沢石(被熱か)	70区1号掘立柱建物 P11埋没土	長:5.9　厚:2.5 幅:3.2　重:60.3g	2面使用。表面は薄らか。刃の当たりが見られる。一部面取りがある。
第58図 PL27	14	碁石	粘板岩 完形	70区1号掘立柱 建物P13埋没土	径:2.3　厚:0.5 重:4.0g	黒石。表面一部褐色に変色。

東原Ⅲ遺跡 礎石建物出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	器　種	石　材 残存状態	出土位置	計測値 [　]残存値 単位cm	特　徴
第60図 PL27	29	砥石	粘板岩	61区1号礎石建物 確認面	長:12.6　厚:2.3 幅:7.5　重:481.4g	大型の砥石。2面使用で表面に刃の当たりがある。側面に加工痕が見られる。
第60図 PL27	30	砥石	珪質粘土岩 欠損	61区1号礎石建物 確認面	長:17.0　厚:1.4 幅:3.7　重:58.7g	2面使用。表面は薄らかで刃の当たりが見られる。裏面に一部加工痕が見られる。
第60図 PL27	31	石臼	粗粒輝石安山岩 欠損	61区1号礎石建物 確認面	長:[11.7]　厚:16.2 幅:[5.4]　重:343.3g	粉磨き形の上臼破片。

東原Ⅲ遺跡 旧河道出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	器　種	石　材 残存状態	出土位置	計測値 [　]残存値 単位cm	特　徴
第60図 PL27	41	打製石斧	黒色安山岩 完形	61区2面	長:10.0　厚:2.3 幅:5.4　重:140.7g	片面に大きく自然面を残す。両側縁に粗い成形剥離、使用痕あり。極めて粗い作り。
第60図 PL27	42	使用痕ある剥片	黒曜石	70区西部	長:3.8　厚:1.4 幅:3.1　重:13.2g	やや三角形に近い。両側縁に刃こぼれあり。

東原Ⅲ遺跡 遺構外出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	器　種	石　材 残存状態	出土位置	計測値 [　]残存値 単位cm	特　徴
第71図 PL28	72	石鏃	珪質頁岩 欠損	70区	長:3.7　厚:0.5 幅:2.1　重:2.6g	凹基無茎鏃。ほぼ完形だが先端部を欠く。円形の抉りを持つ。やや大型品。
第71図 PL28	73	石鏃か	黒曜石 欠損	70区U-10グリッド	長:1.1　厚:0.3 幅:1.6　重:0.4g	極めて小型の横形石鏃か。
第71図 PL28	74	打製石斧	黒色安山岩 欠損	70区	長:6.2　厚:1.7 幅:4.7　重:71.4g	打製石斧の基部片。撥形か。
第71図 PL28	75	打製石斧	黒色頁岩 完形	70区U-10グリッド	長:6.5　厚:1.7 幅:4.6　重:50.7g	小型の撥形。やや粗い作り。
第71図 PL28	76	敲石か	安山岩 欠損	61区A-9グリッド	長:6.7　厚:3.8 幅:7.8　重:238.1g	やや扁平な礫。表面に打痕あり。半分欠損。
第72図 PL28	105	砥石	砥沢石(被熱か)	61区A-9グリッド	長:6.3　厚:1.8 幅:2.4　重:4.5.8g	3面の使用。表は中央部が厚く、両端は薄く両面している。裏はほぼ平坦面。
第72図 PL28	106	砥石	砥沢石	61区	長:[4.8]　厚:2.2 幅:2.9　重:52.3g	2面使用。平坦だが中央部がやや薄い。面取りあり。刃の当たりがある。裏面は一部溝らか。

図版番号 写真図版	遺物番号	器種	石材 残存状態	出土位置	計測値 ［ ］残存値 単位cm	特徴
第72図 PL28	107	火打ち石か	珪質変質岩	61区A-9グリッド	長:3.6 厚:1.7 幅:3.2 重:23.0g	三角形に近く表面に自然面を残す。稜線部分に打撃痕が顕著に見られる。
第72図 PL28	108	火打ち石か	珪質変質岩	61区A-9グリッド	長:4.4 厚:2.5 幅:2.6 重:39.7g	稜線部分に打撃痕が顕著に見られる。

第19表　出土土器観察表(中・近世陶磁器)

東原Ⅰ遺跡 堀立柱建物出土遺物

図版番号 写真図版	遺物番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土　②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第24図 PL25	2	陶器 皿	胴部～底部80区 1号堀立柱建物	①～　② ③灰白	残存高1.1 底径6.5	志野。	中世末～ 近世前半	瀬戸・美濃

東原Ⅰ遺跡 落ち込み出土遺物

図版番号 写真図版	遺物番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土　②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第29図 PL25	3	陶器 碗	胴部片 90区1号落ち込み	①～　②良好 ③にぶい褐	残存高2.6	胴部外面に鉄絵。	近世か	

東原Ⅰ遺跡 焼土出土遺物

図版番号 写真図版	遺物番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土　②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第34図 PL25	10	陶器 小碗	口縁～胴部 80区	①～　②良好 ③灰黄	口径[6.0] 残存高2.3	灰釉。	近世後半	瀬戸・美濃
第34図 PL25	11	陶器 小碗	底部 89区	①～　②良好 ③灰白	残存高1.0 底径3.4	灰釉。被熱。	近世	瀬戸・美濃
第34図 PL25	12	染付 碗	口縁部片 79区	①～　②良好 ③灰白	口径[10.0] 残存高2.8	草花文。	近世後半	肥前
第34図 PL25	13	染付 碗	胴部片 80区	①～　②良好 ③灰白	残存高3.9		近世	肥前
第34図 PL25	14	染付 碗	2/3・口縁～底部 79区	①～　②良好 ③灰白	口径[8.0]　高5.1 底径3.4	虫籠文。見込みに崩れた五弁花。	近世	肥前
第34図 PL25	15	染付 皿	口縁～底部 80区	①～　②良好 ③灰白	口径13.8 残存高4.2		近世	肥前
第34図 PL25	16	陶器 皿	口縁部片 80区	①～　②良好 ③褐灰	残存高1.7	志野丸皿。被熱か。	中世末～ 近世前半	瀬戸・美濃
第34図 PL25	17	陶器 灯明皿	口縁～底部 80区	①～　②良好 ③にぶい黄橙	口径[10.0] 残存高1.6 底径[5.0]	灯明受皿。踏輪。	近世後半	瀬戸・美濃
第34図 PL25	18	染付 皿	口縁～底部 80区	①～　②良好 ③灰白	口径15.0 残存高2.9 底径[6.8]	型紙摺り。	近代	
第34図 PL25	19	陶器 すり鉢	口縁部 80区	①～　②良好 ③にぶい黄橙	－		近世後半	瀬戸・美濃
第34図 PL25	20	陶器 すり鉢	胴部 80区	①～　②良好 ③にぶい黄橙	－		近世	瀬戸・美濃

東原Ⅱ遺跡 土坑出土遺物

図版番号 写真図版	遺物番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土　②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第41図 PL25	3	陶器 碗	胴部片 80区4土坑理没土	①～　②良好 ③灰白	残存高3.4	尾呂茶碗か丸碗。	近世	瀬戸・美濃

東原Ⅱ遺跡 遺構外出土遺物

図版番号 写真図版	遺物番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土　②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第48図 PL25	15	在地土器 内耳土器	底部 70区近現代石垣	①細砂多　②良好 ③褐		鍋形。平底。外面やや粗い撫で。	中世	
第48図 PL25	16	在地土器 内耳土器？	胴部片 70区近現代石垣	①砂やや多　②良好 ③明赤褐	－	内面横撫で。外面やや粗い撫で。鍋形の内耳土器か。	中世？	
第48図 PL25	17	陶器 すり鉢	胴部片 70区近現代石垣	①～　②良好 ③にぶい黄橙			近世	瀬戸・美濃
第48図 PL25	18	在地土器？	胴部～底部 70区近現代石垣	①細砂少　②良好 ③灰黄褐	－	外面に縄目状の文様。研磨。胴部造平に金属の痕跡である錆痕が残る。火鉢か。	近世以降	
第48図 PL25	19	陶器 小碗	口縁～胴部 19-70区	①～　②良好 ③灰白	口径[6.0] 残存高2.3	灰釉。	近世後半	瀬戸・美濃
第48図 PL25	20	染付 小杯	完形 70区近現代石垣	①～　②良好 ③灰白	口径6.6 残存高2.5 底径2.6		近世	肥前
第48図 PL25	21	染付 小碗か小杯	口縁～胴部 80区	①～　②良好 ③灰白	口径[8.0] 残存高3.2		近世	肥前
第48図 PL25	22	磁器 小碗か小杯	口縁～胴部 80区	①～　②良好 ③灰白	口径[7.0] 残存高2.6	端反りの小碗か。		
第48図 PL26	23	染付 碗	口縁～底部 80区	①～　②良好 ③灰白	口径[9.0] 残存高5.0 底径4.0	草花文。	近世後半	波佐見
第48図 PL25	24	染付 碗	口縁～胴部 70区	①～　②良好 ③灰白	口径[9.0] 残存高3.5	雪輪草花文。	近世後半	波佐見
第48図 PL26	25	染付 碗	底部 70区	①～　②良好 ③灰白	残存高2.2 底径3.0	虫籠文。見込み崩れた五弁花。	近世	肥前
第48図 PL26	26	染付 碗	口縁～胴部 80区	①～　②良好 ③灰白	口径[10.0] 残存高3.8	口縁部内面に雷文。	近世後半	肥前
第48図 PL26	27	陶器 皿	底部 70区1面	①～　②良好 ③灰白	残存高0.7 底径[7.1]	鉄絵か。見込みに目痕1箇所。	近世	瀬戸・美濃

図版番号 写真図版	遺物 番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第48図 PL26	28	染付 碗	胴部片 70区	①一 ②良好 ③灰白	残存高2.7		近世	肥前
第48図 PL26	29	陶器 片口	口縁～胴部 70区	①一 ②良好 ③灰白	口径［15.6］ 残存高4.6		近世	肥前
第48図 PL26	30	染付 瓶	胴部片 80区	①一 ②良好 ③灰白	残存高2.6		近世	瀬戸・美濃
第48図 PL26	31	土製品	完形 70区	①砂少 ②良好 ③明褐	残存高1.0 底径3.0	焼成前。ほぼ中央に孔を穿つ。	近代か	
第48図 PL26	32	染付 碗	底部 70区近現代石垣	①一 ②良好 ③灰白	残存高2.7	型紙摺り。見込み松竹梅。	近代	
第48図 PL26	33	磁器 碗	底部 70区近現代石垣	①一 ②良好 ③灰白	残存高3.0 底径4.0	高台内に「№100」と隅刻。	近代	瀬戸・美濃
第48図 PL26	34	色絵 小杯	底部 70区近現代石垣	①一 ②良好 ③灰白	残存高1.35 底径2.6	高台内に「田」と染付。	近代以降	
第49図 PL26	35	陶器 鉢か	口縁～底部 70区	①一 ②良好 ③灰白	口径［40.0］残存高 11.3 底径［33.0］	内面のみ施釉。植木鉢か。	近世以降	
第49図 PL26	36	陶器 すり鉢	口縁部 70区	①一 ② ③暗赤褐	口径［34.0］高13.5 底径［15.8］	内面の使用痕跡顕著。	19c	堺・明石
第49図 PL26	37	在地土器？	ほぼ完形 70区近現代石垣	①砂多 ②良好 ③にぶい褐	—	粘土を板状に整形。平行面の凹みを持つ。内面以外は丁寧に研磨。金雲母を多く含む。40の一部で焼歪か。	近世以降	
第49図 PL26	38	在地土器？	胴部～底部 70区近現代石垣	① ② ③黒褐	残存高3.8 底径21.0	外面に縦目状の文様。やや粗い研磨。火鉢か。	近世以降	
第49図 PL26	39	在地土器？	口縁～底部 70区近現代石垣	① ② ③にぶい黄褐	口径22.0 残存高10.0 底径［21.0］	口縁部直径。外面に縦目状の文様。研磨。胴部通手に金属の痕跡である銹が残る。器面剥落。火鉢か。	近世以降	
第49図 PL26	40	在地土器？	胴部～底部 70区近現代石垣	①砂多 ②良好 ③褐	残存高16.7	板状にした粘土を張り巻状に整形。外面を丁寧に研磨。内面縦方向叩痕による補強。金雲母を多く含む。脚か。	近世以降	
第49図 PL26	41	色絵・人形	一部欠損 70区	①一 ②良好 ③灰白	高3.0	表面の型造りで中央で貼り合わせ。	近世以降	
第49図 PL—	42	土人形？	欠損 70区近現代石垣	①一 ②良好 ③橙	残存高1.55	形造り。		

東原Ⅲ遺跡 土坑出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第58図 PL26	4	陶器 隅形香炉	1/4・口縁～底部 61区2号土坑	①一 ②良好 ③にぶい黄橙	口径［11.0］高6.5 底径［11.0］		近世	瀬戸・美濃
第58図 PL26	5	陶器 碗	1/4・口縁部片 61区5号土坑	①一 ②良好 ③灰白	口径［11.0］ 残存高6.1	尾呂茶碗。	近世	瀬戸・美濃
第58図 PL26	6	染付 碗	1/4・口縁部片 61区9号土坑	①一 ②良好 ③灰白	口径［8.0］ 残存高4.3	虫篤文。	近世	肥前
第58図 PL26	7	染付 碗	胴部～底部片 61区8号土坑	①一 ②良好 ③灰白	残存高3.6 底径［3.0］		近代以降	
第58図 PL26	8	陶器 碗	胴部片 70区21号土坑	①一 ②良好 ③褐灰	残存高2.7	灰釉。	近世	瀬戸・美濃
第58図 PL26	9	染付 碗	口縁部片 61区10号土坑	①一 ②良好 ③灰白	口径［9.0］ 残存高2.7	草花文。	近世	波佐見

東原Ⅲ遺跡 ピット出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第58図 PL26	10	陶器 灯明皿	1/4・口縁～底部片 61区14号ピット	①一 ②良好 ③褐灰	口径［8.0］高1.4 底径［3.6］	口縁部に油煙を残す。	近世？	志戸呂？

東原Ⅲ遺跡 堀立柱建物出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第64図 PL27	15	陶器 皿	口縁部片 70区4号堀立柱建物？	①一 ②良好 ③灰白	口径［19.0］ 残存高1.2		近世	内野山窯跡
第64図 PL27	16	陶器 碗	底部片 70区4号堀立柱建物	①一 ②良好 ③灰白	残存高3.8 底径5.4	灰釉。	近世	瀬戸・美濃

東原Ⅲ遺跡 礎石建物・炉跡出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	計測値 ［ ］残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第66図 PL27	18	陶器 小碗	1/2・口縁～底部片 61区1号炉	①一 ②良好 ③灰白	口径［5.4］高3.4 底径2.8	灰釉。	近世後半	瀬戸・美濃
第66図 PL27	19	染付 碗	1/2・口縁～底部片 61区1号礎石建物	①一 ②良好 ③灰白	口径8.3 高3.7 底径3.6	雪輪草花文。	近世後半	波佐見
第66図 PL27	20	染付 碗	1/2・口縁～底部片 61区1号礎石建物	①一 ②良好 ③灰白	口径［10.0］高4.7 底径［3.4］	雪輪草花文。	近世後半	波佐見
第66図 PL27	21	染付 碗	口縁部片 61区1号 礎石建物Ⅲグリッド	①一 ②良好 ③灰白	口径［8.0］ 残存高3.4	虫篤文。	近世	肥前
第66図 PL27	22	染付 碗	2/3・一部欠損 61区1号礎石建物	①一 ②良好 ③灰白	口径8.0 高4.8 底径3.2	虫篤文。見込み崩れた五弁花。	近世	肥前
第66図 PL27	23	染付 碗	1/4・口縁～底部片 61区1号礎石建物	①一 ②良好 ③灰白	口径［8.0］ 残存高4.8		近世以降	
第66図 PL27	24	陶器 端反碗	1/2・口縁～底部片 61区1号礎石建物	①一 ②良好 ③にぶい黄橙	口径［9.2］高4.9 底径［3.4］		近世以降	
第66図 PL27	25	陶器 鉢か	口縁部片 61区1号 礎石建物Ⅲグリッド	①一 ②良好 ③灰白	口径［20.0］ 残存高6.6		近世以降	瀬戸・美濃？

図版番号 写真図版	遺物番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	計測値 [ ]残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第66図 PL27	26	染付 皿	1/4・1.口縁～底部片 61区1号遺石建物下89	①～ ②良好 ③灰白	口径[13.5] 高4.3 底径[8.0]	輪花皿。	近世	肥前
第66図 PL27	27	陶器 すり鉢	口縁部片 61区1号炉	①～ ②良好 ③にぶい黄褐	口径[32.0] 残存高3.7		近世後半	瀬戸・美濃
第66図 PL27	28	土人形	完形 61区1号鍛石建物	①～ ②良好 ③橙	残存高3.1	形造り。大黒様。泥めんこか。	近世以降	

東原Ⅲ遺跡 焼土出土遺物

図版番号 写真図版	遺物番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	計測値 [ ]残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第67図 PL27	40	染付 筒形碗か猪口	口縁部片 61区2号焼土	①～ ②良好 ③灰白	口径[7.0] 残存高1.8	崩れた水裂地に菊文。被熱か。	近世以降	肥前？

東原Ⅲ遺跡 旧河道出土遺物

図版番号 写真図版	遺物番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	計測値 [ ]残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第69図 PL27	43	在地土器 内耳土鍋	胴部片 61区B河道	①細砂少 ②良好 ③黒褐		鎬形。内面横撫で。外面でやや粗い撫で。外面器表は黒色。	中世	
第69図 PL27	44	白磁 皿	底部片 61区B河道	①～ ②良好 ③灰白	残存高1.2 底径4.5	白磁皿B群。見込みに目痕２ヶ所。	中世	

東原Ⅲ遺跡 遺構外出土遺物

図版番号 写真図版	遺物番号	種別・器種	残存率・部位 出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	計測値 [ ]残存値 単位cm	文様の特徴等	時期	備考
第71図 PL28	77	陶器 瓶子	胴部片 61区	①～ ②良好 ③灰白		古瀬戸中期Ⅰ～Ⅱ。瓶子Ⅱ類。	中世	瀬戸・美濃
第71図 PL28	78	染付 小坪か仏飯器	口縁部片 61区B-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径[6.6] 残存高1.8		近世	肥前
第71図 PL28	79	染付 小坪	1/3・一部欠損 61区A-10グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径[7.2 高3.2 底径2.8		近世	肥前
第71図 PL28	80	染付 小坪	1/2・1.口縁～底部片 61区B-10グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径7.0 高2.9 底径2.8		近世	肥前
第71図 PL28	81	染付 碗	口縁部片 61区B-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径[8.0] 残存高2.2	小碗か仏飯器。	近世	肥前
第71図 PL28	82	陶器 小碗	底部片 61区B-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	残存高2.3 底径2.4	灰釉。	近世後半	瀬戸・美濃
第71図 PL28	83	陶器 碗	底部片 70区Y-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	残存高1.6 底径6.0	高台部に鉄釉。丸碗か尾呂茶碗。	近世	瀬戸・美濃
第71図 PL28	84	陶器 碗	底部片 70区西	①～ ②良好 ③褐灰	残存高1.7 底径5.0	灰釉。	近世	瀬戸・美濃
第71図 PL28	85	染付 碗	胴部～底部 61区B-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	残存高4.8 底径[3.0]	見込みに五弁花か。	近世	肥前
第71図 PL28	86	染付 碗	底部片 70区西	①～ ②良好 ③灰白	残存高0.8 底径3.4	見込み崩れた五弁花。	近世	肥前
第71図 PL28	87	染付 碗	1/6・1.口縁～底部片 70区Y-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径[8.0] 残存高3.7	虫籠文。	近世	肥前
第71図 PL28	88	染付 碗	1.口縁～胴部片 61区A-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径8.0 残存高3.1	虫籠文。	近世	肥前
第72図 PL28	89	染付 碗	1.口縁部片 61区B-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径[11.0] 残存高4.0	丸文。	近世	波佐見
第72図 PL28	90	染付 碗	底部片 70区西	①～ ②良好 ③灰白	残存高2.3 底径[5.2]	見込み蛇ノ目釉剥ぎ。	近世	波佐見
第72図 PL28	91	染付 碗	1/3・1.口縁～底部片 61区A-10グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径[7.8] 残存高4.7	漆継。	近世以降	
第72図 PL28	92	染付 猪口か筒形碗	1.口縁部片 61区A-8グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径[6.0] 残存高4.4	竹文。	近世	肥前
第72図 PL28	93	染付 広東碗	底部片 70区Y-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	残存高2.0 底径[5.7]	見込み崩れた五弁花か。	近世	
第72図 PL28	94	染付 碗	1/2・1.口縁～底部片 70区西	①～ ②良好 ③灰白	口径6.0 高4.5 底径3.8	被熱。	近世以後	
第72図 PL28	95	陶器 皿	口縁部片 70区西	①～ ②良好 ③灰白	口径[12.0] 残存高1.5	志野。鉄絵皿。	中世末～ 近世前半	瀬戸・美濃
第72図 PL28	96	染付 碗？	底部片 61区B-10グリッド	①～ ②良好 ③灰白	残存高1.4 底径3.8	胴部を打ち欠き、土製円盤状にする。	近世	肥前
第72図 PL28	97	陶器 汁次？	口縁部片 70区西	①～ ②良好 ③にぶい黄橙	口径[5.0] 残存高2.5		近世？	瀬戸・美濃？
第72図 PL28	98	染付 皿	1/2・1.口縁～底部片 70区西	①～ ②良好 ③灰白	口径[13.6] 高3.3 底径7.2	型紙摺り。見込み松竹梅。	近代	
第72図 PL28	99	陶器 灯明皿	底部片 61区A-8グリッド	①～ ②良好 ③灰白	高0.5 底径[5.0]		近世以降	瀬戸・美濃？
第72図 PL28	100	陶器 灯明皿	口縁～底部片 表採	①～ ②良好 ③にぶい橙	口径[2.0] 高1.5 底径[7.0]	灯明受皿。被熱。	近世以降	
第72図 PL28	101	陶器 灯明皿	1/3・1.口縁～底部片 61区A-10,B-9グリッド	①～ ②良好 ③灰白	口径[11.2] 残存高2.1 底径[4.0]	灰釉。煙かに油煙を残す。	近世以降	京・信楽？
第72図 PL28	102	陶器 すり鉢	底部片 61区	①～ ②良好 ③にぶい黄橙	残存高4.8 底径[13.0]	内面の使用痕跡顕著。	近世	瀬戸・美濃
第72図 PL28	103	陶器 すり鉢	底部片 61区A-9グリッド	①～ ②良好 ③灰褐	残存高3.9 底径[15.0]			堺・明石
第72図 PL28	104	在地土器 鉢か	底部片 70区西	①細砂少 ②良好 ③黒褐	残存高5.8 底径[12.0]	底部を除く内面及び外面器表は黒色。底部ヘラによる調整か。	近世以降	

第20表　出土金属器観察表

東原Ⅰ遺跡 遺構外出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種　類	器種・器形	出土位置	計測値 ()推定値 [ ]残存値 単位cm	特　徴
第34図 PL25	22	鉄製品	鉄鍋	79区	長:1.9　厚:(0.7) 重:7.6g	鉄鍋底の一部残存。錆化著しい。

東原Ⅱ遺跡 遺構土坑出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種　類	器種・器形	出土位置	計測値 ()推定値 [ ]残存値 単位cm	特　徴
第41図 PL25	5	鉄製品	不明	80区4号土坑 埋没土	長:[3.5]　厚:0.2 幅:[4.6]　重:6.5g	錆化著しい。

東原Ⅱ遺跡 遺構外出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種　類	器種・器形	出土位置	計測値 ()推定値 [ ]残存値 単位cm	特　徴
第49図 PL26	46	銅製品	煙管・吸い口	70区近現代石Ⅲ	長:7.8　厚:(0.05) 幅:1.0　重:6.2g	雁字竹一部残存。
第49図 PL26	47	銅銭	開元通寶	70区近現代石Ⅲ	径:2.3　厚:0.05 孔:0.7　重:2.0g	寶左側一部欠損。
第49図 PL26	48	銅銭	文久永寶	70区近現代石Ⅲ	径:2.7　厚:0.11 孔:0.7　重:4.0g	完形。
第49図 PL26	49	硬貨	一銭	70区近現代石Ⅲ	径:2.3　厚:0.13 重:3.6g	完形。大正7年鋳造
第49図 PL26	50	硬貨	一銭	70区近現代石Ⅲ	径:2.3　厚:0.14 重:3.7g	完形。大正10年鋳造

東原Ⅲ遺跡 ピット出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種　類	器種・器形	出土位置	計測値 ()推定値 [ ]残存値 単位cm	特　徴
第58図 PL26	12	鉄製品	煙管・雁首	61区14号ピット 埋没土	長:[4.2]　厚:(0.05) 幅:[1.1](火皿)重:2.6g	火皿部破損。

東原Ⅲ遺跡 掘立柱建物出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種　類	器種・器形	出土位置	計測値 ()推定値 [ ]残存値 単位cm	特　徴
第58図 PL27	17	銅銭	寛永通寶	70区4号掘立柱建物 P2 埋没土	径:2.4　厚:0.1 孔:0.6　重:2.7g	完形。

東原Ⅲ遺跡 礎石建物出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種　類	器種・器形	出土位置	計測値 ()推定値 [ ]残存値 単位cm	特　徴
第66図 PL27	32	鉄製品	不明	61区1号礎石建物	長:[8.0]　厚:0.9 幅:1.2　重:10.7g	錆化著しい。刀子か。
第66図 PL27	33	銅製品	簪	61区1号礎石建物	長:(12.6)　厚:0.25 幅:0.35　重:4.7g	胴部装飾、耳かき残存。足1本欠損。
第66図 PL27	34	銅銭	寛永通寶	61区1号礎石建物	径:2.3　厚:0.09 孔:0.7　重:1.7g	完形。背文「元」
第66図 PL27	35	銅銭	寛永通寶	61区1号礎石建物	径:2.4　厚:0.07 孔:0.6　重:2.5g	完形。
第66図 PL27	36	銅銭	寛永通寶	61区1号礎石建物	径:2.4　厚:0.11 孔:0.6　重:2.6g	寶左側一部欠損。
第66図 PL27	37	銅銭	寛永通寶	61区1号礎石建物	径:2.2　厚:0.05 孔:0.7　重:1.1g	完形。
第66図 PL27	38	銅銭	寛永通寶	61区1号礎石建物	径:2.3　厚:0.09 孔:0.7　重:2.5g	完形。
第66図 PL27	39	銅銭	寛永通寶	61区1号礎石建物	径:2.3　厚:0.07 孔:0.7　重:1.9g	完形。

東原Ⅲ遺跡 遺構外出土遺物

図版番号 写真図版	遺物 番号	種　類	器種・器形	出土位置	計測値 ()推定値 [ ]残存値 単位cm	特　徴
第72図 PL28	109	鉄製品	釘	70区X-8グリッド	長:6.9　厚:0.25 幅:0.3　重:3.9g	完形。表面酸化で一部赤色化。頭部平らで内部空洞か。
第72図 PL28	110	鉄製品	不明	70区西	長:[7.3]　厚:0.55 幅:[3.6]　重:19.6g	錆化著しい。鐔刃部か。
第72図 PL28	111	銅製品	煙管・雁首	70区Y-9グリッド	長:[4.5]　厚:0.1 幅:1.5(火皿)重:9.8g	雁字竹一部残存。
第72図 PL28	112	鉄製品	不明	61区A-9グリッド	径:2.9　厚:(0.5) 重:5.7g	一部破損し錆化著しい。鐔の柄部分留め金か。
第72図 PL28	113	銅銭	寛永通寶	61区A-9グリッド	径:2.3　厚:0.08 孔:0.6　重:2.0g	完形。
第72図 PL28	114	銅銭	寛永通寶	61区A-10グリッド	径:2.3　厚:0.05 孔:0.7　重:1.8g	完形。

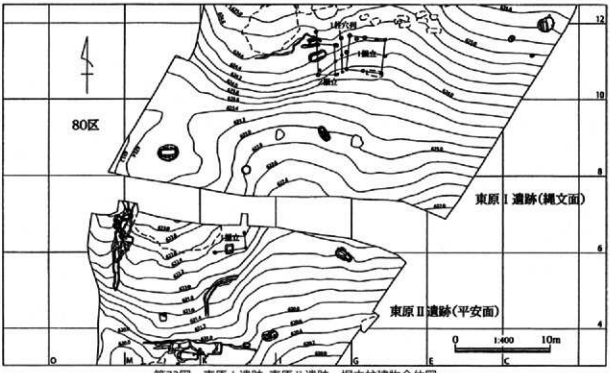
第４章　発掘調査の成果とまとめ

第１節　東原Ⅰ遺跡80区調査の建物群について

概要と周辺状況　80区では、3棟の掘立柱建物と柱穴列1条が見つかっている。1・2号掘立柱建物(建物と略す)は、近接する一団の建物であり、3号建物はそこから南西方向に20mほど離れている。この3号建物の北側に接して、東西に走向する公道（俗称：馬入れ）が存在する。調査前には樹木に覆われ旧状を止めていなかったが、調査区東方の崖端部で明瞭に残り、東側の斜面へ結ぶ主要な生活道であったと考えられる。この道は、調査区西方では町指定史跡「御塚」（浦野家初代墓所）の北側を廻り、林の集落と結んでいる。

建物の状況　1号建物、2号建物とも小規模であり、前者の面積は13.5㎡、後者は約半分の6㎡である。両者の主軸方位はずれているが、間にある1号柱穴列は2号建物の走向に一致している。1号柱穴列の長さは、2号建物の東辺より北に長い。塀などと考えることもできる。一方、2号建物が1号建物と共存すると考えれば、2棟の屋根をつなぐ柱のようにも見える。この場合、2号建物は東西棟と見て、1号建物と棟方向をそろえた方が具合良く、1号柱穴列が補完することとなる。規模から見て2号建物の屋根の方が、1号建物よりも低いと思われ、2つの建物の柱筋が微妙に違うのは、こうした高低差を考慮した結果かもしれない。なお、2つの建物の柱間を比較すると、桁方向である東西の柱間寸法は、1.88m前後・約6.2尺と一致している。

特記事項　2つの建物の西側には、平坦に削られた面があり削平面として図化を行った。明確な遺構は発見できなかったが、両建物に伴う敷地造成と考えられる。なお、北西に接して礫が円形に露呈しているのは、大桑泥流に起因する礫層が流れ山状に突き出したものと見られる。こうした高まりは調査区内の随所で確認できており、「御塚」も同様な成因にあると見られる。ただし、こうした高まりは調査前に痕跡を止めていなかったため、旧時に削平されていたと言える。一方で、こうした高まりの南東を削平して建物敷地とすることは、風除け対策に叶っており、建物が存在した時期には、北西に接して高まりがあったことも十分考慮されよう。



第73図　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡　堀立柱建物全体図

第２節　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の出土遺物について

平成20年、21年の発掘調査によって東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡から数多くの遺物が出土した。出土した遺物の時期は縄文時代から近現代までと幅広く、第21表において遺物数量を示したように1.土器（縄文・平安）2.石器（縄文から近現代）3.陶磁器（中近世）4.金属器（近現代）をそれぞれ合わせると総数965点となった。

本節では、上記の4項目について各遺跡における遺物の特徴や出土傾向などを考察し、まとめにかえたい。なお、前述の第3章第6項遺構外出土遺物、第17表から第20表の遺物観察表においても遺物の概略や遺物図を記しているので参照されたい。

まず、出土土器（縄文・平安）について、東原Ⅰ遺跡から出土した土器は24点である。ほとんどが縄文土器破片であり完形土器はない。時期不明も含まれるが、主に諸磯ｂ式・諸磯ｃ式など前期のものが多く後期も僅かではあるが出土している。弥生時代の土器はない。東原Ⅰ遺跡では、遺構の検出が少なく、ほとんどがグリッドから取り上げた遺物である。土坑や溝・落ち込みなどの遺構から出土した遺物は3点のみで、それぞれ埋没土からである。

東原Ⅱ遺跡では、出土した縄文土器は29点である。遺跡は別となっているが70区・80区は東原Ⅰ遺跡と重複している。東原Ⅰ遺跡と同様に時期不明も含まれるが、諸磯ｂ式・諸磯ｃ式など前期のほか加曽利E4式、堀之内2式など中期後半から後期の土器片も見られる。弥生時代の土器はない。陥し穴と考えられる土坑から出土した遺物もあるが、それぞれ埋没土からとなり、遺構との関連は不明である。遺跡周辺の地形は、表土下は起伏が激しく北側の山裾から南側に緩やかに下る傾斜面となり、周辺からの流れ込みによる可能性もある。町道によって東原Ⅱ遺跡と分かれている東原Ⅲ遺跡は、第27地区61区、第26地区70区に位置する。検出された土坑や中近世の掘立柱建物柱穴の埋没土から出土した遺物もあるが、遺構外から出土した遺物が圧倒的に多い。特に70区西側調査区からの遺構外出土遺物が88点となり3遺跡の中で最も多くなった。表土掘削直後から縄文土器破片が集中して出土したため、発掘調査当初は住居跡の検出も想定された。グリッドごとにベルトを設定し慎重に掘り下げたが、土坑（陥し穴を含む）以外は検出されなかった。70区T－10,11グリッド、U－12グリッドにおいて、早期後半の土器破片が数点ではあるが出土し、諸磯b式、黒浜式期など前期の土器が多く見られる。また、勝坂3式、加曽利E１式など中期もわずかではあるが出土している。

東原Ⅲ遺跡の南西側に隣接して、林中原Ⅱ遺跡がある。沢の流れる谷地形によって、二つの遺跡は分かれている。林中原Ⅱ遺跡において、平成20年、21年の発掘調査に携わり、現在未報告ではあるが縄文中期から後期にかけて120軒以上の住居跡のほか弧状列石や土坑など貴重な遺構や遺物が数多く検出され、大集落の存在が明らかとなっている。東原Ⅲ遺跡の発掘調査では住居跡などの遺構は検出されなかったが、林中原Ⅱ遺跡の全容解明とともに東原Ⅲ遺跡の出土遺物との関連などが明らかとなることも期待される。

また、平安時代の遺物は少ないが東原Ⅲ遺跡61区において土師器小破片が2点検出されている。平成20年度に発掘調査した東原Ⅰ遺跡から百数十m西側に離れた場所で、平成17年に長野原町教育委員会によって東原Ⅰ遺跡の発掘調査が行われている。縄文土器のほか平安時代住居跡１軒、須恵器や土師器等の遺物が検出されている。周辺では縄文時代や平安時代の集落の営みが想定されるため、平成20年、21年の発掘調査において東原Ⅰ遺跡、東原Ⅱ遺跡、東原Ⅲ遺跡では2面調査を実施したが、住居跡などは検出されなかったが、発掘調査を行った東原Ⅰ遺跡、東原Ⅱ遺跡は、僅かな傾斜地ではあるがほぼ平坦地で日当たりのよい場所であるが、水場からやや遠いため住居には適さなかったのではないかと考えられる。

出土した石器は、東原Ⅰ遺跡が6点、東原Ⅱ遺跡が16点、東原Ⅲ遺跡が40点であり、縄文時代から近現代まで時期が広い。東原Ⅰ遺跡では、数は少ないが

第18表　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡　出土遺物数量一覧表

東原Ⅰ遺跡
出土土器（縄文・平安）

区	出土位置	出土数
79区		3
80区	1号土坑	1(掲1)
80区	6号土坑	1
80区		4
89区	1面	13(掲4)
90区	1号落ち込み	1
90区	1面	1
		合計　24

東原Ⅱ遺跡
出土土器（縄文・平安）

区	出土位置	出土数
70区	7号土坑	1
70区	近現代石垣	12
70区		9(掲5)
80区	4号土坑	1(掲1)
80区	6号土坑	2(掲1)
80区		4(掲1)
		合計　29

東原Ⅲ遺跡
出土土器（縄文・平安）

区	出土位置	出土数
61区	2号土坑	1
61区	1号ピット	2
61区	A-9	3
61区		2
70区	1号土坑	1
70区	2号土坑	2
70区	1号掘立P5	1(掲1)
70区	7号土坑	1
61区	3号掘立P6	1
70区	4号掘立P7	1
70区	2号掘立P3	1
70区	旧河道	1
70区	S-11	1
70区	S-12	1
70区	T-10	18(掲5)
70区	T-11	11(掲6)
70区	U-10	14(掲9)
70区	U-11	1(掲1)
70区	U-12	7(掲5)
70区	Y-10	1
70区		34(掲1)
		合計　105

東原Ⅰ遺跡
出土石器（縄文から近世）

区	出土位置	出土数
80区		1(掲1)
89区		1
89区	1面	3(掲2)
90区		1
		合計　6

東原Ⅱ遺跡
出土石器（縄文から近世）

区	出土位置	出土数
70区	5号土坑	1
70区	6号土坑	1
70区	8号土坑	1(掲1)
70区	近現代石垣	4(掲2)
70区	1面	1
70区		5(掲3)
80区	1号溝	2
80区		1(掲1)
		16

東原Ⅲ遺跡
出土石器（縄文から近世）

区	出土位置	出土数
61区	2号土坑	1(掲1)
61区	1号掘立P13	1(掲1)
61区	1礎石建物	3(掲3)
61区	A-7	1
61区	A-9	8(掲3)
61区		3(掲2)
70区	2号土坑	1(掲1)
70区	8号土坑	1(掲1)
70区	9号ピット	2
70区	1号掘立P11	2(掲1)
70区	1号掘立P13	1(掲1)
70区	2号掘立P3	1
70区	3号掘立P4	2
70区	T-11	1
70区	U-10	5(掲2)
70区	U-11	2
61区	旧河道	3(掲2)
70区		2(掲2)
		合計　40

東原Ⅰ遺跡
出土陶磁器（中・近世）

区	出土位置	出土数
79区	1面	5
79区		19(掲2)
80区	1号掘立	1(掲1)
80区	表採	6
80区		52(掲8)
89区		8(掲1)
90区	1号落ち込み	1(掲1)
90区	1面	6
90区		4
		合計　102

東原Ⅱ遺跡
出土陶磁器（中・近世）

区	出土位置	出土数
70区	6号土坑	1
70区	8号土坑	1
70区	1面	1
70区	3トレンチ	1
70区	近現代石垣	141(掲14)
70区		55(掲9)
70区	トレンチ	3
80区	4号土坑	1(掲1)
80区		33(掲5)
		合計　237

東原Ⅲ遺跡
出土陶磁器（中・近世）

区	出土位置	出土数
61区	1号礎石建物	11(掲9)
61区	1号炉	6(掲2)
61区	2号土坑	1(掲1)
61区	4号土坑	1
61区	5号土坑	1(掲1)
61区	8号土坑	1(掲1)
61区	9号土坑	4(掲1)
61区	10号土坑	1(掲1)
61区	A-7	7
61区	A-8	28(掲1)
61区	A-9	81(掲3)
61区	A-10	32(掲3)
61区	B-8	1
61区	B-9	30(掲5)
61区	B-10	8(掲2)
61区	10号ピット	1
61区	14号ピット	1(掲1)
61区	2号焼土	1(掲1)
61区	旧河道	2(掲2)
61区		6(掲2)
61区	西	3
61区	表採	1(掲1)
70区	9号土坑	1
70区	14号土坑	1
70区	21号土坑	1(掲1)
70区	3号掘立P1	1
70区	4号掘立	1(掲1)
70区	4号掘立P7	1(掲1)
70区		19(掲10)
70区	西	89
70区	U-12	1
70区	X-9	2
70区	X-10	3(掲1)
70区	Y-8	6
70区	Y-9	13
70区	Y-10	7
70区	Y-11	1
		375

東原Ⅰ遺跡
出土金属類

区	出土位置	出土数
79区		1(掲1)
80区	表採	1
		合計　2

東原Ⅱ遺跡
出土金属類

区	出土位置	出土数
70区	近現代石垣	8(掲5)
80区	4号土坑	1(掲1)
		合計　9

東原Ⅲ遺跡
出土金属類

区	出土位置	出土数
61区	14号ピット	1(掲1)
61区	1号礎石建物	8(掲8)
61区	A-7	1
61区	A-8	1
61区	A-9	3(掲3)
61区	X-9	1
61区	Y-9	1
70区	4号掘立P2	1(掲1)
70区	X-8	1(掲1)
70区	Y-9	1(掲1)
70区	西	1(掲1)
		合計　20

※(掲)は本報告書掲載数

東原Ⅰ遺跡合計　134　　東原Ⅱ遺跡合計　291　　東原Ⅲ遺跡合計　540　　総計　965

遺構外から石鏃や打製石斧などが出土している。東原Ⅱ遺跡では、打製石斧のほか70区石垣の周辺から粉ひき形の石臼の下臼破片、硯など近現代の遺物が多く出土している。東原Ⅲ遺跡では70区西側において縄文土器とともに大型の石鏃や石匙、打製石斧が出土した。また1号礎石建物が検出された61区では砥石、粉ひき形の石臼の下臼破片、火打ち石など全体的に近世の遺物が数多く出土する傾向となった。

出土遺物の中では近世から近代の陶磁器が最も多く、数は少ないが中世の内耳土器破片なども出土している。出土遺物の数量は、東原Ⅰ遺跡では102点、東原Ⅱ遺跡では237点、東原Ⅲ遺跡では375点となっている。本遺跡から出土した遺物の70％以上が陶磁器である。本報告書で掲載することができた遺物は一部となり、非掲載遺物が数多く存在する。東原Ⅰ遺跡では80区からの出土が59点と多く、2棟の掘立柱建物が検出されていることから関連する遺物の可能性がある。また、東原Ⅱ遺跡では同じく80区の遺構外出土遺物が34点となった。長野原町指定史跡「御塚」南側に隣接し、近世から現代の所産とした石垣周辺からは141点、70区は55点出土し、時期は中世から近世である。発掘調査を行った70区石垣南側は、林地区東側入口で街道沿いとなり、明治前期まで高札場があった場所である。表土掘削すると攪乱が激しく、掘立柱建物や礎石建物などは検出されなかった。本報告書では、石垣周辺から出土した中近世の遺物を遺構外として扱っているが、出土状態などから中近世から現代まで屋敷などが継続的に存在していた可能性が高い。東原Ⅲ遺跡では、61区1号礎石建物の出土陶磁器11点、1号炉から6点出土している。周辺グリッドからも、180点以上出土し、礎石建物に関連する可能性が極めて高い。時期は江戸時代後期から明治時代前期である。70区は中世から近世の掘立柱建物跡４棟が検出され、柱穴からも陶磁器片が出土している。2号掘立柱建物周辺では中世内耳土器の出土があり、陶器片（古瀬戸）も出土している。掘立柱建物の検出から中世から近世にかけての集落の存在が明らかとなった。

金属器類では、東原Ⅰ遺跡は2点で、1点は鉄鍋、1点は残存状態が悪く器種不明である。東原Ⅱ遺跡は、前述の70区石垣周辺から8点が出土し、煙管1点、開元通寶、文久永寶の古銭のほか大正期の一銭硬貨なども出土し、現代と判断される遺物も数多く含まれていた。東原Ⅲ遺跡では、61区1号礎石建物やその周辺から寛永通寶8点、煙管、簪などが出土し、掘立柱建物や礎石建物に関連した遺物が数多く出土した。東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡から検出された遺構とともに、出土した数多くの遺物をとおして周辺地域の様相が徐々に解明されることとなった。

第３節　東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡で確認された土坑（陥し穴）について

平成20年度の東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の発掘調査では、101基の土坑が検出されている。東原Ⅰ遺跡48基、東原Ⅱ遺跡21基、東原Ⅲ遺跡32基である。遺構の検出状況や埋没土の観察などから、土坑が築かれた時期は縄文時代から近現代と幅広い。また、検出された土坑のうちおよそ半数が陥し穴となったため、本節ではこの陥し穴に焦点を当て考察していきたい。

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡では、埋没状況や規模、形状などからおもに中・小型獣を捕獲するために構築されたと考えられる陥し穴が検出されている。八ッ場ダム建設工事に伴う発掘調査によって、長野原町では横壁勝沼遺跡、花畑遺跡、立馬Ⅰ遺跡・立馬Ⅱ遺跡・立馬Ⅲ遺跡、三平Ⅰ遺跡・三平Ⅱ遺跡、楡木Ⅱ遺跡、東吾妻町では上郷Ａ遺跡、上郷Ｂ遺跡、細谷Ｂ遺跡など各遺跡で多くの陥し穴が検出され、報告書に詳細が記されている。また、陥し穴の検出数の増加とともに研究も進みつつあり、各報告書において分類案や構築時期が示されている。形状などを基にした分類では、おもに円型、楕円型、溝型となり、さらに以下のような細分化も行われている。

円型Ⅰ類：底面形楕円型、底面にピットがある。
円型Ⅱ類:底面形円形、複数のピットがあり深い。
円型Ⅲ類：底面形円形または楕円形でピットがなく、深い。
円型Ⅳ類：底面形楕円形または円形で底面にピットがない。
楕円型Ⅰ類：底面形隅丸長方形で非常に深い。
楕円型Ⅱ類：底面形長方形でピットがない。
溝型Ⅰ類：底面形溝状で複数のピットがある。
溝型Ⅱ類：底面形溝状でピットがない。

引用文献　石田真「ぐんま史料研究第25号『群馬県北西部における古代の陥し穴の意義』平成20年」

平成20年度の東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡の発掘調査によって、東原Ⅰ遺跡では、検出された土坑48基のうちおよそ半数となる20基、東原Ⅱ遺跡は8基、東原Ⅲ遺跡は3基であった。本報告書による分類は、以下のとおりである。

遺跡／形状	東原Ⅰ遺跡	東原Ⅱ遺跡	東原Ⅲ遺跡
円型Ⅰ	—	—	—
円型Ⅱ	—	—	—
円型Ⅲ	5	1	1
円型Ⅳ	2	2	—
楕円型Ⅰ	2	1	—
楕円型Ⅱ	11	4	2
楕円型Ⅲ	—	—	—

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡では、円型Ⅲ・Ⅳ、楕円型Ⅰ・Ⅱの４種類に分類することができた。溝型の陥し穴は、本遺跡から検出されず、全体のおよそ1/3が楕円形Ⅱ類となり、長径・深さともに2mほどの大型の陥し穴もあった。

陥し穴の内部施設では、底面において小ピット状の凹みを持つ土坑があり、東原Ⅰ遺跡89区4号土坑は、逆茂木痕跡とみられる小ピットがあった。また、底面や壁面に工具使用痕と見られる土坑も検出され、東原Ⅰ遺跡79区1号・2号土坑、80区1号・6号であり、80区10号土坑は、底面および壁面の工具痕跡が顕著に認められる。東原Ⅱ遺跡80区7号土坑、東原Ⅲ遺跡70区1号土坑においても底面において工具痕跡があり、これらすべてが楕円形Ⅱ類となっている。

出土数は少ないが、遺物を伴う陥し穴もあり、東原Ⅰ遺跡80区1号・6号土坑、東原Ⅱ遺跡70区5号・6号、80区6号土坑、東原Ⅲ遺跡70区1号・2号土坑である。縄文土器や石器のほか中近世の陶磁器などが含まれている。いずれの遺物も埋没土からの出土であり、出土遺物のみによって陥し穴が築かれた時期を特定することはできい。

東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡において検出された陥し穴の時期は、遺構検出状況や遺構断面の埋没土観察によって、ほとんどが平安時代以降の可能性が高いと判断した。陥し穴の時期を判断することは難しいが、埋没土中に含まれる火山灰などを基にして判断できる場合もある。一例としては、東原Ⅰ遺跡89区1号土坑（第18図PL5）がある。表土から遺構底面まで遺構断面観察を行うことができた土坑であり、基本土層の第Ⅲ層から掘り込まれていることが分かる。詳細な化学分析は行っていないが、土坑断面の5層・7層には、浅間粕川テフラ（As-Kk）と見られる火山灰などを遺構上部において確認することができた。これらの火山灰などを指標とすると、陥し穴が構築された時期は、浅間粕川テフラ以前のものである可能性が高く、平安時代に築かれたものと考えられる。さらに、89区1号土坑から南西方向におよそ5m離れた89区2号土坑においても浅間粕川テフラ（As-Kk）が第3層に含まれていた。ともに円形Ⅲ類となり、陥し穴の築かれた時期を特定することのできる事例として注目される土坑である。

今後の発掘調査においても、遺構断面などによる埋没土混入物の観察などを注意深く行い、構築時期などの分析をさらに進めていく必要がある。

発掘調査報告書抄録

書名ふりがな	ひがしはらいちいせき・ひがしはらにいせき・ひがしはらさんいせき
書名	東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡
副書名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第35集
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	502集
編著者名	宮下　寛
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2011※※
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

遺跡名ふりがな	ひがしはらいちいせき
遺跡名	東原Ⅰ遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざはやし
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字林
市町村コード	10424
遺跡番号	0038
北緯（日本測地系）	363233
東経（日本測地系）	138410
北緯（世界測地系）	363244
東経（世界測地系）	1384048
調査期間	20080701－20081111
調査面積	5327
調査原因	八ッ場ダム建設工事に伴う国道145号線新設工事
種別	散布地
主な時代	縄文/平安/中世/近世
遺跡概要	散布地-縄文-土坑＋ピット-土器＋石器/平安-土坑/中近世-掘立柱建物２＋土坑＋ピット-土器＋陶磁器＋柱穴列1＋溝4＋落ち込み1＋倒木2＋金属器類
特記事項	縄文時代から古代の土坑(陥し穴)、中世から近世の削平面、掘立柱建物、柱穴列
要約	縄文時代の遺構は土坑が検出され、前期から後期の土器や打製石斧などの遺物が出土している。縄文時代以降からは、陥し穴が20基検出されている。中近世では、削平面から２棟の掘立柱建物と柱穴列が復元され、陶磁器などの遺物が多数出土している。

遺跡名ふりがな	ひがしはらにいせき
遺跡名	東原Ⅱ遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざはやし
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字林
市町村コード	10424
遺跡番号	0039
北緯（日本測地系）	363229
東経（日本測地系）	138410
北緯（世界測地系）	363240
東経（世界測地系）	1384048
調査期間	20080701－20081111
調査面積	2366
調査原因	八ッ場ダム建設工事に伴う国道 145 号線新設工事
種別	散布地
主な時代	縄文 / 中世 / 近世
遺跡概要	散布地-縄文 - 土坑＋ピット - 土器＋石器 / 平安 - 土坑 / 中近世－掘立柱建物 1＋土坑＋ピット - 土器＋陶磁器＋溝 3＋焼土 2＋石器＋金属器類
特記事項	縄文時代から古代の土坑（陥し穴）、中世から近世の削平面、掘立柱建物、柱穴列、溝跡
要約	縄文時代前期から後期の土器などの遺物が出土している。縄文時代以降の土坑（陥し穴）が 9 基検出されている。中近世では削平面から 1 棟の掘立柱建物が復元されている。中世内耳土器のほか、近世では陶磁器、石器、金属器などの遺物が多数出土している。

遺跡名ふりがな	ひがしはらさんいせき
遺跡名	東原Ⅲ遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざはやし
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字林
市町村コード	10424
遺跡番号	0040
北緯（日本測地系）	363227
東経（日本測地系）	1384059
北緯（世界測地系）	363238
東経（世界測地系）	1384047
調査期間	20080701－20090626
調査面積	1266
調査原因	八ッ場ダム建設工事に伴う国道 145 号線新設工事
種別	集落 / 散布地
主な時代	縄文 / 平安 / 中世 / 近世
遺跡概要	集落 / 散布地 - 縄文 - 土坑＋ピット＋旧河道 - 土器＋石器 / 中近世-掘立柱建物 4＋礎石建物 1＋土坑＋ピット＋焼土 4＋土器＋石器＋陶磁器＋金属器類
特記事項	中世から近世の掘立柱建物、近世の礎石建物
要約	縄文時代早期から後期の土器などの遺物が出土している。縄文時代以降の土坑（陥し穴）が 3 基検出されている。中近世では 4 棟の掘立柱建物が復元され、中世内耳土器や古瀬戸などの陶磁器が出土し注目される。江戸時代後期の礎石建物 1 棟が検出されている。

写 真 図 版

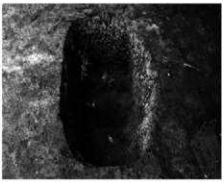
89区２面全景(南から)

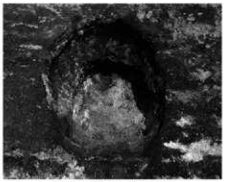
89区東部(南から)

89区・90区中央部・南東部全景(南から)

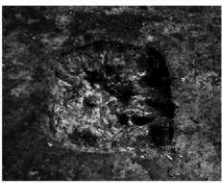
79区・80区・89区・90区全景(南から)

79区１号土坑(南から)


79区２号土坑(南から)


79区３号土坑(南から)

79区４号土坑(南から)

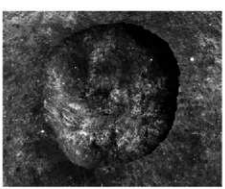

79区６号土坑(西から)

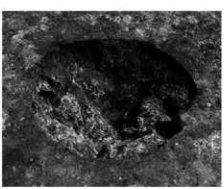
79区１号～５号土坑(西から)

80区１号土坑(南から)

80区２号土坑(南から)

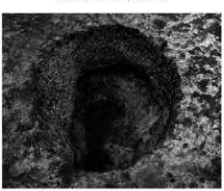
80区３号土坑(南から)

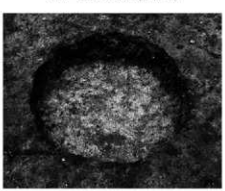

80区４号土坑(南から)

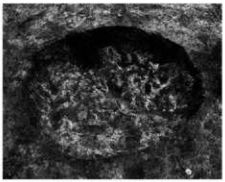

80区５号土坑(南から)

79区・80区土坑群(西から)

80区６号土坑(南から)

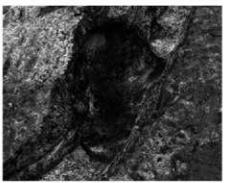

80区７号土坑(西から)


80区８号土坑(東から)

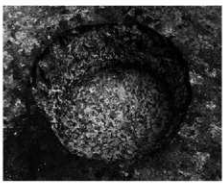

80区９号土坑(西から)

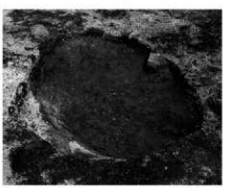
80区10号土坑(北から)

80区11号土坑(西から)


80区12号土坑(東から)

80区13号土坑(西から)


80区14号土坑(南西から)

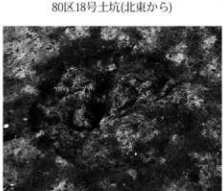

80区15号土坑(西から)

80区16号土坑(北から)

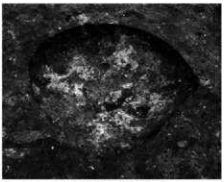
80区17号土坑(南から)

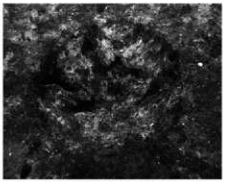
80区17号～ 23号土坑(南西から)

80区18号土坑(北東から)


80区19号土坑(南東から)

80区20号・21号土坑(北西から)


80区22号土坑(南西から)

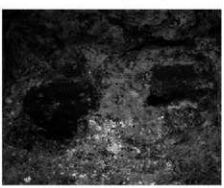

80区23号土坑(南東から)

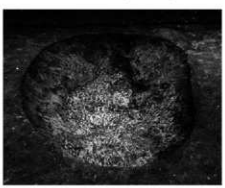
89区１号土坑(西から)

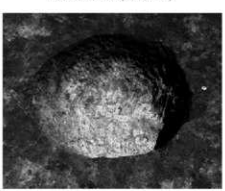
89区２号土坑(北から)

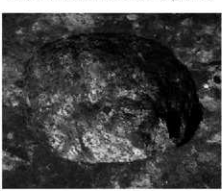
89区３号土坑(南東から)

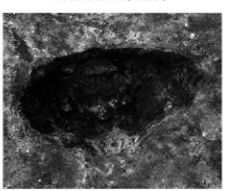
89区４号土坑(南西から)


89区４号土坑P1・P2セクション(南から)

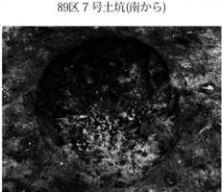

89区５号土坑(西から)

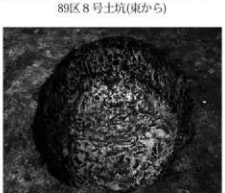

89区６号土坑(南から)


89区７号土坑(南から)


89区８号土坑(東から)

89区９号土坑(西から)

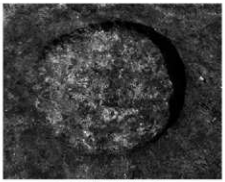

89区10号土坑(西から)

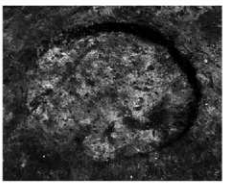

89区11号土坑(東から)

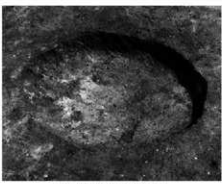
東原１遺跡

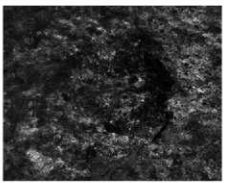
89区12号土坑(南から)

89区13号土坑(南東から)


89区14号土坑(南から)

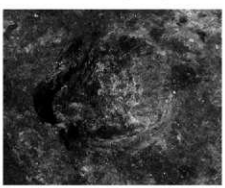

89区15号土坑(南から)

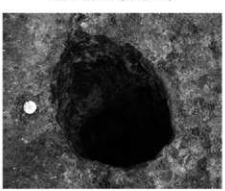

89区16号土坑(南から)


89区17号土坑(南から)

89区18号土坑(南西から)

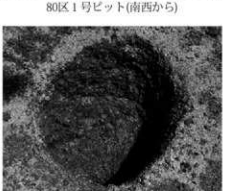
90区１号土坑(東から)

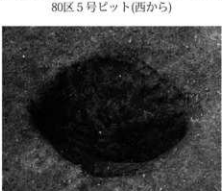

79区１号ピット(南から)

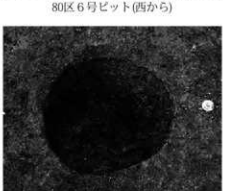

80区１号ピット(南西から)

80区５号ピット(西から)

80区６号ピット(西から)


80区７号ピット(南から)

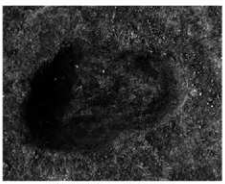

89区１号ピット(南から)

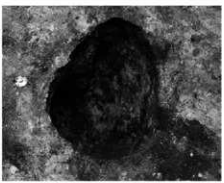

89区２号ピット(南から)

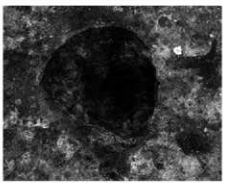
89区３号ピット(南から)

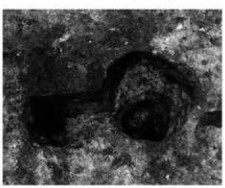
89区４号ピット(南から)

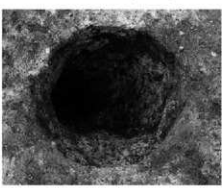
89区５号ピット(南から)


89区６号ピット(南から)

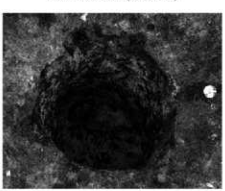

89区７号ピット(東から)

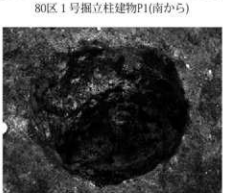

89区８号ピット(東から)


89区９号ピット(南東から)

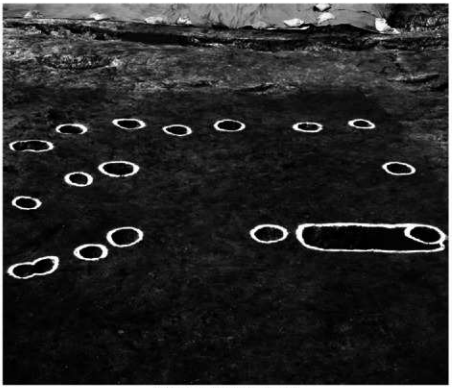

89区10号ピット(南から)

89区P1・3・4・90区P1(南から)

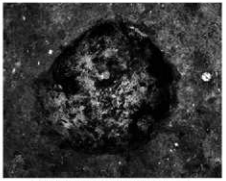

80区１号掘立柱建物P1(南から)

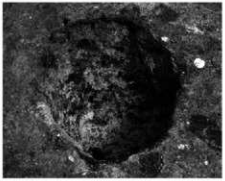

80区１号掘立柱建物P2(南から)

80区１号・２号掘立柱建物・１号柱穴列(空撮)

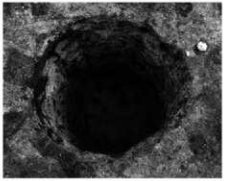

80区１号掘立柱建物(南から)

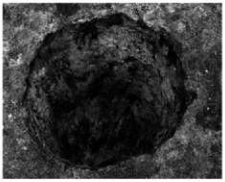
80区１号掘立柱建物P3石出土状態（西から）

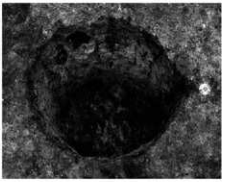

80区１号掘立柱建物P4南から)

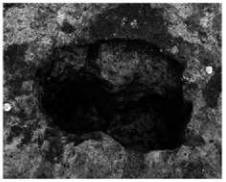

80区１号掘立柱建物P5(南から)

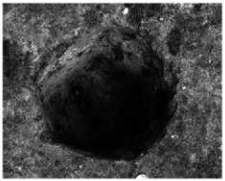
80区１号掘立柱建物P6(西から)

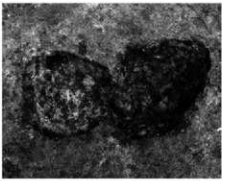

80区１号掘立柱建物P7(西から)

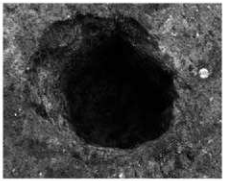

80区１号掘立柱建物P8(南東から)


80区１号掘立柱建物P9(南から)

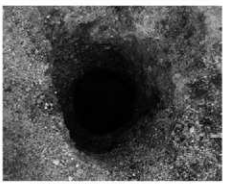

80区２号掘立柱建物P1・80区P4(南から)


80区２号掘立柱建物P2(西から)


80区２号掘立P3・80区P2(南から)

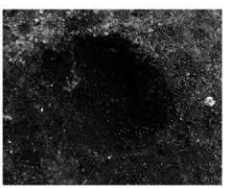

80区２号掘立柱建物P4(西から)

80区２号掘立柱建物P4工具痕(東から)



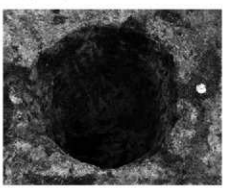
80区２号掘立柱建物P5(西から)

80区２号掘立柱建物(南から)

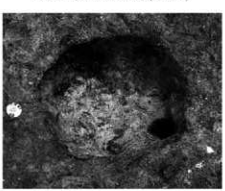


80区２号掘立柱建物P6(西から)

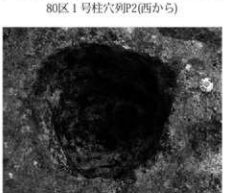
80区１号柱穴列(南から)



80区１号柱穴列P1(西から)



80区１号柱穴列P2(西から)

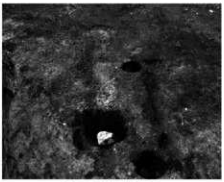


80区１号柱穴列P3(西から)

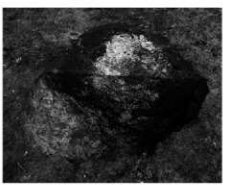
80区削平面(南西から)

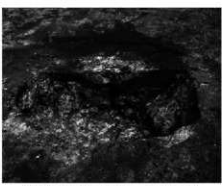
東原１遺跡

80区１号溝(東から)


80区２号溝(東から)

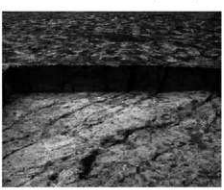
90区１号・２号溝・１号落ち込み(南から)


80区１号立木セクション(南から)


80区２号立木 セクション(南から)

90区１号倒木セクション(東から)

79区１号TP北壁セクション(南から)


79区５号TP北壁セクション(南から)

80区１号TP西壁セクション(東から)

80区２号TP北壁セクション(南から)

80区４号TP北壁セクション(南から)

89区１号TP西壁セクション(東から)

89区４号TP西壁セクション(南から)

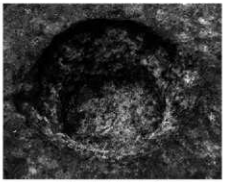
89区TP設置状況(南から)

調査風景 (東から)

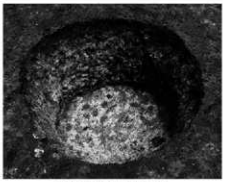
70区２面全景(北から)

70区２面全景(南から)

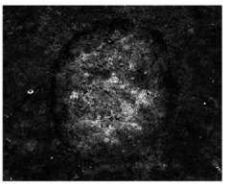
70区２面全景(北から)



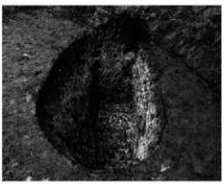
70区１号土坑(西から)



70区２号土坑(南から)



70区３号土坑(南から)



70区４号土坑(西から)

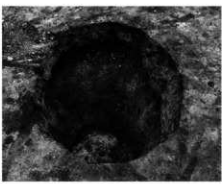
70区５号土坑(南から)

70区６号土坑(南から)

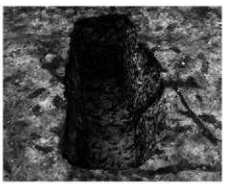
70区７号土坑(西から)

70区８号土坑(西から)

70区９号土坑(北西から)

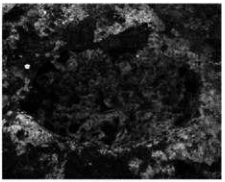


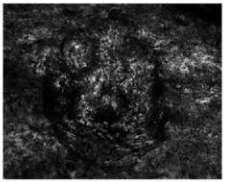
70区10号土坑(南から)

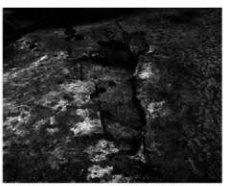


70区11号土坑(東から)

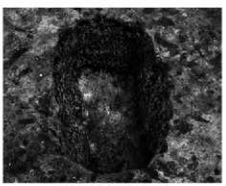
80区１号土坑(南から)

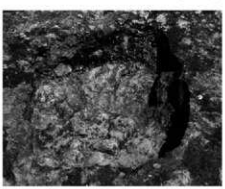

80区２号土坑(南から)


80区３号土坑(西から)


80区４号・５号土坑・３号溝・削平面(東から)

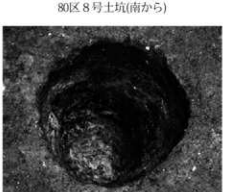
80区６号土坑(東から)

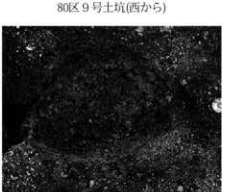

80区７号土坑(西から)

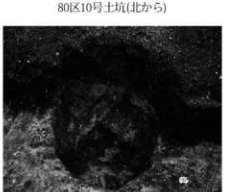

80区８号土坑(南から)

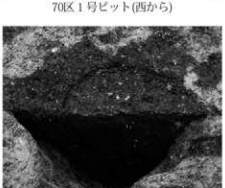
80区９号土坑(西から)

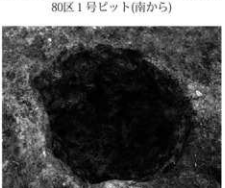
80区10号土坑(北から)

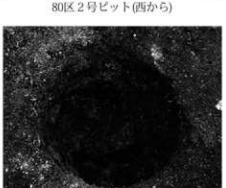

70区１号ピット(西から)


80区１号ピット(南から)


80区２号ピット(西から)

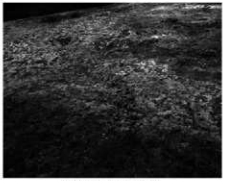

80区１号掘立柱建物P1セクション(南から)


80区１号掘立柱建物P2(西から)

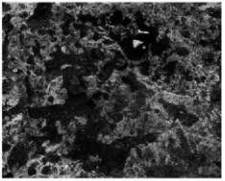

80区１号掘立柱建物P3(南から)

80区１号掘立柱建物(南から)

80区１号溝石出土状態(南から)


80区２号溝(東から)

80区１号焼土(南から)


80区２号焼土(南から)

70区石垣出土状態(南から)

70区石垣近接(南から)

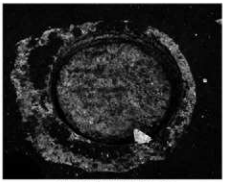
70区石垣(南から)

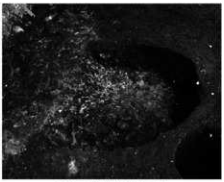
70区３号TP北壁セクション(南から)

70区４号TP西壁セクション(南から)

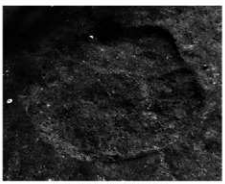
70区５号TP西壁セクション(南から)

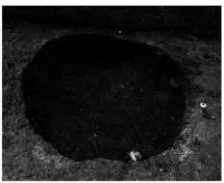
調査風景 (西から)


61区１号土坑(南東から)

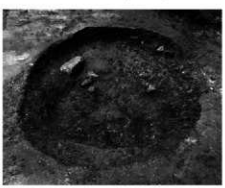

61区２号土坑(南から)

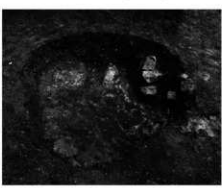
61区３号土坑(南から)

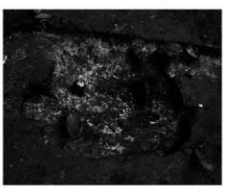

61区４号土坑(北から)


61区５号土坑(西から)

61区６号土坑(西から)


61区７号土坑(北から)


61区８号土坑(南から)

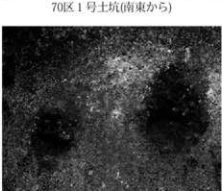

61区９号土坑(南から)

61区10号土坑(南から)

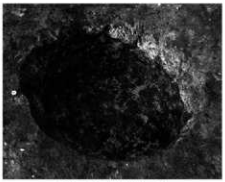
70区１号土坑(南東から)

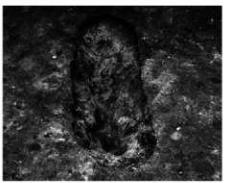
70区２号土坑(北から)

70区３号土坑(東から)

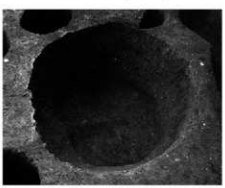

70区３号土坑底部近接(東から)

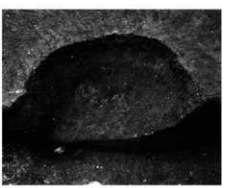
70区４号土坑(南から)

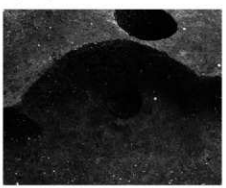

70区５号土坑(南から)

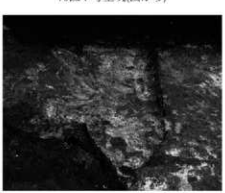

70区６号土坑(東から)

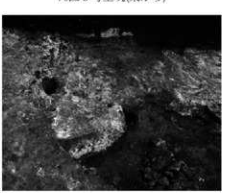
70区東部全景(東から)

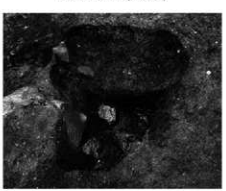

70区７号土坑(西から)

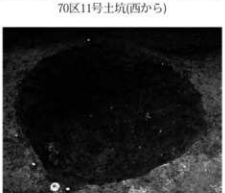

70区９号土坑(東から)

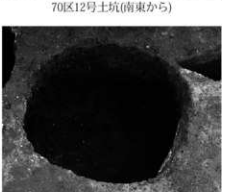

70区10号土坑(西から)


70区11号土坑(西から)

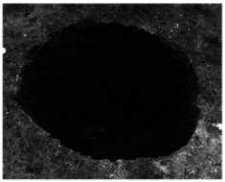

70区12号土坑(南東から)


70区13号土坑(南東から)


70区14号土坑(西から)

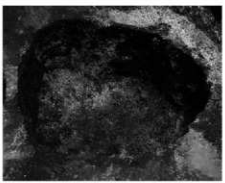

70区15号土坑(西から)

70区16号土坑(西から)

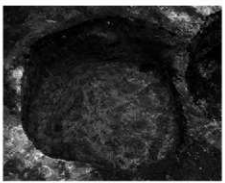

70区17号土坑(西から)

70区18号土坑(南から)

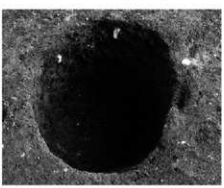
70区19号土坑(西から)

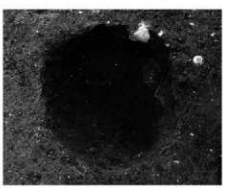

70区20号土坑(西から)

70区21号土坑(西から)


70区22号土坑(西から)

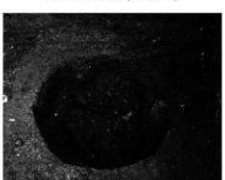
61区１号ピット(西から)

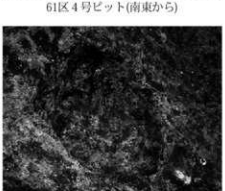

61区２号ピット(南西から)

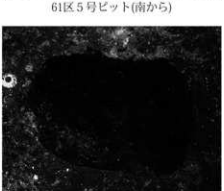

61区３号ピット(南西から)

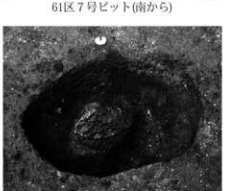
61区４号ピット(南東から)

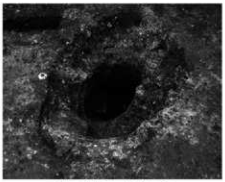
61区５号ピット(南から)


61区７号ピット(南から)

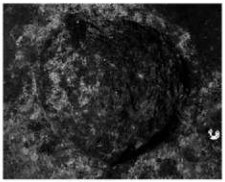

61区８号ピット(南から)

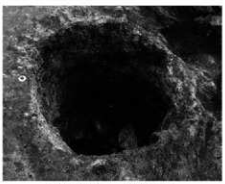

61区９号ピット(南から)

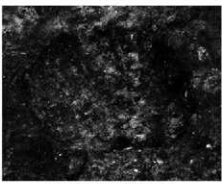

61区10号ピット(南東から)

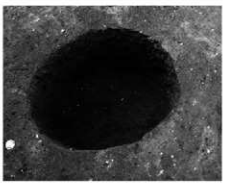

61区11号ピット(北から)

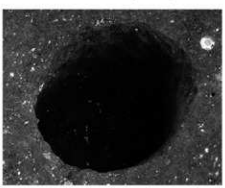
61区12号ピット(南から)

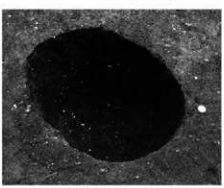

61区13号ピット(南から)

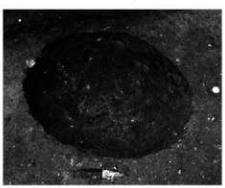

61区14号ピット(北から)

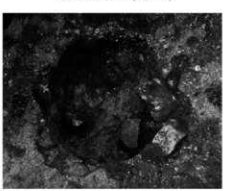

61区15号ピット(北から)

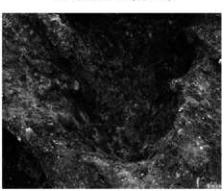

70区２号ピット(東から)

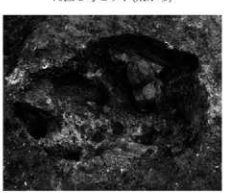

70区３号ピット(西から)

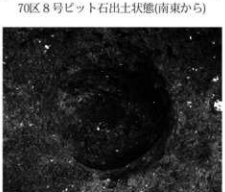

70区４号ピット(西から)

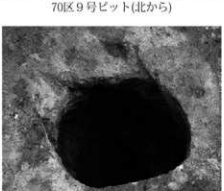

70区５号ピット(東から)

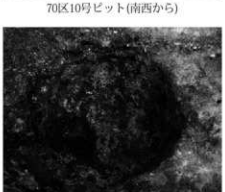

70区８号ピット石出土状態(南東から)

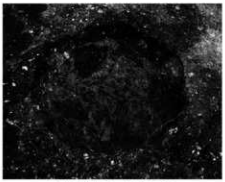

70区９号ピット(北から)

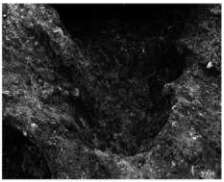

70区10号ピット(南西から)

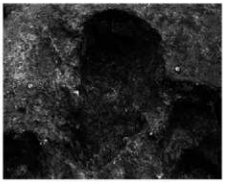

70区11号ピット(西から)

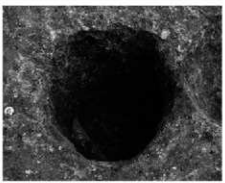

70区12号ピット(西から)

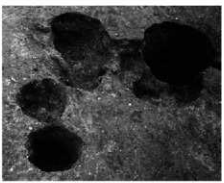

70区13号ピット(南から)

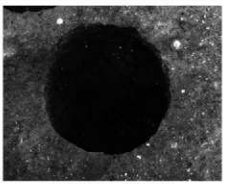

70区14号ピット(南から)

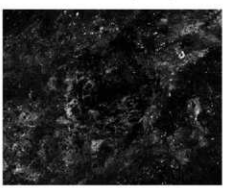

70区９号・15号ピット(北から)

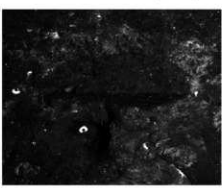

70区16号ピット(西から)

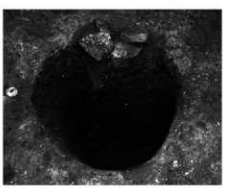

70区17号ピット(南から)

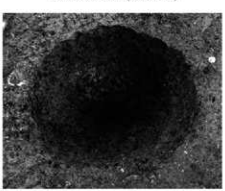

70区９・15・16・18号ピット(南から)

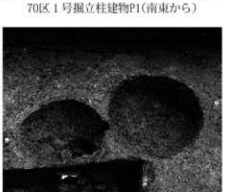

70区18号ピット(南から)


70区19号ピット(南東から)


70区20号ピット(南から)


70区21号ピット(南から)

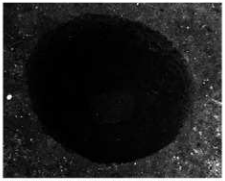

70区１号掘立柱建物P1(南東から)


70区１号掘立柱建物P2・61区P6(西から)

70区１号～４号掘立柱建物(東から)

70区１号～４号掘立柱建物(東から)

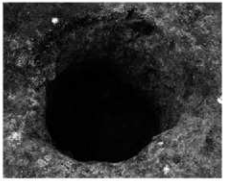
70区１号掘立柱建物P3(西から)



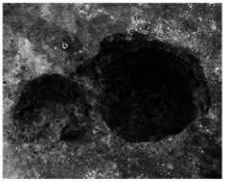
70区１号掘立柱建物P4石出土状態(東から)

70区１号掘立P5・４号掘立P2(西から)

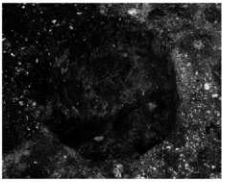
70区１号掘立柱建物P5(西から)



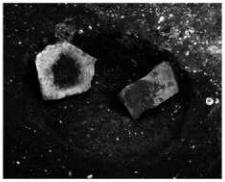
70区１号掘立柱建物P6(東から)



70区１号掘立柱建物P7(北から)



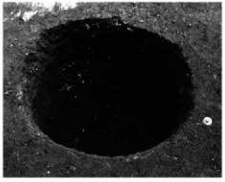
70区１号掘立柱建物P8(南から)



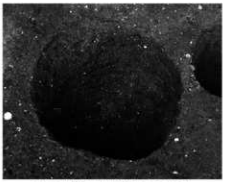
70区１号掘立柱建物P9石出土状態(西から)

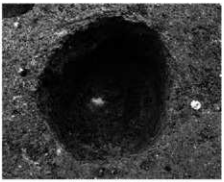
70区１号掘立柱建物P10(東から)

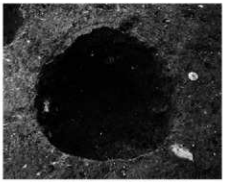
70区１号掘立P11・3号掘立P1(北西から)

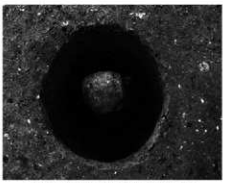


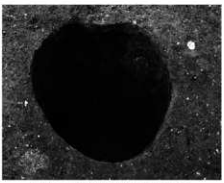
70区１号掘立柱建物P12(南から)

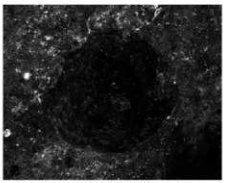

70区１号掘立柱建物P13(東から)

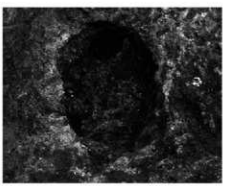

70区１号掘立柱建物P14(東から)

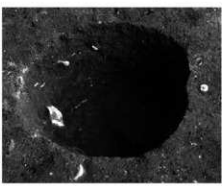

70区１号掘立柱建物P15(南から)


70区１号掘立柱建物P16(南から)

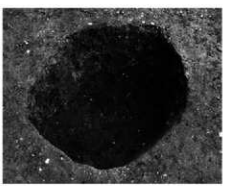

70区１号掘立柱建物P17(南から)

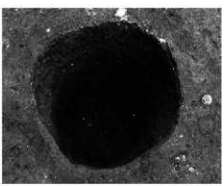

70区１号掘立柱建物P18(南から)

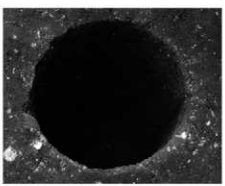

70区１号掘立柱建物P19(西から)

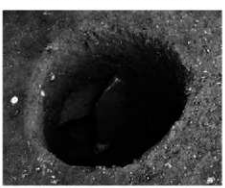

70区２号掘立柱建物P1(南から)

70区２号掘立柱建物P2(南から)

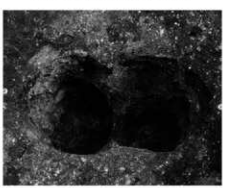

70区２号掘立柱建物P3(南から)

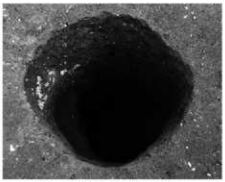

70区２号掘立柱建物P4(南から)

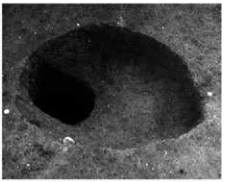

70区２号掘立柱建物P5(西から)

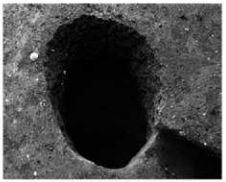

70区２号掘立柱建物P6石出土状態(東から)

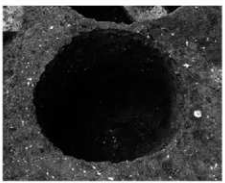
70区３号掘立P2・４号掘立P7(南から)


70区３号掘立P3・70区P1(北西から)

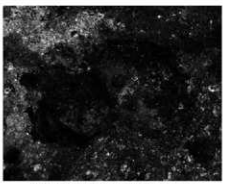

70区３号掘立柱建物P4(南から)

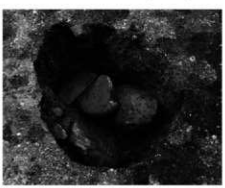

70区３号掘立柱建物P5・８号土坑(西から)


70区３号掘立柱建物P6(西から)

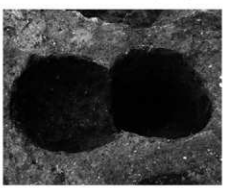

70区４号掘立柱建物P1(北から)

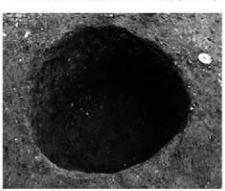
70区４号掘立柱建物P3(西から)


70区４号掘立P4・70区P7(西から)

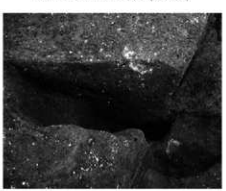

70区４号掘立柱建物P5石出土状態(西から)

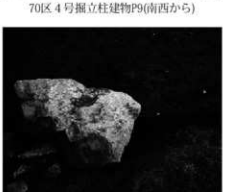
70区４号掘立柱建物P6石出土状態(東から)


70区４号掘立柱建物P8(南から)


70区４号掘立柱建物P9(南西から)

70区４号掘立柱建物P10(東から)


70区４号掘立P11セクション(南東から)


70区１号礎石建物S1セクション(南から)

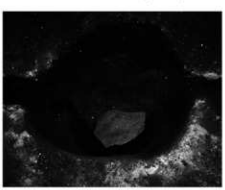
70区１号礎石建物S3セクション(南から)

70区１号礎石建物S4セクション(南から)

70区１号礎石建物S5セクション(南から)

70区１号礎石建物S5(南から)

70区１号礎石建物(東から)


70区１号礎石建物S5・掘方下(南から)

70区１号礎石建物S6セクション(南から)

70区１号礎石建物S7セクション(南から)

70区１号礎石建物S8セクション(南から)

70区１号礎石建物S9セクション(南から)

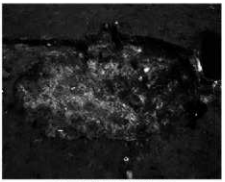
70区１号礎石建物S10セクション(南から)

70区１号礎石建物S12セクション(南から)

70区１号礎石建物遺物出土状態(南から)

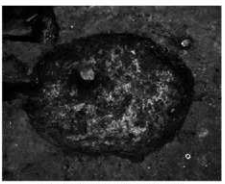
70区１号礎石建物北側石垣(南から)

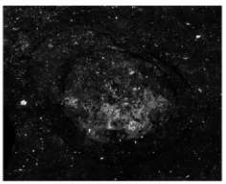
61区１号炉使用面(南から)

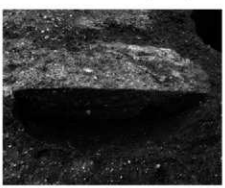

61区１号炉堀方(南から)

61区１号焼土確認状態(南から)

61区２号焼土確認状態(西から)


61区２号焼土掘方(南から)


70区１号焼土(西から)


70区２号焼土セクション(北から)

70区１号トレンチセクション(南から)

70区２号トレンチセクション(南東から)

61区旧河道全景(北から)

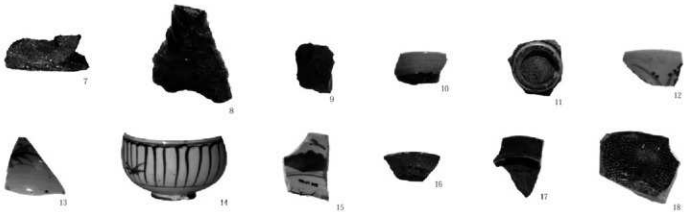
61区旧河道全景(南から)

701区20･21･22号土坑(北から)

調査風景 (東から)

調査風景 (東から)

調査風景 (東から)



東原Ⅰ遺跡79区・80区・89区遺構外出土遺物

東原Ⅱ遺跡70区・80区土坑出土遺物

東原Ⅱ遺跡70区・80区遺構外出土遺物

東原Ⅱ遺跡70区・80区遺構外出土遺物

東原Ⅲ遺跡61区・70区土坑・ピット出土遺物

東原Ⅲ遺跡

13 14

70区１号掘立柱建物

東原Ⅲ遺跡

15 16 17

70区４号掘立柱建物

18

19 20 21 22 23

24 25 26 27 28

29 30 31 32 33

34 35 36 37 38 39

東原Ⅲ遺跡１号礎石建物・１号炉出土遺物

東原Ⅲ遺跡

40

61区２号焼土

46

41 42 43 44

東原Ⅲ遺跡61区旧河道出土遺物

45

47 48 49 50 51 52

53 54 55 56 57 58

59 60 61 62 63 64

東原Ⅲ遺跡61区・70区遺構外出土遺物

東原Ⅲ遺跡61区・70区遺構外出土遺物

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第502集
東原Ⅰ遺跡
東原Ⅱ遺跡
東原Ⅲ遺跡
八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵
文化財発掘調査報告書 第35集

2010年(平成22年)10月25日印刷
2010年(平成22年)10月26日発行
発行／編集　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377－8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784－2
電話 0279－52－2511(代表)
ホームページアドレス http://www.gunmaibun.org/
印刷／ジャーナル印刷株式会社